

平成27年度

---

新宿区多文化共生実態調査

---

概要版

平成27年12月

新宿区



## はじめに

平成27年12月1日現在、新宿区には区民全体の約11%にあたる約38,000人の外国人が暮らしています。今後、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、メイン会場となる新国立競技場のある新宿区にはさらに多くの外国人が訪れると予想されます。

区では、新宿に暮らす外国人も、新宿を訪れる外国人も、安心して快適に過ごすことのできるまちづくりを目指しています。多様な国籍や文化を持つ人が集住したり、訪れたりしていることを区の持つ特性と捉え、お互いの文化の違いを理解し、協力し合うことが、新宿のまちの発展につながるものと考えています

本調査では地域で共に暮らす日本人と外国人について、平成19年度に実施した前回調査からの経年変化のほか、地域における新たな課題や要望の掘り起こしを行いました。これらの調査結果を分析し、今後の多文化共生のまちづくりの推進に役立ててまいります。

最後になりますが、調査にご協力いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。

平成27年12月

新宿区長 吉住 健一



# 目次

第1部 調査実施の概要	1
第2部 調査結果の分析／アンケート調査編	9
第1章 外国人住民調査	9
I 調査回答者の属性	9
II 調査結果	19
1 日本での暮らし	19
2 日常生活でのトラブル	26
3 ことば（日本語学習）	30
4 災害時・緊急時の対応	34
5 必要な情報・サービスについて	38
6 多文化共生のまちづくり	41
7 自由回答（抜粋）	46
第2章 日本人住民調査	51
I 調査回答者の属性	51
II 調査結果	56
1 暮らしの実感	56
2 日常生活	63
3 偏見・差別	67
4 災害時・緊急時の協力	70
5 多文化共生のまちづくり	71
6 自由回答	78
第3部 調査結果の分析／インタビュー調査編	83
第1章 外国人住民調査(要約)	83
第2章 日本人住民調査(要約)	85
第3章 団体調査(要約)	87
第4部 考察	89
第5部 新宿区多文化共生まちづくり会議からの提言	97



# 第1部 調査実施の概要

## 1 調査の目的

新宿区は国籍や民族等の異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進するためさまざまな施策を実施している。

本調査は、地域で共に生活する日本人と外国人の現状を把握し、今後の多文化共生施策の推進に向けた基礎資料を得ることを目的として実施する。

## 2 調査実施

- 【調査主体】 新宿区
- 【調査支援】 新宿区多文化共生まちづくり会議
- 【調査委託】 株式会社 サーベイリサーチセンター

## 3 アンケート調査実施の概要

アンケート調査は、『外国人住民調査』及び『日本人住民調査』の2種類を実施した。

### (1) 調査概要

項目	内容	
調査地域	区内全域	
調査期間	平成27年7月30日（木）～8月26日（水）	
調査対象	外国人住民調査	区内に在住する20歳以上の男女個人 5,000人
	日本人住民調査	区内に在住する20歳以上の男女個人 2,000人
抽出方法	住民基本台帳から単純無作為抽出	
調査方法	◎郵送調査法（郵送配布－郵送回収）	
	外国人住民調査	抽出した対象者の国籍に合わせて、日本語と言語別調査票を組み合わせ（内訳は次ページ参照）、封筒にて郵送し、同封した返信用封筒にて回収 ◇調査票の発送約1週間後に、「お礼状兼ご協力のお祝いハガキ」を全対象者に配付し、調査協力へのお礼と回収率の向上を図った。
	日本人住民調査	調査票を封筒にて郵送し、同封した返信用封筒にて回収 ◇調査票の発送約1週間後に、「お礼状兼ご協力のお祝いハガキ」を全対象者に配付し、調査協力へのお礼と回収率の向上を図った。

(2) 言語別調査票発送の内訳 (外国人住民調査)

言語	発送数 (部)
日本語ルビ付	5,000
中国語	1,854
韓国語・朝鮮語	1,273
英語	675
ベトナム語	416
ネパール語	383
ミャンマー語	211
タイ語	100
フランス語	88
小計	5,000

(3) 調査項目

外国人住民調査	
調査回答者の属性	
(1) 性別	(5) 来日目的
(2) 年齢	(6) 在留資格
(3) 国籍	(7) 仕事
(4) 日本での滞在期間	(8) 同居人
1 日本での暮らし	
(1) 定住意向	(4) 日常生活で困った時の相談相手
(2) 日本の生活で困っていることや不満なこと	(5) 情報交換などができる仲間やグループ
(3) 日本人とのつき合い	
2 日常生活でのトラブル	
(1) 日本人とのトラブル経験	(2) 日本人から外国人に対する偏見や差別
3 ことば (日本語学習)	
(1) 日本語に関して困ること	(2) 日本語の学習意向
4 災害時・緊急時の対応	
(1) 災害時の準備	(3) 新宿区に望む災害対策
(2) 防災訓練の参加状況	
5 必要な情報・サービスについて	
(1) 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの	(3) 必要な情報を手に入れるために、新宿区にしてほしいこと
(2) 新宿区で生活していく上で知りたい情報	
6 多文化共生のまちづくり	
(1) しんじゅく多文化共生プラザについて	(3) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきと思うこと
(2) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと	(4) 新宿区への期待
7 自由回答	



日本人住民調査	
調査回答者の属性	
(1) 性別	(4) 同居人
(2) 年齢	(5) 親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方の有無
(3) 新宿での居住年数	(6) 海外での生活経験
1 暮らしの実感	
(1) 定住意向	(4) 近所に外国人が住むことについて感じるこ と
(2) 外国人増加の実感	(5) 外国人が生活上困っていたり不満があると 思われること
(3) 近所に外国人が住むことについての考え	
2 日常生活	
(1) 近所の外国人との付き合いの程度	(3) 外国人とのトラブル経験
(2) 外国人と生活していく上で大切なこと	
3 偏見・差別	
(1) 日本人から外国人に対する偏見や差別	
4 災害時・緊急時の協力	
(1) 新宿区に望む災害対策	
5 多文化共生のまちづくり	
(1) 多文化共生社会という言葉の認知度	(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿 区が力を入れるべきと思うこと
(2) しんじゅく多文化共生プラザについて	(5) 新宿区への期待
(3) 多文化共生のまちづくり推進のために自分 ができると思うこと	
6 自由回答	

(4) 居住地域区分と地域別住民基本台帳人口（平成27年9月1日現在※）

居住地域の集計にあたっては、地域的特性を把握するために、区役所および各特別出張所管轄に基づき新宿区内を10地域に分類する。

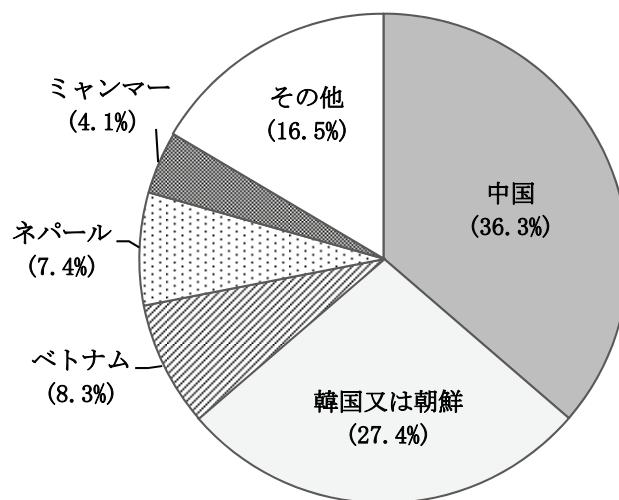
◆ 居住地域内該当町丁目

地域	該当町丁目	A	B	C	D (=B/A*100)
		住民基本 台帳人口 (人)	外国人 人口 (人)	日本人 人口 (人)	外国人 人口率 (%)
全体		331,083	37,269	293,814	11.3
四谷	四谷一丁目～四丁目、本塩町、三栄町、四谷坂町、若葉一丁目～三丁目、須賀町、左門町、信濃町、南元町、荒木町、舟町、愛住町、大京町、霞ヶ丘町、内藤町、片町、新宿一丁目～二丁目、新宿三丁目〔1番～14番、15番（一部）、16番、17番（一部）、30番、31番（一部）、32番〕、新宿四丁目、新宿五丁目〔1番～12番、13番（一部）、14番（一部）、15番～17番、18番（一部）〕、歌舞伎町一丁目〔1番（一部）〕、住吉町〔2番（一部）、8番（一部）〕	37,322	2,249	35,073	6.0
笹塚町	市谷田町一丁目～三丁目、市谷本村町、市谷砂土原町一丁目～三丁目、市谷左内町、市谷加賀町一丁目～二丁目、市谷甲良町、市谷船河原町、市谷長延寺町、市谷鷹匠町、市谷山伏町、市谷八幡町、神楽坂一丁目～六丁目、細工町、二十騎町、揚場町、津久戸町、東五軒町、西五軒町〔1番（一部）、2番～13番〕、赤城元町、南榎町、袋町、弘方町、北町、中町、南町、納戸町、南山伏町、北山伏町、白銀町、下宮比町、矢来町、若宮町、岩戸町、笹塚町、横寺町、筑土八幡町、新小川町、神楽河岸	37,169	1,466	35,703	3.9
榎町	市谷薬王寺町、市谷柳町、市谷仲之町、赤城下町、天神町、榎町、東榎町、早稲田町、若松町〔5番（一部）、6番（一部）〕、早稲田南町、馬場下町、原町一丁目～三丁目、喜久井町、築地町、弁天町、中里町、山吹町、改代町、水道町、早稲田鶴巻町、西早稲田二丁目〔1番（一部）〕、西五軒町〔1番（一部）〕、河田町〔2番（一部）〕	33,143	2,133	31,010	6.4
若松町	住吉町〔1番、2番（一部）、3番～7番、8番（一部）、9番～15番〕、市谷台町、富久町、河田町〔2番（一部）を除く〕、若松町〔1番～4番、5番（一部）、6番（一部）、7番～38番〕、戸山一丁目～二丁目、戸山三丁目〔1番～17番、19番、20番〕、余丁町〔8番（一部）を除く〕、西早稲田二丁目〔2番〕	30,282	2,663	27,619	8.8
大久保	新宿五丁目〔13番（一部）、14番（一部）、18番（一部）〕、新宿六丁目～七丁目、歌舞伎町二丁目、大久保一丁目～三丁目、戸山三丁目〔18番〕、西新宿七丁目〔2番（一部）、3番～6番〕、百人町一丁目～二丁目、三丁目〔29番（一部）を除く〕、余丁町〔8番（一部）〕	45,609	11,981	33,628	26.3
戸塚	戸塚町一丁目、戸山三丁目〔21番〕、下落合一丁目〔1番（一部）、3番（一部）、7番（一部）、12番、13番、16番（一部）、17番〕、西早稲田一丁目、西早稲田二丁目〔1番（一部）、3番～21番〕、西早稲田三丁目、高田馬場一丁目～二丁目、高田馬場三丁目〔1番～7番、8番（一部）、9番～15番、16番（一部）、18番（一部）、19番～46番〕、高田馬場四丁目、百人町三丁目〔29番（一部）〕、百人町四丁目	38,392	5,630	32,762	14.7
落合第一	上落合一丁目、上落合二丁目〔1番～3番（一部）、4番～14番、16番（一部）〕、下落合一丁目〔1番（一部）、2番、3番（一部）、4番～6番、7番（一部）、8番～11番、14番、15番、16番（一部）〕、下落合二丁目～四丁目、中落合一丁目〔1番～15番、17番（一部）、20番、21番〕、中落合二丁目、中落合三丁目〔1番～13番、14番（一部）、15番、18番（一部）、19番（一部）〕、中落合四丁目〔1番（一部）〕、中井二丁目〔1番～3番〕、高田馬場三丁目〔8番（一部）、16番（一部）、17番、18番（一部）〕	32,625	2,509	30,116	7.7
落合第二	上落合二丁目〔3番（一部）、15番、16番（一部）、17～29番〕、上落合三丁目、西落合一丁目～四丁目、中落合一丁目〔16番、17番（一部）、18番、19番〕、中落合三丁目〔14番（一部）、16番～18番（一部）、19番（一部）、20番～29番〕、中落合四丁目〔1番（一部）、2番～32番〕、中井一丁目、中井二丁目〔4番～30番〕	30,198	1,593	28,605	5.3
柏木	西新宿六丁目〔2番～4番、5番（一部）、6番（一部）、7番～9番、10番（一部）〕、西新宿七丁目〔1番、2番（一部）、7番～23番〕、西新宿八丁目、北新宿一丁目～四丁目	31,023	5,734	25,289	18.5
区役所 角筈所	西新宿一丁目～五丁目、西新宿六丁目〔1番、5番（一部）、6番（一部）、10番（一部）、11番～26番〕、歌舞伎町一丁目〔1番（一部）、2番～30番〕、新宿三丁目〔15番（一部）、17番（一部）、18番～29番、31番（一部）、33番～38番〕	15,320	1,311	14,009	8.6

※調査期間直近の人口を掲載

(5) 国籍別の外国人住民人口（平成27年9月1日現在）

順位	国名	外国人住民人口
1	中国	13,536
2	韓国又は朝鮮	10,203
3	ベトナム	3,076
4	ネパール	2,766
5	ミャンマー	1,541
6	米国	866
7	フランス	705
8	タイ	700
9	フィリピン	689
10	英国	343
11	インド	247
12	カナダ	190
13	インドネシア	162
14	バングラデシュ	157
15	オーストラリア	152
16	ロシア	147
17	ドイツ	140
18	ブラジル	129
19	マレーシア	123
20	モンゴル	116
：	：	：
：	：	：
：	：	：
<b>合計</b>	<b>113カ国(無国籍を除く)</b>	<b>37,269</b>



資料：新宿区住民基本台帳

(6) 回収結果

◆全体

	標本数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
外国人住民	5,000	1,275	25.5
日本人住民	2,000	949	47.5

※あて先不明による無効の件数

	無効数 (人)	無効率 (%)
外国人住民	175	3.5
日本人住民	24	1.2
合計	199	2.8

※調査期限を過ぎて回収した件数

	期限切れ回収件数 (人)	総回収数 (人)	総回収率 (%)
外国人住民	42	1,317	26.3
日本人住民	20	969	48.5

◆外国人住民調査 (母集団は2015年7月15日現在の20歳以上の外国人住民数)

	母集団	構成比 (%)	標本数	有効回収数	回収率 (%)
全体	32,726	100.0	5,000	1,275	25.5
四谷	2,100	6.4	320	86	26.9
箆笥町	1,191	3.6	182	67	36.8
榎町	1,783	5.4	273	88	32.2
若松町	2,121	6.5	324	103	31.8
大久保	10,573	32.3	1,616	333	20.6
戸塚	5,152	15.7	787	199	25.3
落合第一	2,197	6.7	336	102	30.4
落合第二	1,419	4.3	216	70	32.4
柏木	5,007	15.3	765	171	22.4
角筈・区役所	1,183	3.6	181	52	28.7
(無回答)					

◆日本人住民調査 (母集団は2015年7月15日現在の20歳以上の日本人住民数)

	母集団	構成比 (%)	標本数	有効回収数	回収率 (%)
全体	258,229	100.0	2,000	949	47.5
四谷	31,161	12.1	239	120	50.2
箆笥町	29,794	11.5	233	119	51.1
榎町	27,456	10.6	215	113	52.6
若松町	24,469	9.5	191	94	49.2
大久保	29,610	11.5	225	87	38.7
戸塚	29,057	11.3	223	108	48.4
落合第一	26,108	10.1	201	102	50.7
落合第二	25,073	9.7	195	85	43.6
柏木	22,703	8.8	177	72	40.7
角筈・区役所	12,798	5.0	101	44	43.6
(無回答)				5	

## (7) アンケート調査結果の見方

- ①集計は、小数点以下第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- ②回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- ③基数となるべき実数は、(n)として表示した。その比率は、基数を100%として算出した。
- ④本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑤図中の比率の小さい項目については、省略している場合がある。
- ⑥コメントを作成するにあたり原則、次のような表現方法を用いた。

例	表現
80.1～80.9%	約8割
81.0～82.9%	8割強
83.0～84.9%	8割台半ば近く
85.0～85.9%	8割台半ば
86.0～87.9%	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	9割近く
89.0～89.9%	9割弱

## 4 インタビュー調査実施の概要

アンケート調査だけでは把握しきれない区民の生活の課題や意識・実態、あるいは団体活動で把握している課題や寄せられる相談等を把握するために、下記の内容でインタビュー調査を実施した。

### (1) 調査概要

項目	内容		
調査地域	区内全域		
調査期間	平成27年7月31日（金）～平成27年10月14日（水）		
調査対象	外国人調査	区内に在住、在勤、在学する外国人	
	日本人調査	区内に在住、在勤、在学する日本人	
	団体調査	多文化共生に関わる団体や機関	
選定方法	外国人調査	区役所および各特別出張所管轄に基づき新宿区内を10地域に分け、人口分布、国籍、生活状況等を勘案して選定	
	日本人調査	区役所および各特別出張所管轄に基づき新宿区内を10地域に分け、人口分布、生活状況等を勘案して選定	
	団体調査	外国人コミュニティ団体、外国人支援団体、教育機関、商店会、医療機関、子育て支援機関を選定	
対象属性と対象数	外国人調査 (40人)	子育て中の方	12人
		雇用労働者	10人
		留学生	7人
外国にルーツを持つ青年		5人	
自営業者		5人	
不動産業者・大家		1人	
日本人調査 (40人)	町会役員	10人	
	学生	7人	
	子育て中の方	7人	
	ボランティア	6人	
	自営業者	5人	
	不動産業者・大家	3人	
	民生委員・児童委員	2人	
団体調査 (20件)	外国人コミュニティ団体	5件	
	外国人支援団体	5件	
	教育機関	4件	
	商店会	3件	
	医療機関	2件	
	子育て支援機関	1件	

### (2) 調査方法及び報告書への掲載について

インタビューは、地域文化部多文化共生推進課の職員が、ご協力いただいた方一人ひとり（各団体）に行った。また、インタビューの内容は原則として発言の趣旨を尊重して掲載した。

# 第2部 調査結果の分析／アンケート調査編

## 第1章 外国人住民調査

### I 調査回答者の属性

#### (1) 性別

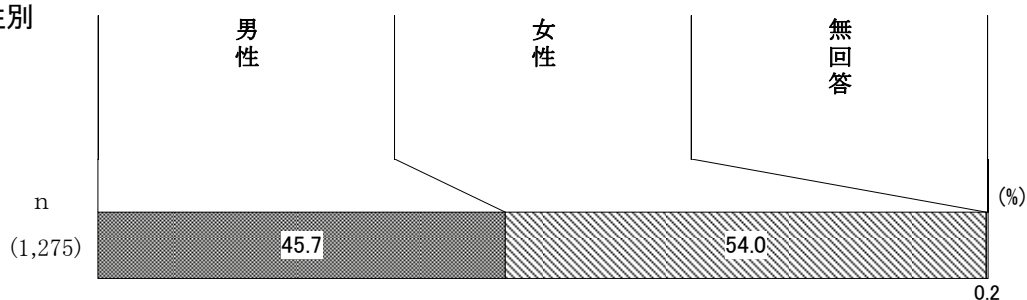
◇男性が4割台半ば、女性が5割台半ば近い

問1 あなたの性別は次のどちらですか。(○は1つだけ。性別の回答は任意です。)

[n=1,275]

1	男性	45.7%	2	女性	54.0%	(無回答)	0.2%
---	----	-------	---	----	-------	-------	------

<図表1> 性別



#### (2) 年齢

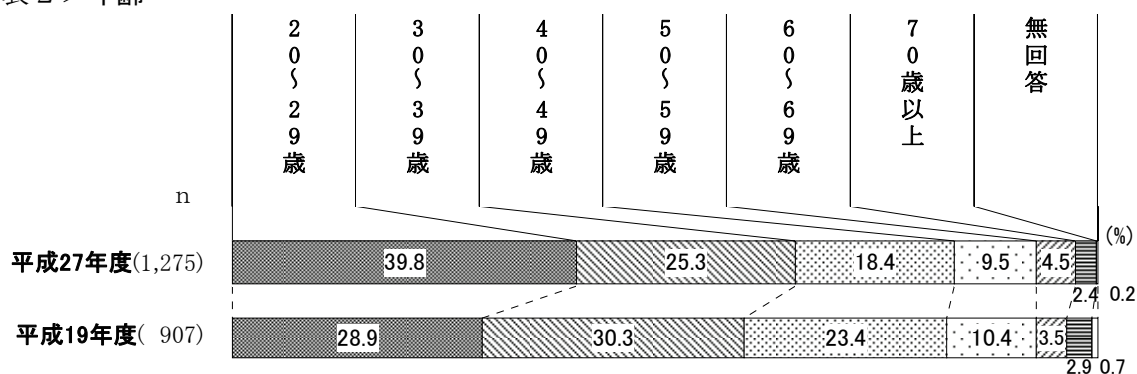
◇「20～29歳」が4割弱、「30～39歳」が2割台半ば

問2 あなたの年齢は次のどれですか。(○は1つだけ)

[n=1,275]

1	20～29歳	39.8%	4	50～59歳	9.5%	
2	30～39歳	25.3%	5	60～69歳	4.5%	
3	40～49歳	18.4%	6	70歳以上	2.4%	
					(無回答)	0.2%

<図表2> 年齢



### (3) 国籍

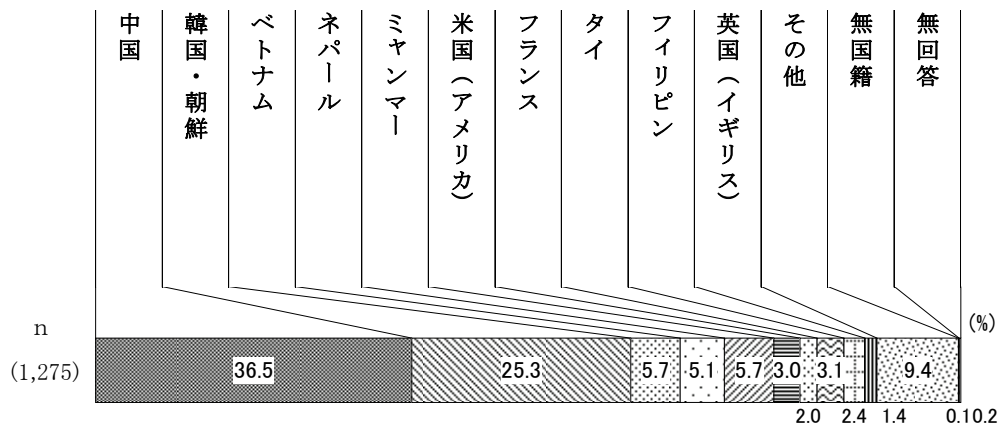
◇「中国」が3割台半ばを超え最も高く、次いで「韓国・朝鮮」が2割台半ば

問3 あなたの国籍は次のどれですか。(○は1つだけ)

[n=1,275]

1	中国	36.5%	5	ミャンマー	5.7	9	フィリピン	2.4
2	韓国・朝鮮	25.3	6	米国(アメリカ)	3.0	10	英国(イギリス)	1.4
3	ベトナム	5.7	7	フランス	2.0	11	その他	9.4
4	ネパール	5.1	8	タイ	3.1	12	無国籍	0.1
							(無回答)	0.2

<図表3> 国籍 (調査票の選択肢)





(4) 日本での滞在期間

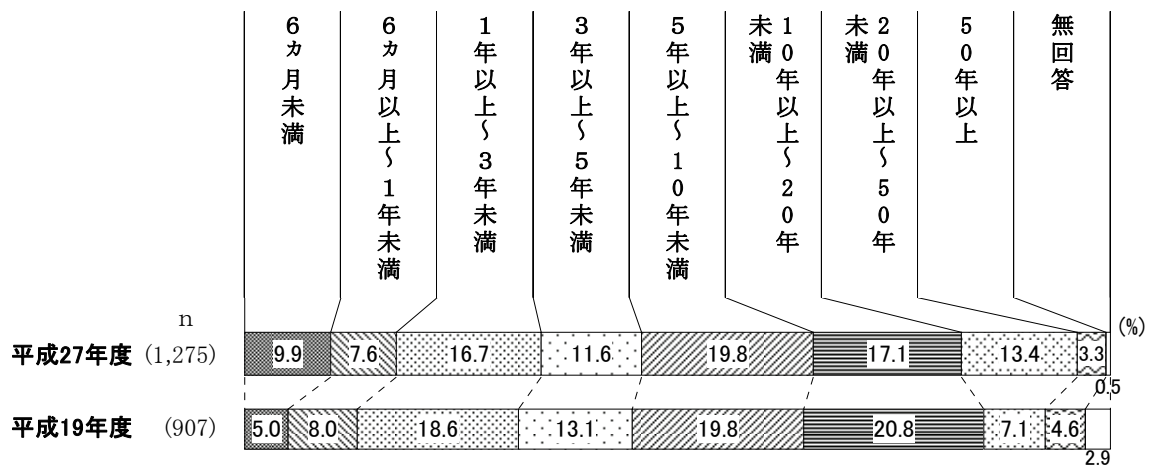
◇「5年以上～10年未満」が2割弱、「1年以上～3年未満」と「10年以上～20年未満」が1割台半ばを超える

問4 あなたはどのくらい日本に住んでいますか。日本に何度も来ている場合は、あわせた期間をお答えください。(○は1つだけ)

[n=1,275]

1	6カ月未満	9.9%	5	5年以上～10年未満	19.8
2	6カ月以上～1年未満	7.6	6	10年以上～20年未満	17.1
3	1年以上～3年未満	16.7	7	20年以上～50年未満	13.4
4	3年以上～5年未満	11.6	8	50年以上	3.3
				(無回答)	0.5

<図表4> 日本での滞在期間



(5) 来日目的

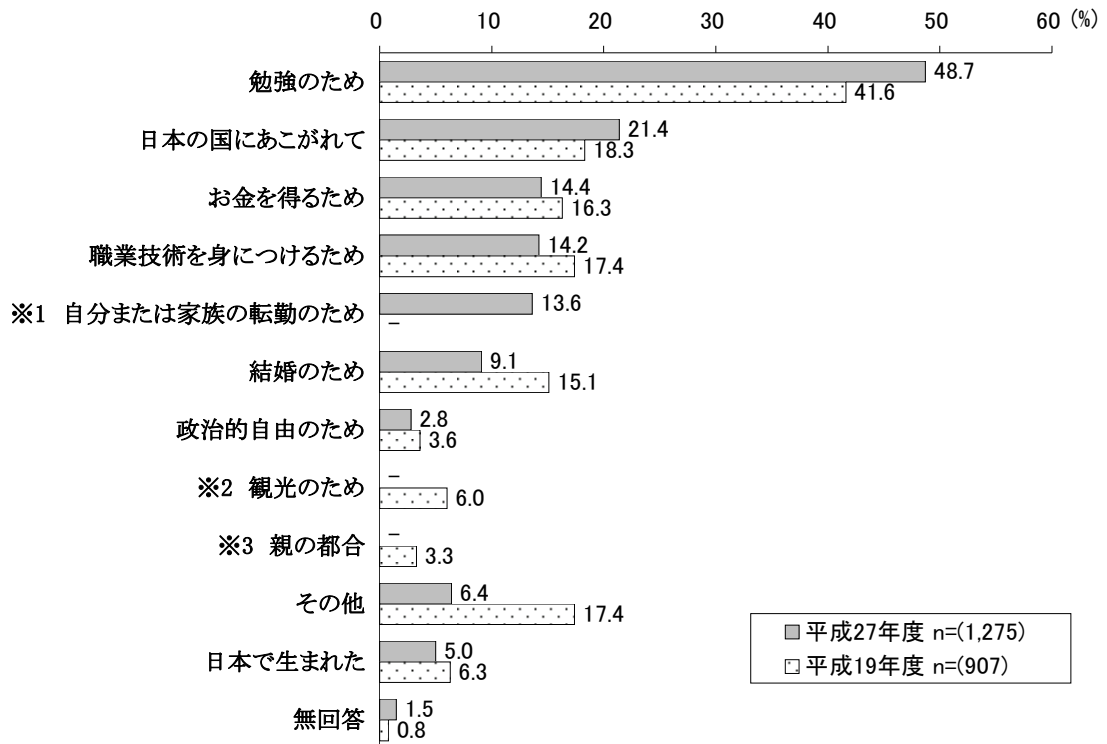
◇「勉強のため」が5割近くで最も高い

問5 あなたが日本に来た目的は何ですか。(〇はいくつでも)

[n=1,275]

1	勉強のため	48.7%	6	日本の国にあこがれて	21.4%
2	職業技術を身につけるため	14.2%	7	自分または家族の転勤のため	13.6%
3	お金を得るため	14.4%	8	その他	6.4%
4	結婚のため	9.1%	9	日本で生まれた	5.0%
5	政治的自由のため	2.8%		(無回答)	1.5%

<図表5> 来日目的（複数回答）／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 今回調査で新設した項目である。

(注) ※2 「観光のため」は今回割愛

(注) ※3 「親の都合」は今回割愛

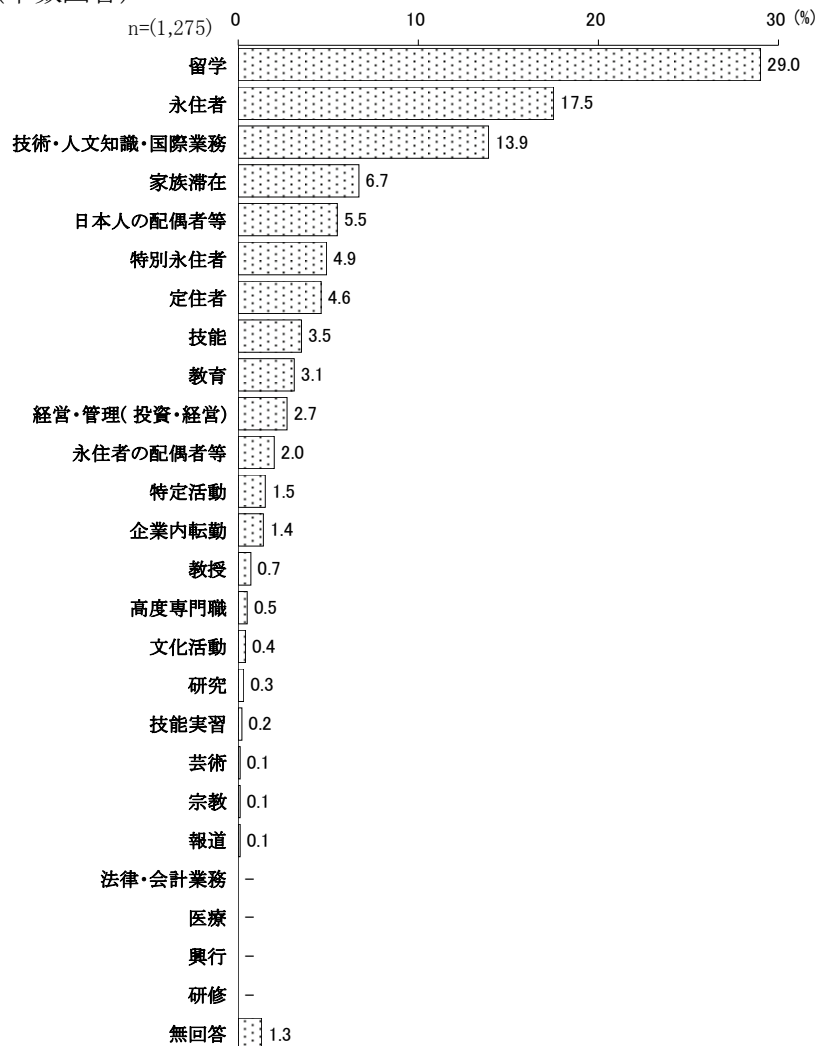
(6) 在留資格

◇「留学」が3割弱、「永住者」が1割台半ばを超える

問6 あなたの在留資格は何ですか。(○は1つだけ)  
[n=1,275]

1	教授	0.7%	14	技能実習	0.2
2	芸術	0.1	15	文化活動	0.4
3	宗教	0.1	16	留学	29.0
4	報道	0.1	17	研修	-
5	経営・管理(投資・経営)	2.7	18	家族滞在	6.7
6	法律・会計業務	-	19	特定活動	1.5
7	医療	-	20	高度専門職	0.5
8	研究	0.3	21	永住者	17.5
9	教育	3.1	22	日本人の配偶者等	5.5
10	技術・人文知識・国際業務	13.9	23	永住者の配偶者等	2.0
11	企業内転勤	1.4	24	定住者	4.6
12	興行	-	25	特別永住者	4.9
13	技能	3.5		(無回答)	1.3

<図表6> 在留資格 (単数回答)



(7) 仕事

◇職業は「事務職・営業職」が1割強。一方「仕事・アルバイトをしていない」が1割台半ばで最も高い

◇就業形態は「正社員（一般）」と「パート・アルバイト（学生）」が2割台半ば

問7 あなたの<sup>しごと</sup>仕事または<sup>あるばいと</sup>アルバイトの<sup>しゅるい</sup>種類は何ですか。(○は1つだけ。2つ以上の<sup>いじょう</sup>仕事をしてい<sup>しごと</sup>る方は<sup>かた</sup>主な<sup>おも</sup>仕事を選んでください。)

[n=1,275]

1	経営者 <sup>けいえいしゃ</sup> （ <sup>いんしょくてん</sup> 飲食店）	3.5%	12	清掃 <sup>せいそう</sup> ・建設 <sup>けんせつ</sup> ・土木 <sup>どぼく</sup> 作業員 <sup>さぎょういん</sup>	2.0
2	経営者 <sup>けいえいしゃ</sup> （ <sup>ぶつぴんはんばい</sup> 物品販売）	1.7	13	工場 <sup>こうじょう</sup> の <sup>ろうどうしゃ</sup> 労働者	1.4
3	経営者 <sup>けいえいしゃ</sup> （ <sup>た</sup> その他）	4.6	14	運転手 <sup>うんでんしゅ</sup> ・配達員 <sup>はいたついでん</sup>	0.3
4	事務職 <sup>じむしやく</sup> ・営業職 <sup>えいぎやうしやく</sup>	11.6	15	飲食店 <sup>いんしょくてん</sup> での <sup>ちやうり</sup> 調理	9.9
5	教授 <sup>きやうじゆ</sup> ・教師 <sup>きやうし</sup> ・研究員 <sup>けんきゆういん</sup>	4.4	16	ウェイター <sup>うえいたー</sup> ・ウェイトレス <sup>うえいとれす</sup>	5.6
6	官公庁 <sup>かんこうちやう</sup> （ <sup>こうむさーびす</sup> 公務サービス）	0.2	17	その他 <sup>た</sup> 接客業 <sup>せつきやくぎやう</sup>	1.5
7	医療 <sup>いりやう</sup> ・福祉 <sup>ふくし</sup> の <sup>せんもんしやく</sup> 専門職	1.3	18	ダンサー <sup>だんさー</sup> ・音楽家 <sup>おんがくか</sup>	0.1
8	技術者 <sup>ぎじゆつしゃ</sup> ・エンジニア <sup>えんじにあ</sup>	6.7	19	メイド <sup>めいど</sup> ・ベビーシッター <sup>べびーしったー</sup>	0.5
9	編集者 <sup>へんしゆしゃ</sup> ・記者 <sup>きしや</sup> ・カメラマン <sup>かめらまん</sup>	0.8	20	その他 <sup>た</sup>	5.7
10	翻訳 <sup>ほんやく</sup> ・通訳 <sup>つうやく</sup>	1.9	21	専業主婦 <sup>せんぎやうしゆふ</sup> （ <sup>ふ</sup> 夫）	10.0
11	販売員 <sup>はんばいいん</sup> ・店員 <sup>てんいん</sup>	4.8	22	仕事 <sup>しごと</sup> ・アルバイト <sup>あるばいと</sup> をしていない	15.4
				（無回答）	5.9

(問7で、「1」～「20」のいずれかを<sup>こた</sup>答えた<sup>かた</sup>方に)

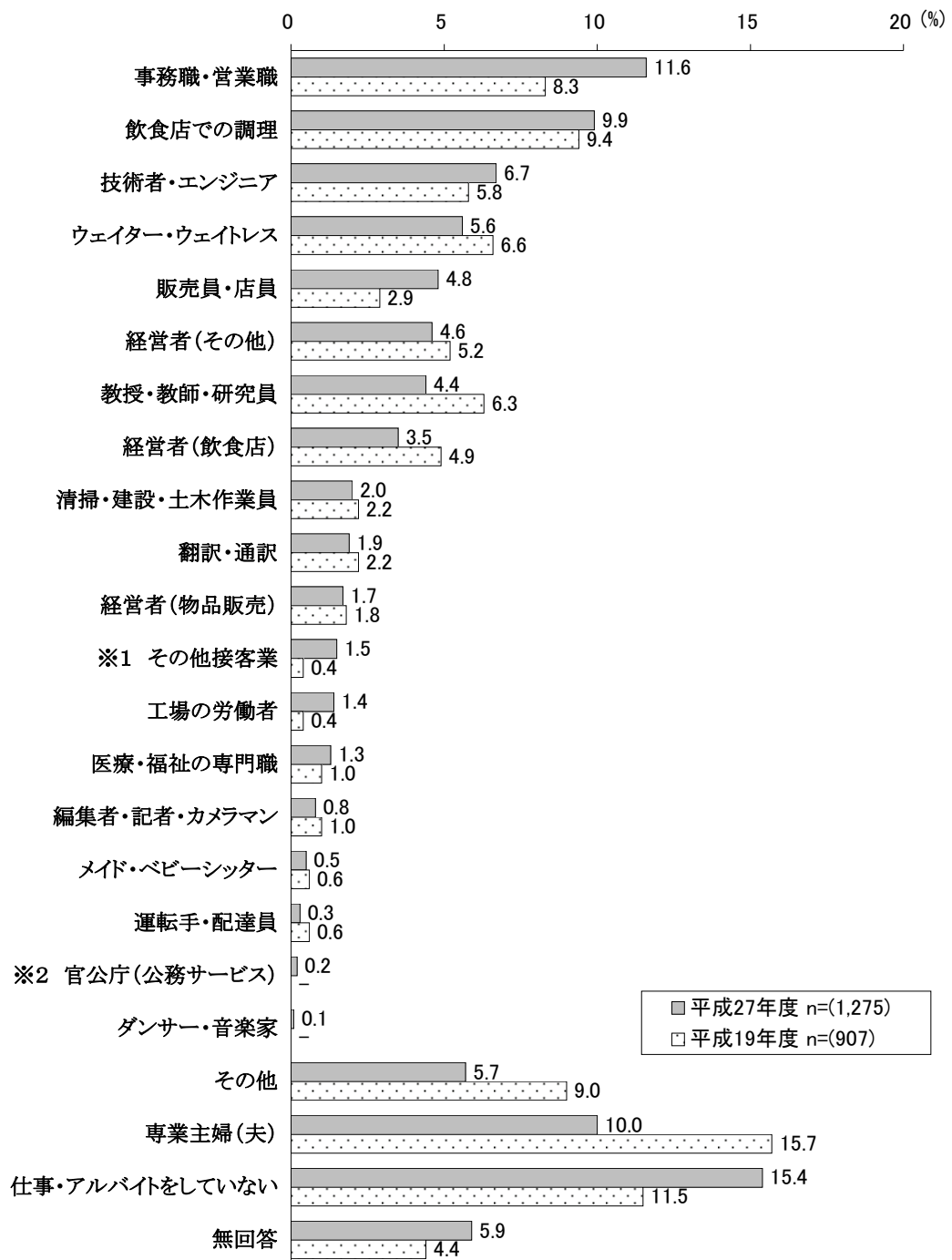
問7-1 あなたの<sup>しごと</sup>仕事の<sup>たちば</sup>立場は何ですか。次の<sup>つぎ</sup>中から<sup>なか</sup>選んで<sup>えら</sup>ください。(○は1つだけ)

[n=876]

1	自営業 <sup>じえいぎやう</sup> ・経営者 <sup>けいえいしゃ</sup>	10.0%	6	パート <sup>ぱーと</sup> ・アルバイト <sup>あるばいと</sup> （ <sup>がくせい</sup> 学生）	25.1
2	会社役員 <sup>かいしゃやくいん</sup>	2.6	7	パート <sup>ぱーと</sup> ・アルバイト <sup>あるばいと</sup> （ <sup>がくせい</sup> 学生以外 <sup>いがい</sup> ）	13.9
3	正社員 <sup>せいしやいん</sup> （ <sup>かんりしやく</sup> 管理職）	8.6	8	技能実習生 <sup>ぎのうじっしゅうせい</sup> ・研修生 <sup>けんしゅうせい</sup>	0.9
4	正社員 <sup>せいしやいん</sup> （ <sup>いっぱん</sup> 一般）	25.9	9	その他 <sup>た</sup>	3.3
5	派遣 <sup>はけん</sup> ・契約社員 <sup>けいやくしやいん</sup>	5.8	10	わからない	1.3
				（無回答）	2.5

①職業

<図表7> 職業（単数回答）／（参考）平成19年度との比較

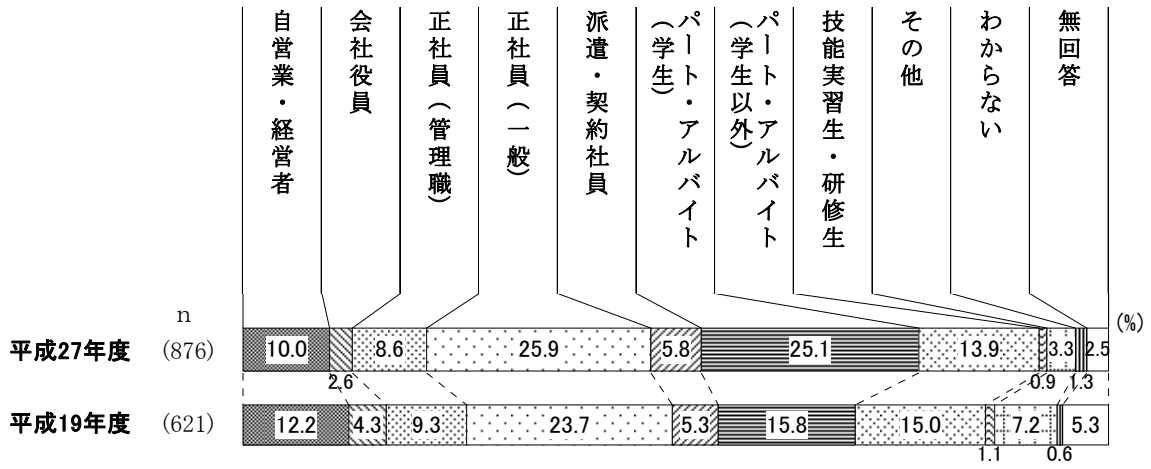


(注) ※1 「その他の接客業」は、平成19年度調査では「ホステス・ホスト」であった。

(注) ※2 今回調査で新設した項目である。

②就業形態

<図表8>就業形態



## (8) 同居人

◇一緒に住んでいる人は「配偶者またはパートナー」が4割強。一方「いない」が2割強

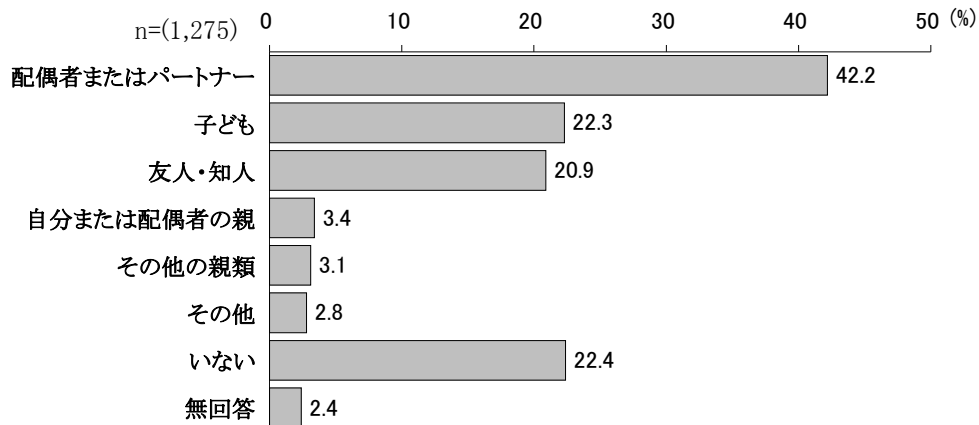
<p>問8 あなたが現在一緒に住んでいる人は誰ですか。(○はいくつでも) 〔n=1,275〕</p>			
1	配偶者またはパートナー	42.2%	5 友人・知人 20.9
2	子ども	22.3	6 その他 2.8
3	自分または配偶者の親	3.4	7 いない 22.4
4	その他の親類	3.1	(無回答) 2.4

<p>(問8で、「2 子ども」と答えた方に)</p>			
<p>問8-1 あなたのお子さんについて教えてください。( )の中に人数を記入してください。 〔n=283〕</p>			
子どもの人数	:	( )	人
子どもの年齢	:	6歳未満( )	6歳～12歳( ) 13歳～15歳( )
		16歳～18歳( )	19歳以上( )

### ①同居人

<図表9>同居人 (複数回答)



### ②子どもの年齢

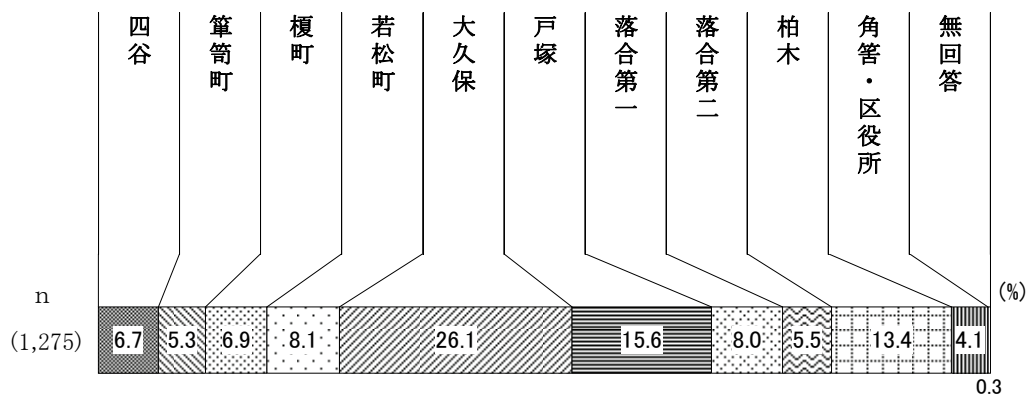
<図表10>子どもの人数と年齢 (複数回答)

子どもと同居している人数	284	
年齢ごとの 子どもの人数	6歳未満	108
	6歳～12歳	100
	13歳～15歳	47
	16歳～18歳	38
	19歳以上	50

### (9) 居住地

◇「大久保」が2割台半ばを超え最も高く、次いで「戸塚」が1割台半ば

<図表11> 居住地





## II 調査結果

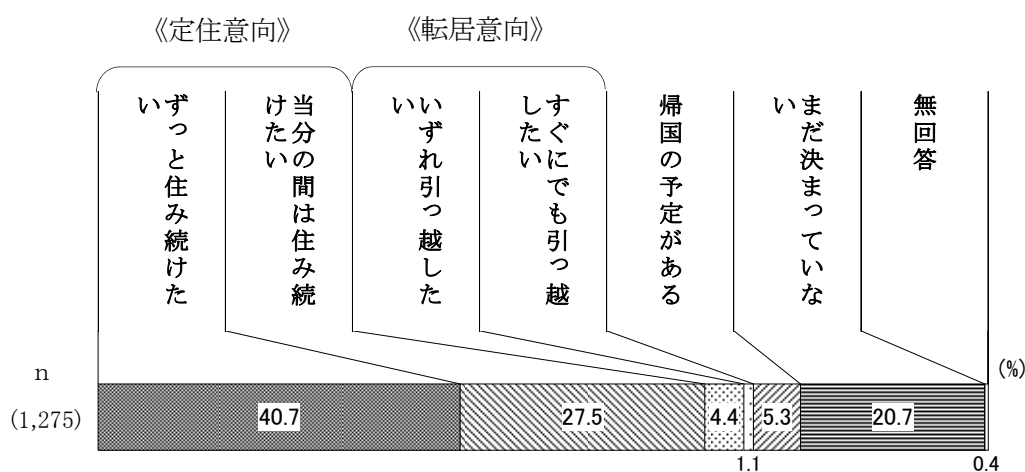
### 1 日本での暮らし

#### (1) 定住意向

◇ 《定住意向》は7割近い

<p>問9 これからどのくらいの期間、新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ) [n = 1, 275]</p>					
1	ずっと住み続けたい	40.7%	4	すぐにでも引っ越したい	1.1
2	当分の間は住み続けたい	27.5	5	帰国の予定がある	5.3
3	いずれ引っ越したい	4.4	6	まだ決まっていない	20.7
				(無回答)	0.4

<図表1-1>定住意向



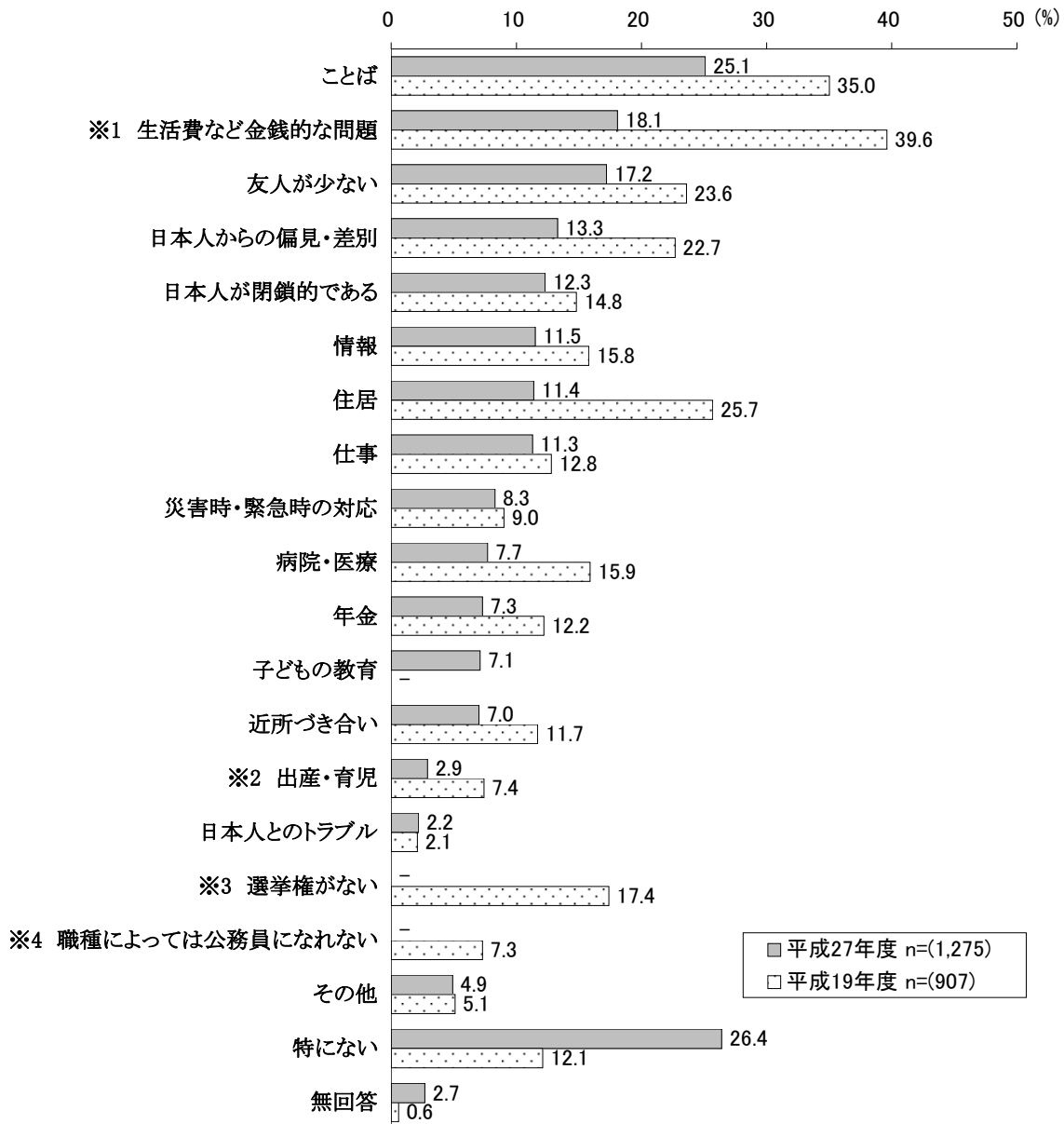
(2) 日本の生活で困っていることや不満なこと

◇「ことば」は2割台半ば。一方「特にない」が2割台半ばを超える

問10 あなたやあなたの <sup>かぞく</sup> 家族が、日本の生活で困っていることや不満なことは何ですか。 (〇はいくつでも)					
[n=1,275]					
1	ことば	25.1%	10	近所づきあい <sup>きんじよ あい</sup>	7.0
2	情報 <sup>じょうほう</sup>	11.5	11	友人が少ない <sup>ゆうじん すく</sup>	17.2
3	住居 <sup>じゅうきよ</sup>	11.4	12	日本人とのトラブル <sup>にほんじん とらぶる</sup>	2.2
4	病院・医療 <sup>びょういん いりよう</sup>	7.7	13	日本人からの偏見・差別 <sup>にほんじん へんけん きべつ</sup>	13.3
5	年金 <sup>ねんきん</sup>	7.3	14	日本人が閉鎖的である <sup>にほんじん へいさてき</sup>	12.3
6	出産・育児 <sup>しゅっさん いくじ</sup>	2.9	15	生活費など金銭的な問題 <sup>せいかつひ きんせんてき もんだい</sup>	18.1
7	子どもの教育 <sup>こ ぎょういく</sup>	7.1	16	その他 <sup>た</sup>	4.9
8	仕事 <sup>しごと</sup>	11.3	17	特にない <sup>とく</sup>	26.4
9	災害時・緊急時の対応 <sup>さいがいじ きんきゆうじ たいおう</sup>	8.3		(無回答)	2.7

<図表1-2>日本の生活で困っていることや不満なこと（複数回答）

／（参考）平成19年度との比較



- (注) ※1 「生活費など金銭的な問題」は平成19年度調査では「物価が高い」であった。
- (注) ※2 「出産・育児」は平成19年度調査では「子育て」であった。
- (注) ※3 「選挙権がない」は今回割愛
- (注) ※4 「職種によっては公務員になれない」は今回割愛

### (3) 日本人とのつき合い

◇つき合いが「ある」が4割台半ば近い。一方「ない」が5割台半ば

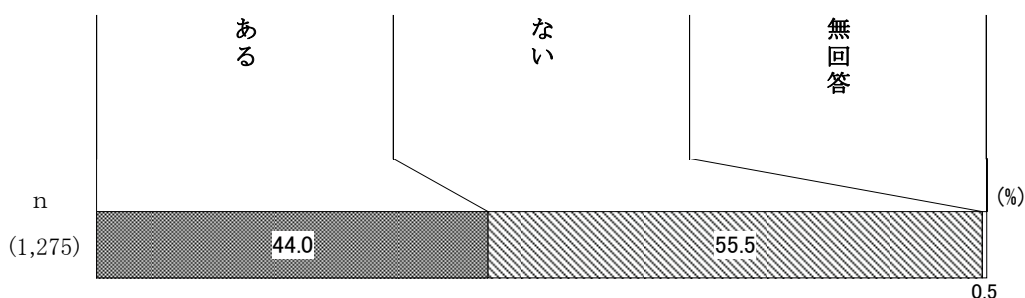
◇つき合いの程度では、「あいさつをする程度」が4割台半ば近い

◇つき合いがない理由では、「話しかけるきっかけがないから」が5割強で最も高い

問11 あなたは近くに <sup>ちか</sup> に住 <sup>す</sup> む <sup>にほんじん</sup> 日本人と <sup>あ</sup> つき合 <sup>あ</sup> いがありますか。(○は1つだけ) [n=1,275]					
1	ある	44.0%	2	ない	55.5 (無回答) 0.5
(問11で、「1 ある」と <sup>こた</sup> 答 <sup>かた</sup> えた方に)					
問11-1 それはどのような <sup>あ</sup> つき合 <sup>あ</sup> いですか。(○は1つだけ) [n=561]					
1	あいさつをする <sup>ていど</sup> 程度	43.1%	4	友人 <sup>ゆうじん</sup> として <sup>あ</sup> つき合 <sup>あ</sup> っている	20.5
2	日 <sup>にち</sup> 常 <sup>じょう</sup> 生 <sup>せい</sup> 活 <sup>かつ</sup> の <sup>こと</sup> を <sup>はな</sup> 話 <sup>な</sup> している	19.3	5	家 <sup>か</sup> 族 <sup>ぞく</sup> と <sup>おな</sup> 同 <sup>どう</sup> じ <sup>じやう</sup> に <sup>した</sup> 親 <sup>しん</sup> しく <sup>あ</sup> つき合 <sup>あ</sup> っている	5.7
3	何 <sup>なに</sup> か <sup>こま</sup> 困 <sup>こま</sup> った <sup>とき</sup> に <sup>たす</sup> 助 <sup>あ</sup> け <sup>あ</sup> 合 <sup>あ</sup> っている	5.9	6	そ <sup>た</sup> の <sup>た</sup> 他	1.8
				(無回答)	3.7
(問11で、「2 ない」と <sup>こた</sup> 答 <sup>かた</sup> えた方に)					
問11-2 日本 <sup>にほんじん</sup> 人 <sup>あ</sup> と <sup>あ</sup> つき合 <sup>あ</sup> いがないのは <sup>な</sup> な <sup>ぜ</sup> で <sup>す</sup> か。(○はいくつでも) [n=707]					
1	時 <sup>じ</sup> 間 <sup>かん</sup> が <sup>な</sup> い <sup>か</sup> ら	19.8%	5	話 <sup>はな</sup> しか <sup>な</sup> ける <sup>き</sup> っ <sup>か</sup> け <sup>が</sup> な <sup>い</sup> か <sup>ら</sup>	52.9
2	日 <sup>にほん</sup> 本 <sup>ご</sup> 語 <sup>はな</sup> を <sup>はな</sup> 話 <sup>な</sup> せ <sup>な</sup> い <sup>か</sup> ら	25.9	6	つ <sup>あ</sup> き <sup>あ</sup> 合 <sup>あ</sup> う <sup>ば</sup> 場 <sup>ば</sup> が <sup>な</sup> い <sup>か</sup> ら	33.9
3	長 <sup>なが</sup> く <sup>にほん</sup> 日 <sup>にほん</sup> 本 <sup>ご</sup> に <sup>す</sup> 住 <sup>す</sup> む <sup>も</sup> り <sup>が</sup> な <sup>い</sup> か <sup>ら</sup>	0.8	7	必 <sup>ひつ</sup> 要 <sup>よう</sup> だ <sup>と</sup> 思 <sup>おも</sup> わ <sup>な</sup> い <sup>か</sup> ら	5.4
4	日 <sup>にほんじん</sup> 本 <sup>ご</sup> 人 <sup>あ</sup> と <sup>あ</sup> つき <sup>あ</sup> 合 <sup>あ</sup> う <sup>の</sup> が <sup>に</sup> が <sup>て</sup> だ <sup>か</sup> ら	15.4	8	そ <sup>た</sup> の <sup>た</sup> 他	5.0
				(無回答)	3.4

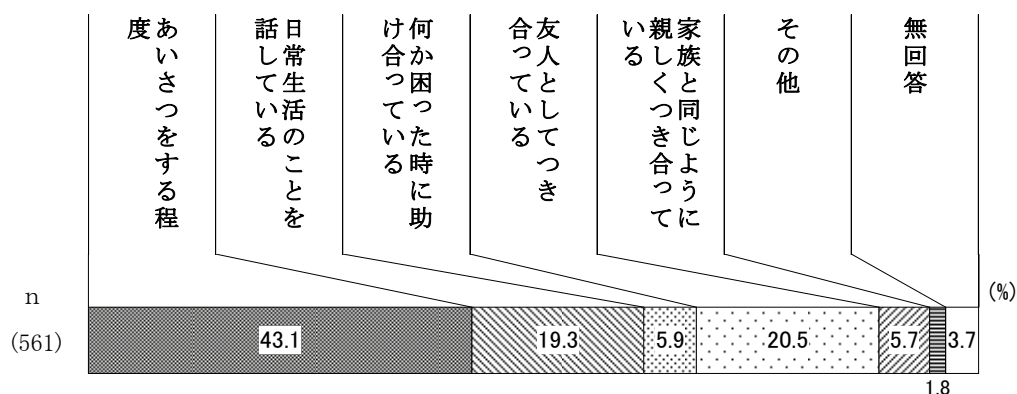
#### ①日本人とのつき合いの有無

<図表1-3>日本人とのつき合いの有無



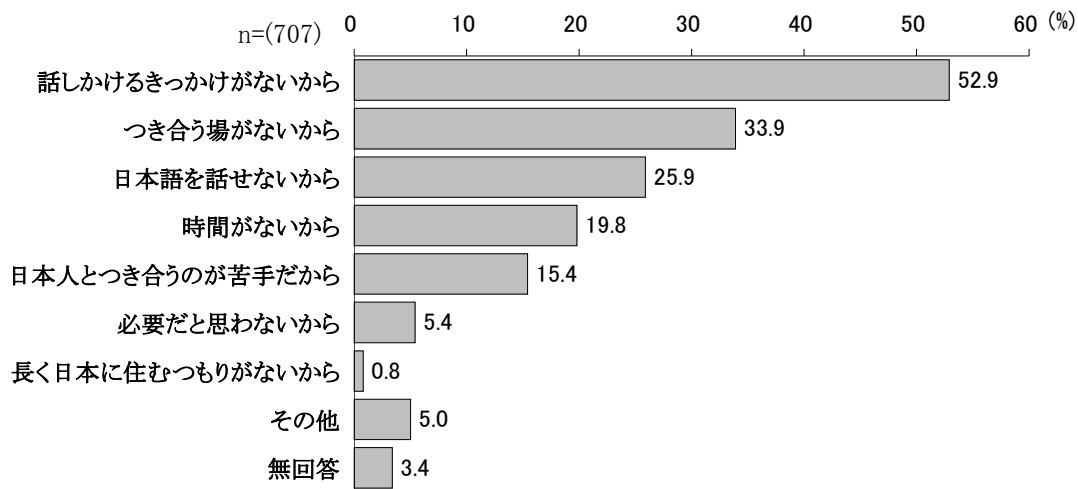
## ②つき合いの程度

<図表 1 - 4>つき合いの程度



## ③日本人とのつき合いがない理由

<図表 1 - 5>日本人とのつき合いがない理由 (複数回答)



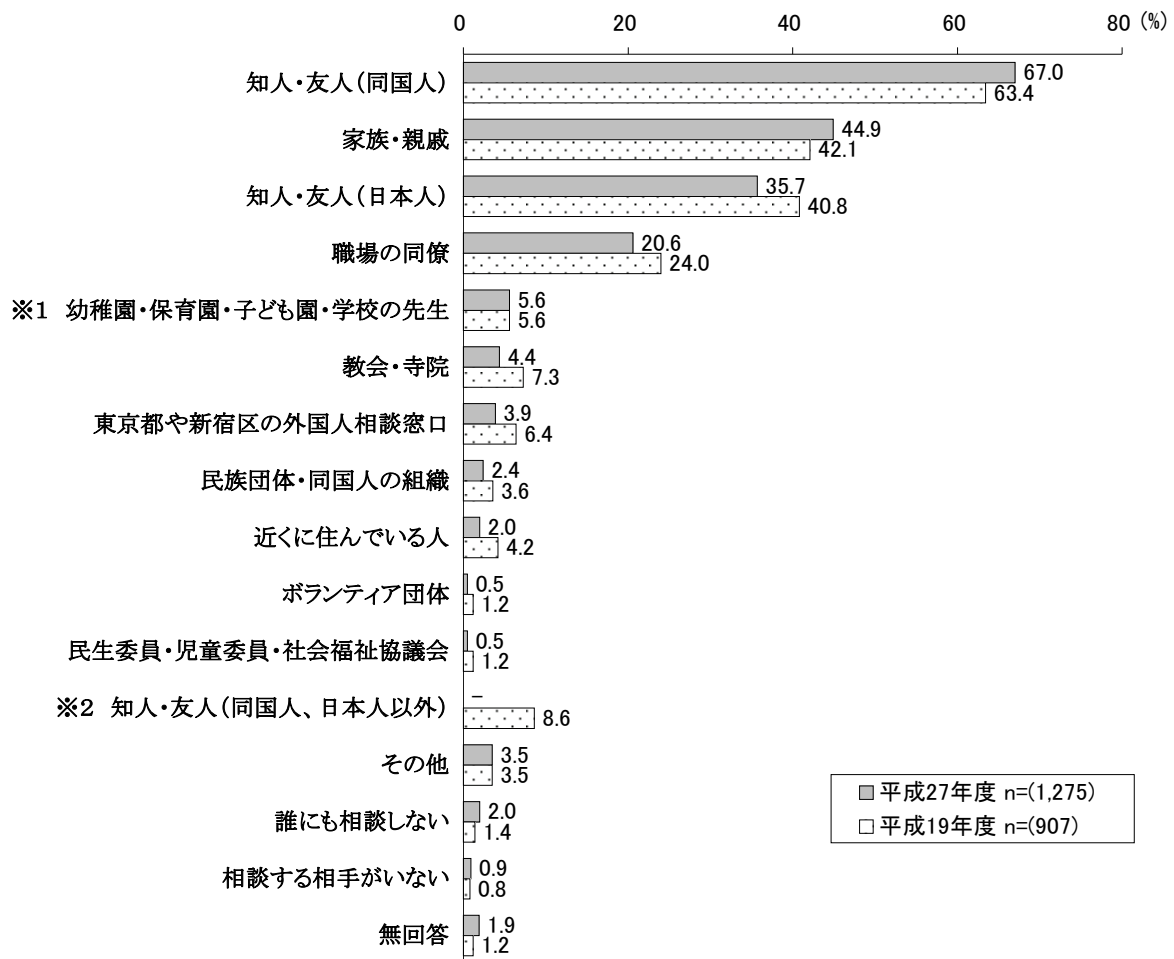
#### (4) 日常生活で困った時の相談相手

◇「知人・友人（同国人）」が6割台半ばを超え最も高く、「家族・親戚」が4割台半ば近い

問12 あなたは、<sup>にちじょうせいかつ</sup>日常生活のことで<sup>こま</sup>困った時は<sup>とき</sup>誰に<sup>だれ</sup>相談<sup>そうだん</sup>しますか。（○はいくつでも）  
〔n=1,275〕

1	知人・友人（同国人）	67.0%	9	東京都や新宿区の外国人相談窓口	3.9
2	知人・友人（日本人）	35.7	10	民生委員・児童委員・社会福祉協議会	0.5
3	家族・親戚	44.9	11	近くに住んでいる人	2.0
4	職場の同僚	20.6	12	その他	3.5
5	民族団体・同国人の組織	2.4	13	誰にも相談しない	2.0
6	教会・寺院	4.4	14	相談する相手がいない	0.9
7	ボランティア団体	0.5		（無回答）	1.9
8	幼稚園・保育園・子ども園・学校の先生	5.6			

<図表1-6>日常生活で困った時の相談相手（複数回答）／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 「幼稚園・保育園・子ども園・学校の先生」は、平成19年度調査では「保育園や学校の先生」であった。

(注) ※2 「知人・友人（同国人、日本人以外）」は今回割愛

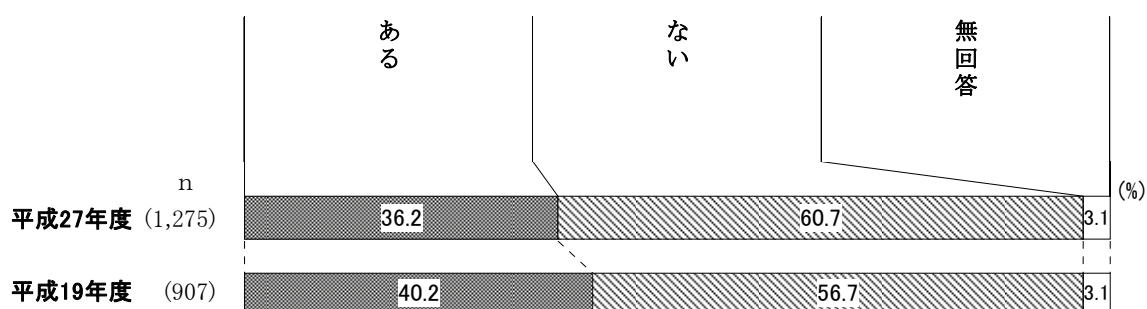
## (5) 情報交換などができる仲間やグループ

◇「ある」が3割台半ば。一方「ない」が約6割

<p>問13 あなたには、外国人同士で相談したり、情報交換などができる仲間やグループがありますか。(○は1つだけ)</p> <p>[n=1,275]</p>
<p>1 ある 36.2%      2 ない 60.7      (無回答) 3.1</p>
<p>(問13で、「1 ある」と答えた方に)</p> <p>問13-1 その仲間やグループはどのような方たちですか。区では、外国人のグループを通じて、生活の役に立つ情報を伝えたり、ご意見を聴きたいと考えています。お答えできる範囲でかまいませんので、自由に記入してください。</p>

### ①外国人同士で相談や情報交換できるグループ等の有無

<図表1-7>外国人同士で相談や情報交換できるグループ等の有無／平成19年度との比較



### ②情報交換などができる仲間やグループの種類や活動

問13で、外国人同士で相談したり、情報交換などができる仲間やグループが「ある」と回答した人に、どのような仲間やグループなのか、答えられる範囲で自由に記述していただいた。

ここでは、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として分けて分類し、主なものを掲載する。

○通っている学校や先生、学生時代の仲間やグループ	90件
○職場の同僚や、以前働いていた職場の人、配偶者の会社関係の人など	79件
○友だちやその集まり、ルームメイトなど	63件
○宗教施設(教会、寺院)やそこに通う友人、団体など	50件
○同国や同郷の人、母国の近隣国などの仲間やグループ	38件
○外国人支援団体や職業団体など	33件

## 2 日常生活でのトラブル

### (1) 日本人とのトラブル経験

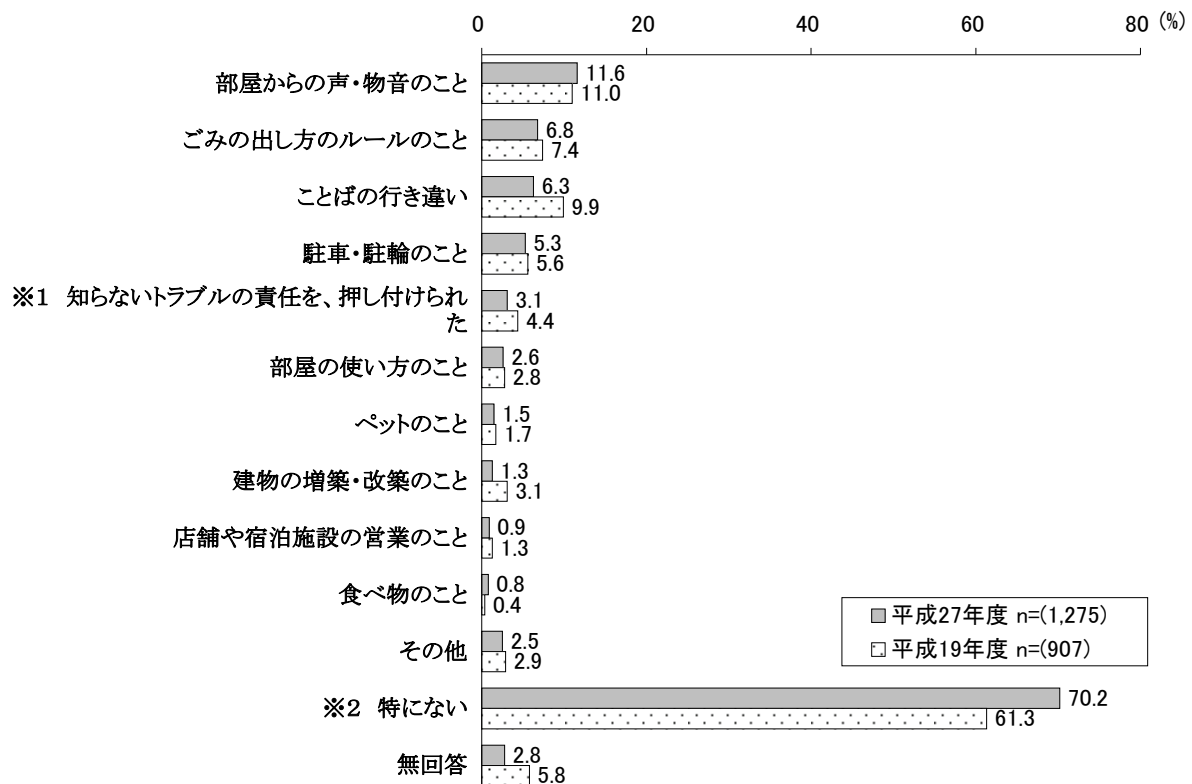
◇「部屋からの声・物音のこと」が1割強。一方「特にない」が約7割

問14 あなたは今までに、近くに住む日本人と次のようなトラブルの経験がありますか。  
(○はいくつでも)

[n = 1, 275]

1	ごみの出し方のルールのこと	6.8%	7	店舗や宿泊施設の営業のこと	0.9
2	部屋からの声・物音のこと	11.6	8	部屋の使い方のこと	2.6
3	ペットのこと	1.5	9	知らないトラブルの責任を、	
4	食べ物のこと	0.8		押し付けられた	3.1
5	駐車・駐輪のこと	5.3	10	ことばの行き違い	6.3
6	建物の増築・改築のこと	1.3	11	その他	2.5
			12	特にない	70.2
				(無回答)	2.8

<図表2-1>日本人とのトラブル経験（複数回答）／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 「知らないトラブルの責任を、押し付けられた」は、平成19年度調査では「身に覚えのないトラブルの責任を押し付けられた」であった。

(注) ※2 「特にない」は、平成19年度調査では「ない」であった。



## (2) 日本人から外国人に対する偏見や差別

◇偏見や差別を感じたことが「ときどきある」が3割台半ば、「あまりない」は3割強

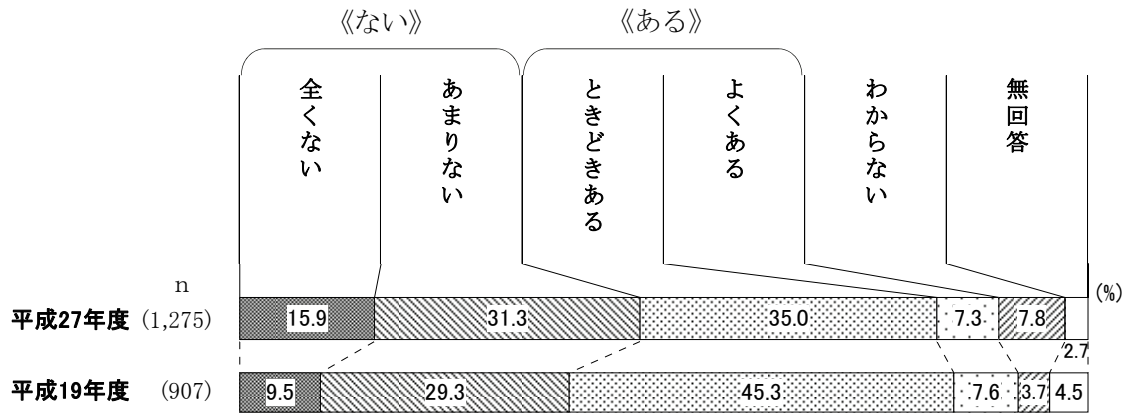
◇偏見や差別を感じるのは、「家を探すとき」が5割強で最も高い

◇偏見や差別をなくすために必要なことは、「お互いの文化を知る」が5割台半ば近い

問15	あなたは、ふだんの生活の中で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか。(○は1つだけ)		
	[n=1,275]		
1	全くない	15.9%	3 ときどきある
2	あまりない	31.3	4 よくある
			5 わからない
			(無回答)
			35.0
			7.3
			7.8
			2.7
(問15で、「3」か「4」と答えた方に)			
問15-1	偏見・差別をどのような場合に感じましたか。(○はいくつでも)		
	[n=539]		
1	公的機関などの手続きのとき	25.6%	7 社会保障制度のこと
2	日本人の友人との付き合いのとき	9.5	8 電車・バス等に乗っているとき
3	近所の人との付き合いのとき	7.8	9 出産・育児の場面
4	家を探すとき	51.9	10 学校などの教育の場
5	自分や家族が結婚するとき	3.3	11 仕事するとき
6	法制度のこと	14.5	12 その他
			(無回答)
			11.9
			18.2
			1.9
			8.5
			33.2
			14.5
			0.9
(問15で、「3」か「4」と答えた方に)			
問15-2	偏見・差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)		
	[n=539]		
1	日本人と外国人が交流する	35.6%	4 互いの生活習慣の違いを認め合う
2	お互いを認め合う教育を進める	44.2	5 その他
3	お互いの文化を知る	54.0	6 わからない
			(無回答)
			50.6
			13.0
			6.1
			5.0

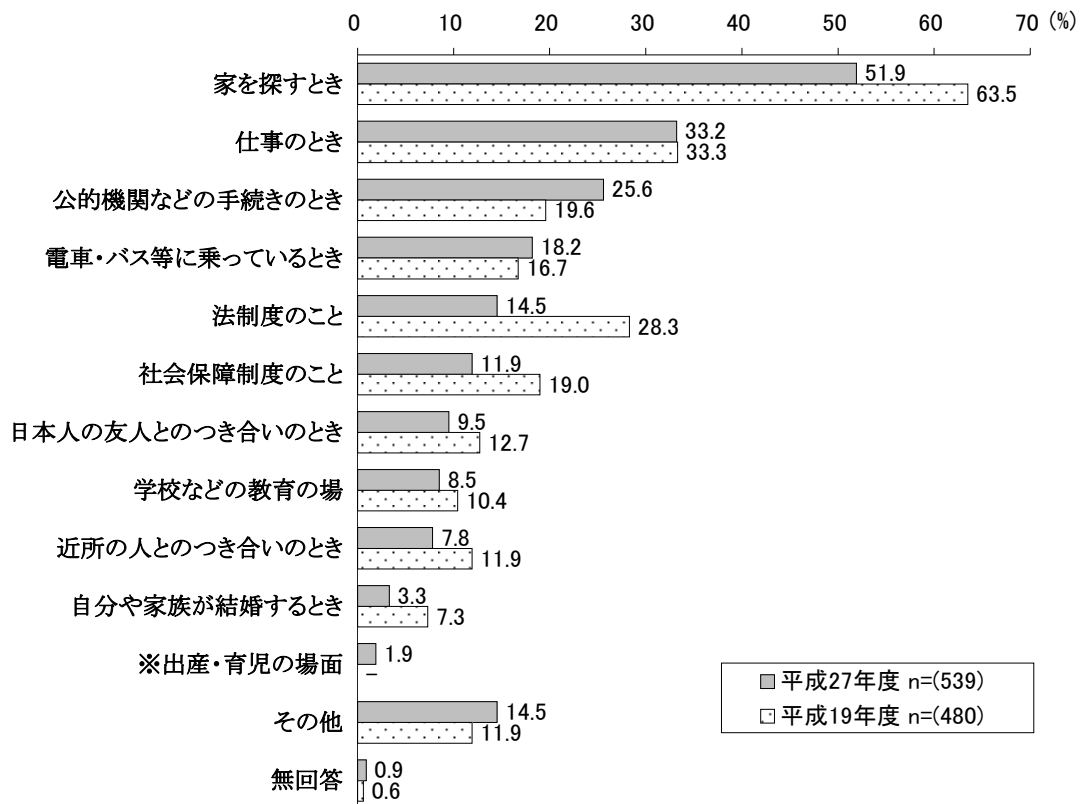
①日本人から外国人に対する偏見や差別

<図表 2-2>日本人から外国人に対する偏見や差別／平成19年度との比較



②偏見や差別を感じること

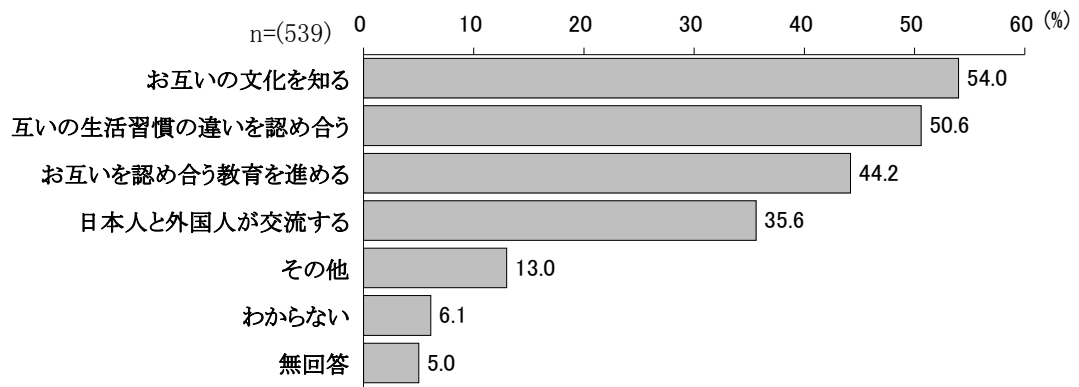
<図表 2-3>偏見や差別を感じること（複数回答）／（参考）平成19年度との比較



(注) ※ 今回調査で新設した項目である。

### ③ 偏見や差別をなくすために必要だと思うこと

<図表 2-4> 偏見や差別をなくすために必要だと思うこと (複数回答)



### 3 ことば（日本語学習）

#### (1) 日本語に関して困ること

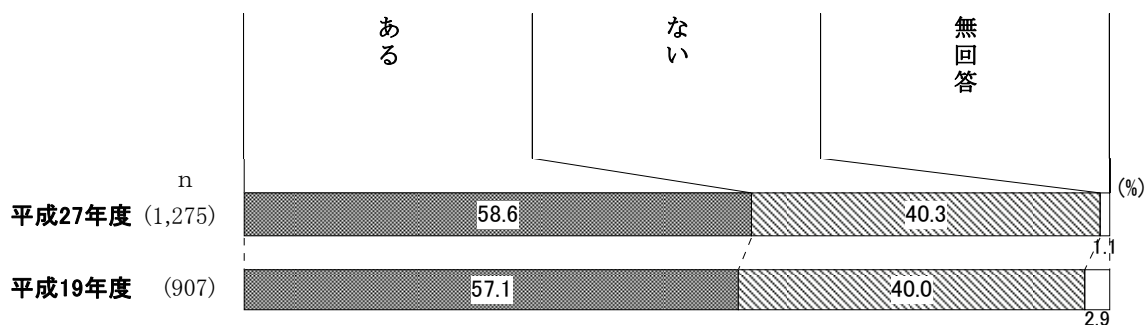
◇日本語に関して困ることが「ある」は6割近い

◇困る内容としては、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」が5割弱で最も高く、「役所や病院での説明を理解すること」が4割台半ばを超える

問16 あなたは日本語 <small>にほんご</small> に関して困ることがありますか。(○は1つだけ) [n1,275]					
1	ある	58.6%	2	ない	40.3
				(無回答)	1.1
(問16で、「1 ある」と答えた方に) 問16-1 それはどんなことですか。(○はいくつでも) [n=747]					
1	ひらがな・カタカナ <small>かたかな</small> を読むこと	11.1%	5	日本語 <small>にほんご</small> のテレビやラジオのニュース <small>にゅーす</small> を見ること・聞くこと	37.3
2	ひらがな・カタカナ <small>かたかな</small> を書くこと	11.2	6	日本語 <small>にほんご</small> の新聞 <small>しんぶん</small> やお知らせ <small>し</small> を読むこと	49.3
3	簡単な漢字 <small>かんたん かんじ</small> の読み書き	27.7	7	役所 <small>やくしよ</small> や病院 <small>びやういん</small> での説明 <small>せつめい</small> を理解 <small>りかい</small> すること	46.6
4	日常会話 <small>にちじょうかいわ</small>	37.6	8	その他	11.1
				(無回答)	0.5

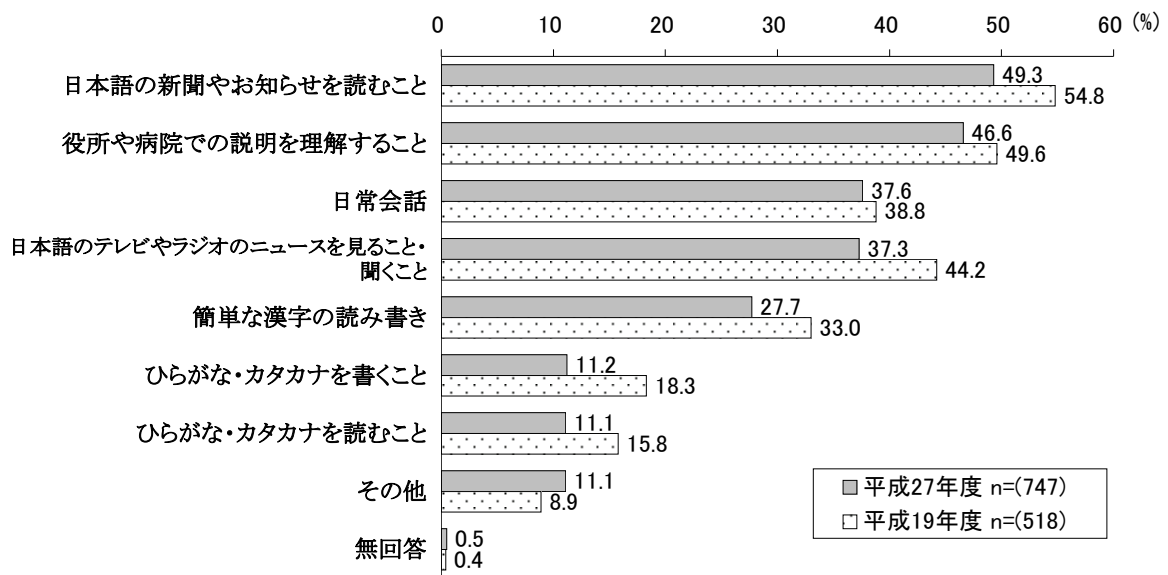
#### ①日本語に関して困ること

<図表3-1>日本語に関して困ること／平成19年度との比較



②困っている内容

<図表3-2>困っている内容（複数回答）／平成19年度との比較



## (2) 日本語の学習意向

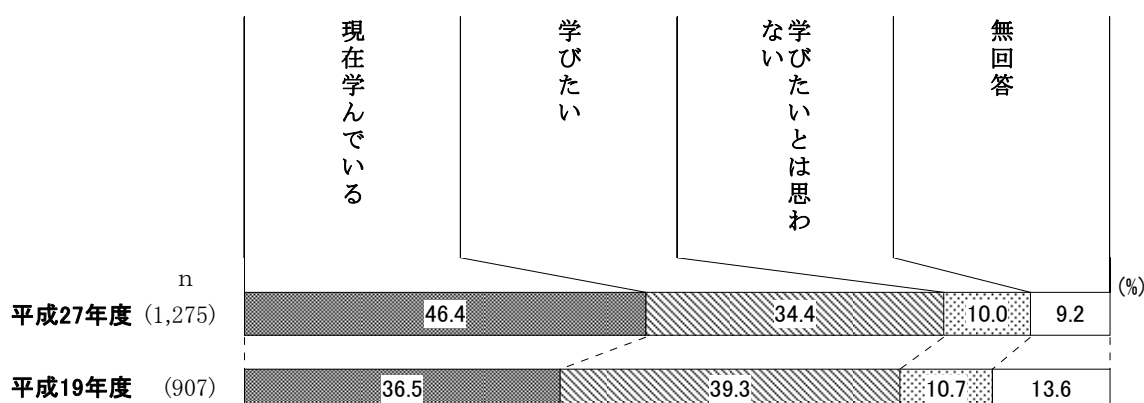
◇日本語を「現在学んでいる」が4割台半ばを超え、「学びたい」は3割台半ば近い

◇学んでいる（学びたい）方法では、「日本語学校」が3割台半ば近くで最も高い

<p>問17 あなたは、今後、日本語を学びたいと思いますか。日本語に関して困ることがある方もない方もお答えください。（○は1つだけ）</p> <p>[n=1,275]</p>					
1	現在学んでいる	46.4%	3	学びたいとは思わない	10.0
2	学びたい	34.4		(無回答)	9.2
<p>(問17で、「1」か「2」と答えた方に)</p> <p>問17-1 どのような方法で学んでいますか。また、どのような方法で学びたいですか。（○はいくつでも）</p> <p>[n=1,030]</p>					
1	テレビ・ラジオの語学講座、通信教育、		6	家庭教師に習う	5.3
	テレビ・新聞などを利用	27.2%	7	家族に教えてもらう	10.3
2	インターネットを利用	28.1	8	友人に教えてもらう	16.7
3	ボランティアなどによる日本語教室	16.4	9	職場で同僚に教えてもらう	16.6
4	日本語学校	34.3	10	その他	8.5
5	大学などの講座やコース	13.7		(無回答)	1.3
<p>(問17で、「3 学びたいとは思わない」と答えた方に)</p> <p>問17-2 日本語を学びたくない理由を教えてください。自由に記入してください。</p>					

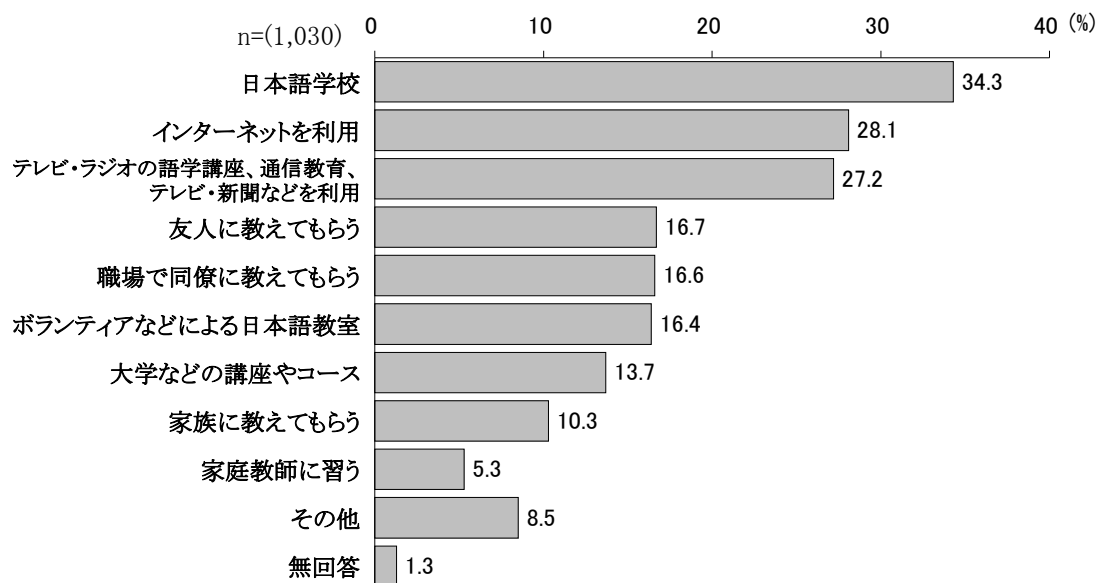
### ①日本語の学習意向

<図表3-3>日本語の学習意向／平成19年度との比較



## ②日本語を学んでいる方法及び学びたい方法

<図表3-4>日本語を学んでいる方法及び学びたい方法（複数回答）



## ③日本語を学びたくない理由

日本語を学びたくないと答えた方に、その理由を自由記述でたずねたところ、次のような意見があげられた。

ここでは、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として分けて分類し、主なものを掲載する。

○不便を感じないから、困っていないから	64件
○必要ないから	11件
○日本で生まれ育ったから	7件
○歳をとっているから	4件
○難しいから	4件

## 4 災害時・緊急時の対応

### (1) 災害時の準備

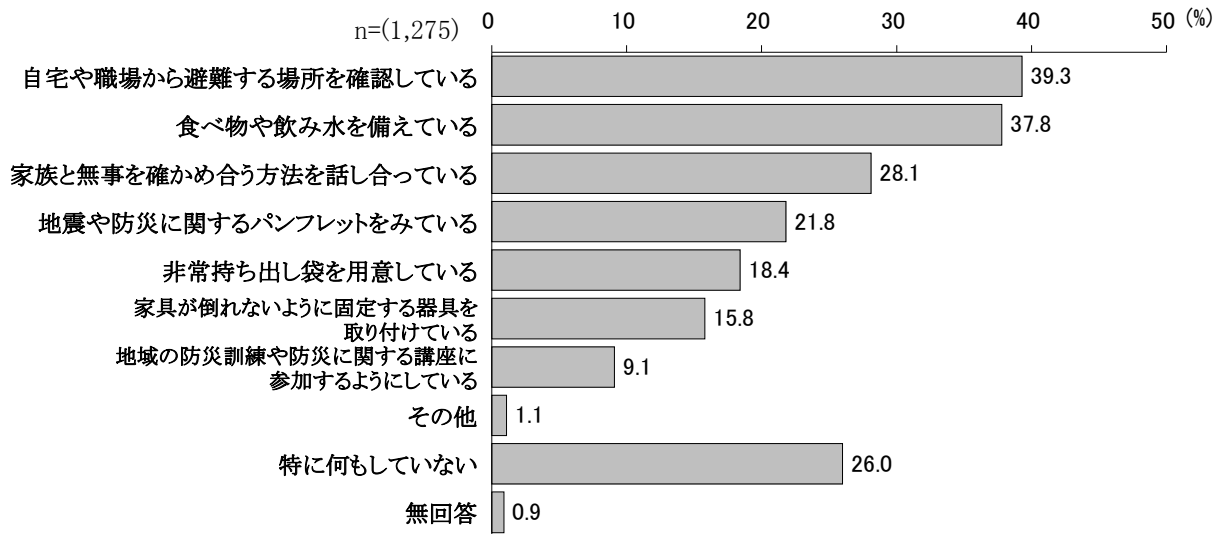
- ◇「自宅や職場から避難する場所を確認している」が4割弱で最も高く、「食べ物や飲み水を備えている」が3割台半ばを超える
- ◇「特に何もしていない」理由は、「何を準備すればいいかわからないから」が約5割で最も高い

問18	地震などの災害が起きた時のために、どのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	家族と無事を確かめ合う方法を話し合っている	28.1%
2	自宅や職場から避難する場所を確認している	39.3
3	食べ物や飲み水を備えている	37.8
4	非常持ち出し袋を用意している	18.4
5	地震や防災に関するパンフレットをみている	21.8
6	家具が倒れないように固定する器具を取り付けている	15.8
7	地域の防災訓練や防災に関する講座に参加するようにしている	9.1
8	その他	1.1
9	特に何もしていない	26.0
	(無回答)	0.9
(問18で、「9 特に何もしていない」と答えた方に)		
問18-1	何もしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)	
	[n=331]	
1	考えたことがなかったから	23.0%
2	何を準備すればいいかわからないから	50.8
3	準備する時間やお金がないから	15.4
4	防災訓練や講座の情報が入らないから	22.1
5	何も起こらないと思うから	19.6
6	その他	6.6



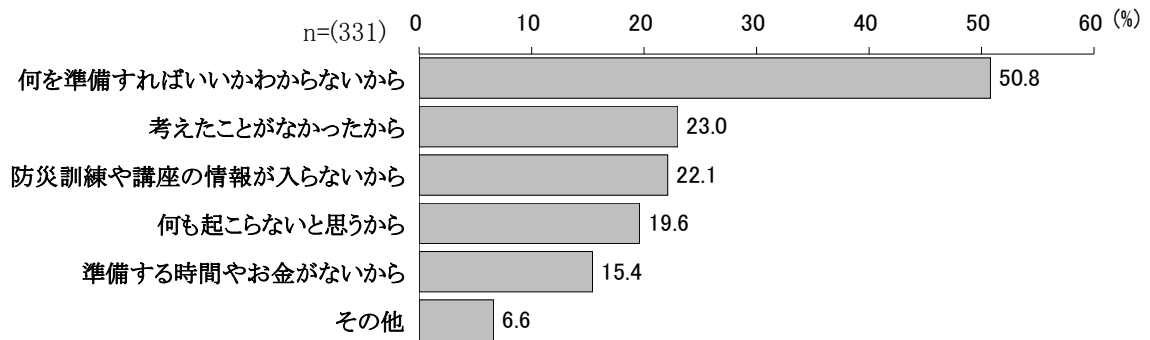
## ①災害時の準備

<図表 4 - 1> 災害時の準備 (複数回答)



## ②災害時の準備をしていない理由

<図表 4 - 2> 災害時の準備をしていない理由 (複数回答)



## (2) 防災訓練の参加状況

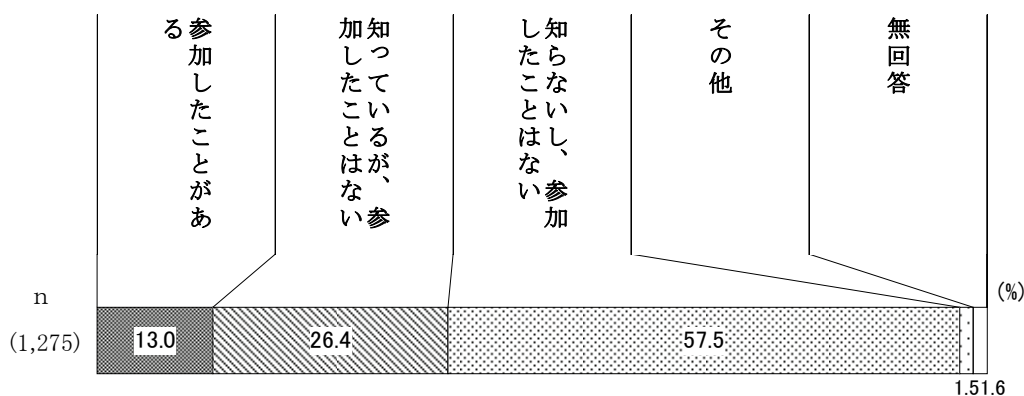
◇「知らないし、参加したことはない」が5割台半ばを超える

問19 地震などの災害が起きたときには、地域住民が協力して対応する必要があります。区内には住んでいる地域ごとに町会・自治会があり、災害が起きたときには避難誘導や避難所の設置などを行うほか、日頃は災害時に備えた防災訓練を実施しています。こうした防災訓練が実施されていることを知っていますか。また参加したことがありますか。(○は1つだけ)

[n = 1, 275]

1	参加したことがある	13.0%	3	知らないし、参加したことはない	57.5
2	知っているが、参加したことはない	26.4	4	その他	1.5
				(無回答)	1.6

<図表4-3> 防災訓練の参加状況

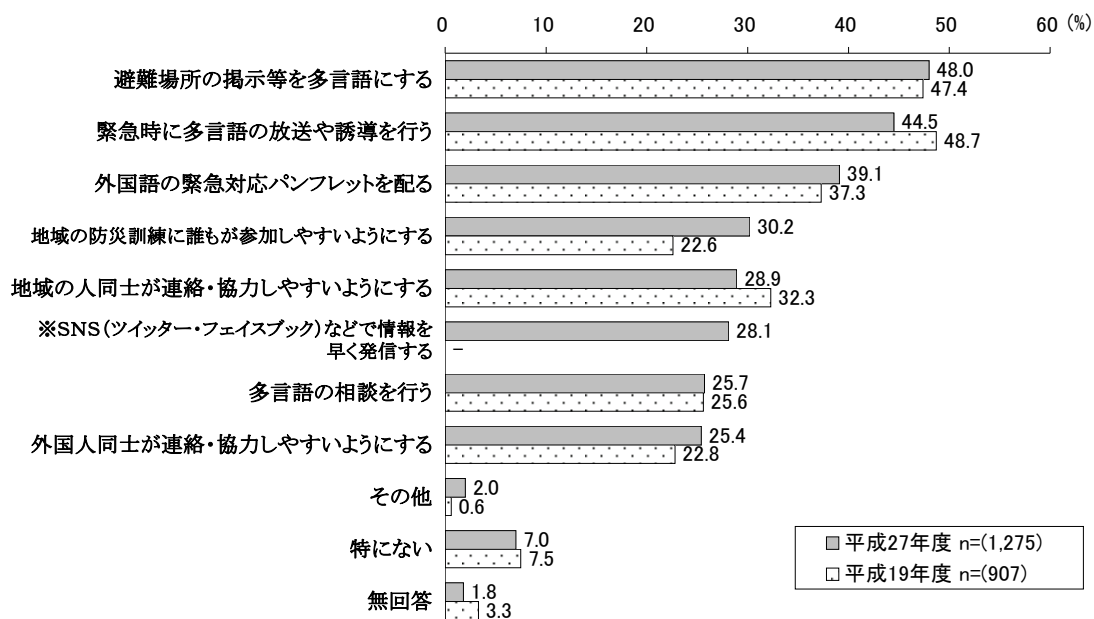


### (3) 新宿区に望む災害対策

◇「避難場所の掲示等を多言語にする」が5割近くで最も高い

問20	あなたは、新宿区にどのような災害対策をしてほしいですか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	避難場所の掲示等を多言語にする	48.0%
2	外国語の緊急対応パンフレットを配る	39.1
3	緊急時に多言語の放送や誘導を行う	44.5
4	SNS(ツイッター・フェイスブック)などで情報を早く発信する	28.1
5	多言語の相談を行う	25.7
6	地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする	30.2
7	地域の人同士が連絡・協力しやすいようにする	28.9
8	外国人同士が連絡・協力しやすいようにする	25.4
9	その他	2.0
10	特にない	7.0
	(無回答)	1.8

<図表4-4>新宿区に望む災害対策(複数回答) / (参考)平成19年度との比較



(注) ※ 今回調査で新設した項目である。

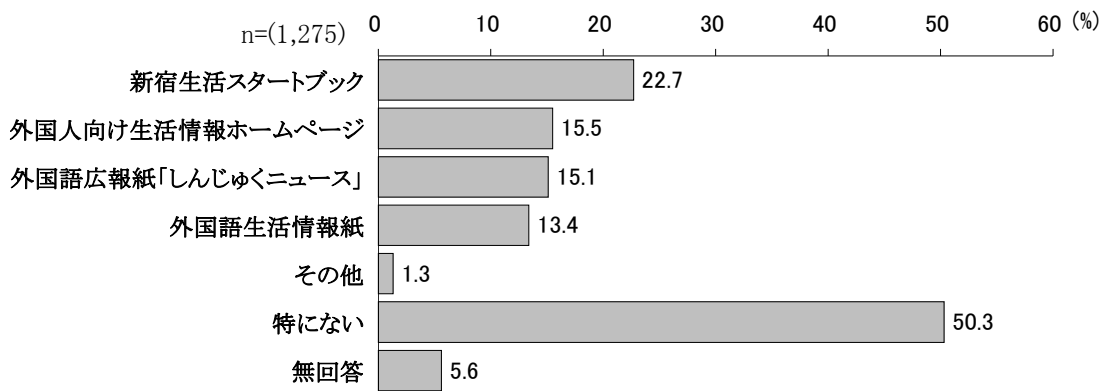
## 5 必要な情報・サービスについて

### (1) 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの

◇「新宿生活スタートブック」が2割強。一方「特にない」が約5割

問21	新宿区では外国人向けの情報を多言語(ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語)で提供しています。次の中で知っているものをお答えください。(〇はいくつでも)				
	〔n=1,275〕				
1	外国語広報紙「しんじゅくニュース」	15.1%	4	外国人向け生活情報ホームページ	15.5
2	新宿生活スタートブック	22.7	5	その他	1.3
3	外国語生活情報紙	13.4	6	特にない	50.3
				(無回答)	5.6

<図表5-1>新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの(複数回答)

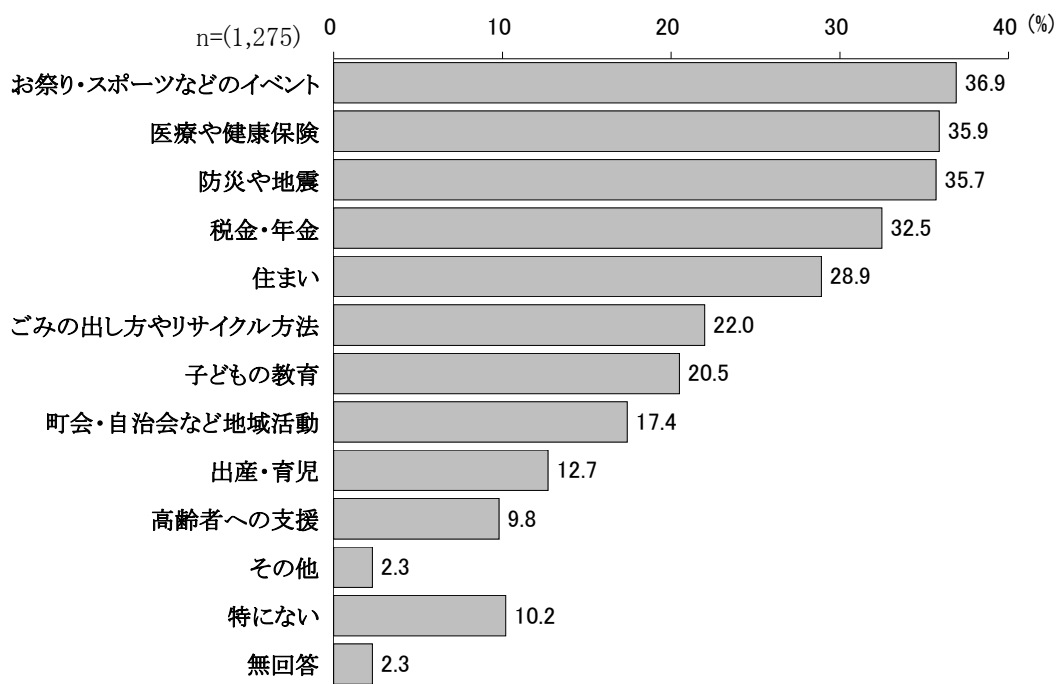


## (2) 新宿区で生活していく上で知りたい情報

◇「お祭り・スポーツなどのイベント」が3割台半ばを超え最も高く、「医療や健康保険」と「防災や地震」が3割台半ば

問22 新宿区で生活していく上で、どんな情報をもっと知りたいですか。(〇はいくつでも)				
[n = 1, 275]				
1	ごみの出し方やリサイクル方法	22.0%	7 出産・育児	12.7
2	防災や地震	35.7	8 子どもの教育	20.5
3	高齢者への支援	9.8	9 住まい	28.9
4	医療や健康保険	35.9	10 お祭り・スポーツなどのイベント	36.9
5	町会・自治会など地域活動	17.4	11 その他	2.3
6	税金・年金	32.5	12 特にない	10.2
			(無回答)	2.3

<図表5-2>新宿区で生活していく上で知りたい情報 (複数回答)

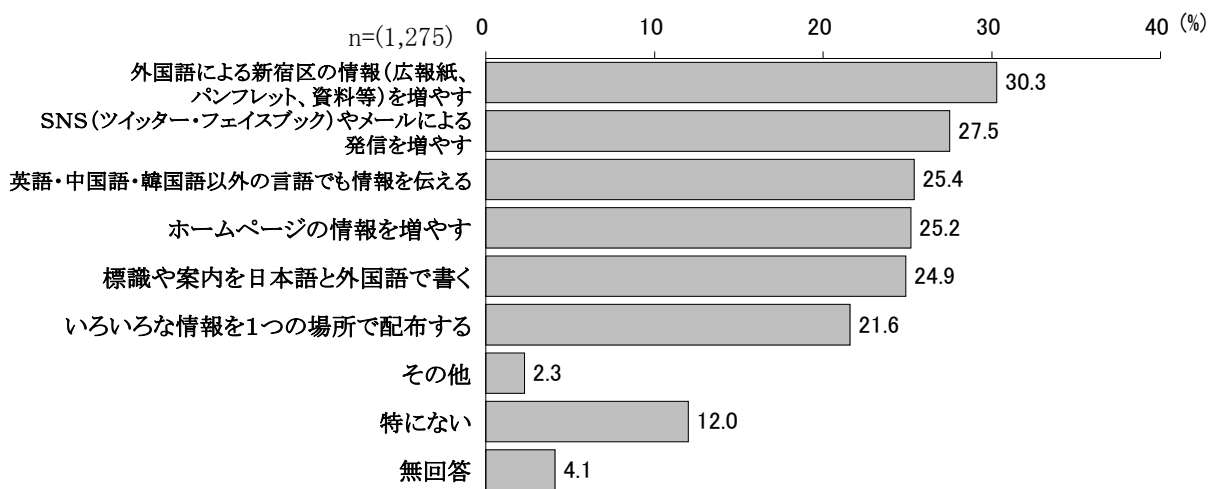


(3) 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと

◇「外国語による新宿区の情報を増やす」が約3割で最も高い

問23	必要な情報を手に入れるために、新宿区にどんなことをしてほしいですか。	(〇はいくつでも)
	[n=1,275]	
1	いろいろな情報を1つの場所で配布する	21.6%
2	外国語による新宿区の情報(広報紙、パンフレット、資料等)を増やす	30.3
3	英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える	25.4
4	標識や案内を日本語と外国語で書く	24.9
5	ホームページの情報を増やす	25.2
6	SNS(ツイッター・フェイスブック)やメールによる発信を増やす	27.5
7	その他	2.3
8	特にない	12.0
	(無回答)	4.1

<図表5-3> 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと (複数回答)



## 6 多文化共生のまちづくり

### (1) しんじゅく多文化共生プラザについて

◇「はじめて知った」が7割台半ば近い

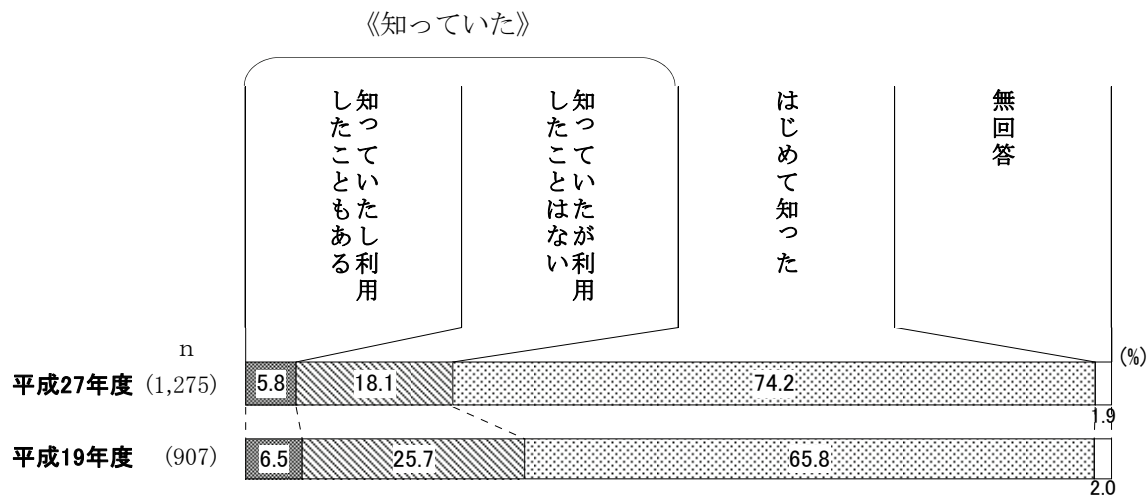
しんじゅくく、さまさま、こくせき、みんぞく、ひとびと、たが、ぶんか、ちが、みと、りかい、ちいき、とも、い  
 新宿区では、様々な国籍・民族の人々が、互いの文化の違いを認め、理解し、地域で共に生き  
 ていく「多文化共生のまちづくり」を推進しています。

問24 しんじゅくく、にほんじん、がいこくじん、こうりゅうしせつ、たぶんかきょうせいぶらざ、せっち  
 新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、  
 にほんごがくしゅう、しりょう、じょうほう、ていきょう、こうりゅうかい、こうざとう、おこな  
 日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っています。あなたは、この施設を  
 知っていますか。(〇は1つだけ)

[n=1,275]

1	知っていたし利用したこともある	5.8%	3	はじめて知った	74.2
2	知っていたが利用したことはない	18.1	(無回答)		1.9

<図表6-1> しんじゅく多文化共生プラザについて／平成19年度との比較

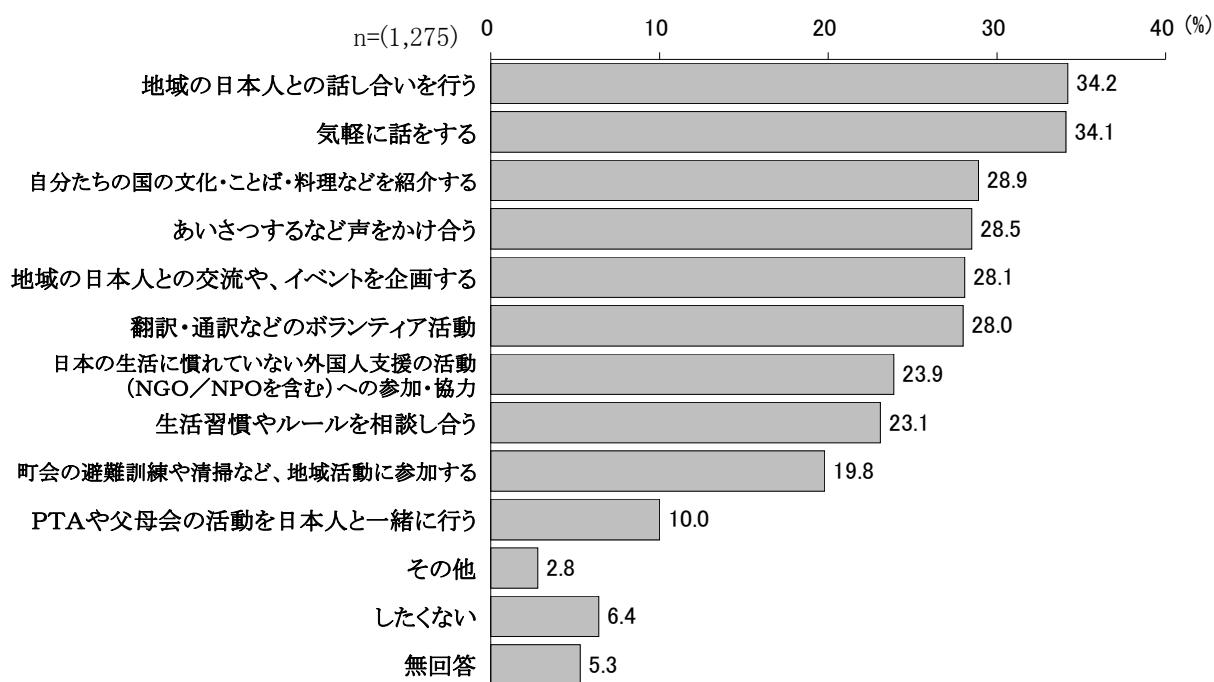


## (2) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと

◇「地域の日本人との話し合いを行う」と「気軽に話をする」が3割台半ば近くで高い

問25	新宿区では「多文化共生のまちづくり」を進めるために、皆さんに能力や経験を生かして地域で活躍してほしいと考えています。そこで、あなたは、地域の中でどのような活動してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)	[n=1,275]
1	あいさつするなど声をかけ合う	28.5%
2	気軽に話をする	34.1
3	生活習慣やルールを相談し合う	23.1
4	地域の日本人との話し合いを行う	34.2
5	地域の日本人との交流や、イベントを企画する	28.1
6	町会の避難訓練や清掃など、地域活動に参加する	19.8
7	自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する	28.9
8	PTAや父母会の活動を日本人と一緒にやる	10.0
9	翻訳・通訳などのボランティア活動	28.0
10	日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)への参加・協力	23.9
11	その他	2.8
12	したくない	6.4
	(無回答)	5.3

<図表6-2>多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと(複数回答)





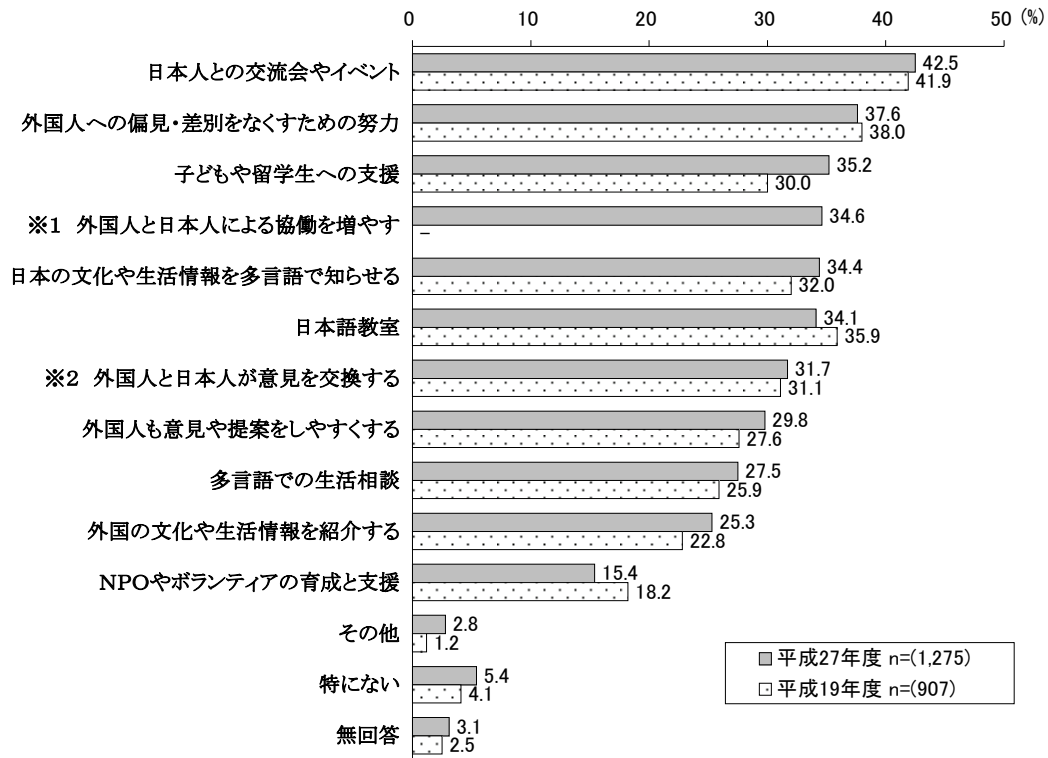
(3) 多文化共生のまちづくり推進のために区が進めるべきと思うこと

◇「日本人との交流会やイベント」が4割強で最も高く、「外国人への偏見・差別をなくすための努力」が3割台半ばを超える

問26	「 <sup>たぶんかきょうせい</sup> 多文化共生のまちづくり」を <sup>すす</sup> 進めるために、 <sup>こんごく</sup> 今後の区 <sup>たいおう</sup> の対応として、どのようなことを <sup>すす</sup> 進めるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	<sup>にほんじん</sup> 日本人との <sup>こうりゅうかい</sup> 交流会や <sup>いべんと</sup> イベント	42.5%
2	<sup>にほん</sup> 日本の <sup>ぶんか</sup> 文化や <sup>せいかつじょうほう</sup> 生活情報を <sup>たげんご</sup> 多言語で知らせる	34.4
3	<sup>がいこく</sup> 外国の <sup>ぶんか</sup> 文化や <sup>せいかつじょうほう</sup> 生活情報を <sup>しょうかい</sup> 紹介する	25.3
4	<sup>たげんご</sup> 多言語での <sup>せいかつそうだん</sup> 生活相談	27.5
5	<sup>にほんご</sup> 日本語教室	34.1
6	<sup>がいこくじん</sup> 外国人と <sup>にほんじん</sup> 日本人が <sup>いけん</sup> 意見を <sup>こうかん</sup> 交換する	31.7
7	<sup>がいこくじん</sup> 外国人と <sup>にほんじん</sup> 日本人による <sup>きょうどう</sup> 協働を <sup>ふ</sup> 増やす	34.6
8	<sup>NPO</sup> NPOや <sup>ボランティア</sup> ボランティアの <sup>いくせい</sup> 育成と <sup>しえん</sup> 支援	15.4
9	<sup>がいこくじん</sup> 外国人への <sup>へんけん</sup> 偏見・ <sup>さべつ</sup> 差別をなくすための <sup>どりよく</sup> 努力	37.6
10	<sup>こども</sup> 子どもや <sup>りゅうがくせい</sup> 留学生への <sup>しえん</sup> 支援	35.2
11	<sup>がいこくじん</sup> 外国人も <sup>いけん</sup> 意見や <sup>ていあん</sup> 提案をしやすくする	29.8
12	<sup>た</sup> その他	2.8
13	<sup>とく</sup> 特にない	5.4
	(無回答)	3.1

<図表 6-3> 多文化共生のまちづくり推進のために区が進めるべきと思うこと（複数回答）

／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 今回調査で新設した項目である。

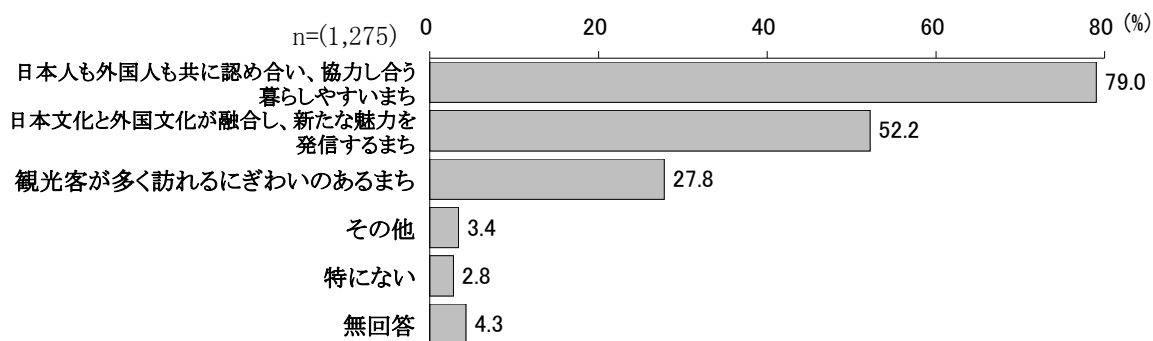
(注) ※2 「外国人と日本人が意見を交換する」は、平成19年度調査では「外国人と日本人の意見交換会・話し合い」であった。

#### (4) 新宿区への期待

◇「日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」が8割弱で最も高い

問27	これから新宿区がどのようなまちになって欲しいですか。(〇はいくつでも)	
	[n=1,275]	
1	観光客が多く訪れるにぎわいのあるまち	27.8%
2	日本文化と外国文化が融合し、新たな魅力を発信するまち	52.2
3	日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち	79.0
4	その他	3.4
5	特にない	2.8
	(無回答)	4.3

<図表6-4>新宿区への期待 (複数回答)



## 7 自由回答（抜粋）

新宿区をもっと住みやすいまちにするために、あなたのご意見を、自由に書いてください。

新宿区の多文化共生のまちづくりに対する意見や要望を自由に記入していただいたところ、454件のご意見が寄せられた。その主な内容について掲載する。

- ・類似した内容のご意見については、その主なものを掲載する。
- ・原文を可能な限り尊重し、個人・団体が特定されないように配慮するとともに、誤字・脱字と思われるものは修正した。

- 働く母親として、子育てや週末の時間の過ごし方の情報がもっと欲しいです。また、同じ状況の他の親たちと交流できる場所があるといいと思います。上級日本語クラスもあると役立つと思います。（女性／30歳代／北米／柏木）
- 日本への訪問者として、基本的には外国人が責任を持って日本文化や様式を学び、それに溶け込むべきだと思います。（男性／40歳代／欧州／戸塚）
- 私のような多くの外国人は、日本社会にもっと溶け込もうとしていますが、必要な日本語のスキルや情報がありません。また、私は幸運にも差別をされたと感じたことはほとんどありません。しかし、国民年金の外国人の扱いは例外だと思います。（女性／50歳代／北米／筆筒町）
- 夫が賃貸物件を借りようとしたが、何回も断られた。私たちが日本語を話せない外国人であることがその理由のすべて。新宿区には外国人用の賃貸物件の案内を用意してもらえるとありがたい。（女性／30歳代／その他のアジア／四谷）
- 健康保険や税金、年金関係の情報がもっと欲しい。最初に日本に来た時、それらに登録するべきだという情報しかもらえず、後で多額を支払うように求められた。それが支払えなくて、とても怒りがわき悲しかった。（女性／30歳代／欧州／落合第二）
- 地域のイベント情報が日本語だけで外国人の私にはわかりません。ポスターやバナーを英語でもお願いします。また、緊急情報も英語で発信されるべきです。（男性／20歳代／その他のアジア／四谷）
- 東京(新宿)は欧米人には住みやすい場所です。日本人と外国人の間の問題は深いところにあります。60歳以上の日本人が外国の文化や考え方にオープンで知識があるように思えるのは理由があるはずで、学校教育では、日本の10代・20代と、特に韓国や中国などの近隣アジア諸国の外国人との間の交流をもっと促進するべきです。（女性／40歳代／欧州／落合第二）
- 町会または新宿区による旅行等のイベントを計画してほしい。自費でも構いません。そうすれば外国人と日本人との交流の機会を増やせます。（女性／20歳代／中国／柏木）
- いろいろな国から来た人たちは、みんな日本語で交流するため、日本語は重要なツールですが、生活関連のガイドブックやハンドブックについては多言語対応の翻訳版を出してほしいです。というのも、ルールを破るつもりはなくても、日本語がよくわからないためにやってしまうことが多々あるからです。（女性／20歳代／中国／大久保）
- 日本語が話せない外国人のためにもっと交流や勉強の機会を提供したほうがよい。また日本語を必要としないボランティアの仕事をもっと提供する。（女性／30歳代／中国／角筈・区役所）

- 日本語が話せないため、子どもの入学問題に頭を悩ませています。サポートしていただきたいです。(女性/30歳代/中国/大久保)
- 外国人とはいっても日本に住んでいるのだから、みな手を持って素晴らしい生活環境を守っていくため、外国人に対しても厳しい要求を課し、日本の習慣や制度に従わせるようにしていただきたいと思います。出身国の悪い習慣を日本に持ち込むことのないように。(女性/20歳代/中国/落合第一)
- 行政が主催する日本語学習カリキュラムがもっと多ければと思います。週に1回だけでの授業では効果も上がりやすく、学んでもすぐに忘れてしまい、なかなか日本語を習得できません。内容は、日常生活でよく使われる日本語を教えるものが理想です。(女性/20歳代/中国/大久保)
- 新宿には多くの中国人観光客が来ます。中国のまちなかにはあちこちにごみ箱がありますが、日本では設置されていません。このため、中国人観光客がごみをどうすれば良いか分からず、ポイと捨ててしまう事態につながっており、まちの清潔さや住民の生活の質を損ねるとともに、両国民間の誤解を生んでいます。人通りが多い場所には目立つようにごみ箱を設置するなどの措置をとっていただきたいと思います。国が違えば状況も異なりますので、相互に理解を深めることができたらと感じています。(女性/20歳代/中国/若松町)
- 東京は日本の中心都市であり、新宿は東京を代表する地区です。日本の文化と海外の文化を融合させ、キラリと光る点、オリジナリティを打ち出してほしい。(女性/30歳代/中国/戸塚)
- 新宿区で実施するイベント、お祭り、子どもたちの体験について情報を簡単に知りたい。しんじゅく多文化共生プラザについて情報を知りたい。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/若松町)
- 外国語の案内は多いが、大部分が観光客対象で、実際に居住している人たちは役立つとは思っていないようです。あえて外国人のために何かをするより、外国人を外国人と規定するのではなく、区民のために何を変えて便利で住みよいまちにするかを考える必要があると思う。(女性/20歳代/韓国・朝鮮/柏木)
- 新宿がとても好きです。外国人と新宿区内の事業者たちとの交流の機会をつくるとよいと思います。(男性/50歳代/韓国・朝鮮/若松町)
- いろいろな国の人たちが集まっている新宿区。住んでみると問題が生じます。ひとつの経験のみでその国全体を見くびるような発言をせず、固定観念を捨て、人として互いに協力していく心が必要です。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/戸塚)
- 日本に来て7か月です。この間、夫と一緒に役所、病院、子どもの学校でいろいろなことをしていますが、そこでは私たちのような外国人を差別していないことがわかりました。話し方も含め、みんな親切です。新宿区が好きで感謝しています。(女性/30歳代/ミャンマー/戸塚)
- しんじゅく多文化共生プラザはビルの11階で部屋も閉ざされた感じで行きにくい。地域センター、生涯学習館など、各地域に広く根ざした「場づくり」をすべきで、1か所だけあっても使いにくい。(男性/60歳代/韓国・朝鮮/戸塚)
- アジアの国と日本の歴史関係について、お互いにもっと勉強すべきであると思う。近代歴史について日本の若い人々は、あまりにも知らないようである。(男性/20歳代/韓国・朝鮮/四谷)
- 今まで外国人は助けてもらっている立場でしたが、もっと社会貢献ができるようなチャンスを区につくっていただきたいです。例えば、外国人の観光ガイド、外国人のボランティア等。そうすれば、自分の国に誇りを感じ、日本社会の一員として必要とされている充実感を感じられると思います。(女性/30歳代/中国/大久保)

- 「外国人しかいない変な町だね」ということを聞くよりも、「さまざまな文化、交流ができる勉強の場だね」といわれるまちになってほしいです。(男性/20歳代/中国/大久保)
- 大事なことは、外国人だからといって、特別視・特殊視しないこと。普通の感覚で良いと思う。また、外国人の側も特別視・特殊視を期待したりしないこと。近代人としてのモラルを互いに守ることが最も大事と考える。地域住民として、お互いに、いい意味で気をつかいながら、気持ちよく日々を過ごしたいものです。(男性/60歳代/韓国・朝鮮/落合第一)
- 区の出張所等に住民トラブル等の苦情相談員を置いて、外国人に関係あるトラブルを調停する職員が直接出向くなど、積極的に介入するべきだと思う。文化、生活習慣の違い等、原因は多種であろうが、調停する人がいなければお互いが被害者意識を持ち、相手を受け入れられなくなるだけでなく、経済的な損害も起こり得る可能性があると思う。(女性/70歳以上/北米/榎町)
- 新宿区は独自の文化や魅力を保って、無理矢理外国の文化を取り込む必要はないと思います。確かに外国人である私たちには慣れない部分もあるが、この国の文化と魅力にひかれたからこそ、ここに来た人も少なくないと私は信じています。(女性/20歳代/中国/榎町)
- 地震などについてのフランス語、英語のパンフレットがあればいいと思います。あまり役所に行く時間がないので、メールや郵便でもらえれば助かります。(女性/20歳代/欧州/戸塚)
- 日本人も他の国の人を敬うべきです。外国人学生、旅行者を含め、すべての人たちとコミュニケーションをとる習慣を身につける必要があると思います。そうすることで助け合いの気持ちも育まれ、外国人は日本人をもっと好きになるでしょう。(男性/20歳代/ネパール/戸塚)
- 最も大きな問題は日本語です。時間がないので言葉を勉強できていません。(男性/30歳代/ネパール/戸塚)
- 私は在日三世です。特別永住者であるわれわれを外国人扱いするのに、そもそも疑問を感じます。でも新宿区は住みやすく良いまちだと思います。(女性/40歳代/韓国・朝鮮/若松町)
- 外国人が外国で暮らしていて、差別を受けたり理解されないというのはある意味当たり前のことだと思います。私たちが社会に溶け込まなければならないのであって、社会に私たちを受け入れさせるのではないのです。日本人は外国人に対して十分寛容であり、特に複数の人種や文化が入り乱れている新宿区については特にそうであると思います。(女性/20歳代/中国/大久保)
- 外国人への管理を強化して全体的な資質を高めてほしいです。また新宿区が留学生の権利を守るための業務を行ってくれることを願います。特に部屋の賃貸問題について、留学生と不動産の仲介業者の管理を強化し、留学生の權益を守ってほしいです。(男性/20歳代/中国/大久保)
- ごみの捨て方についてももっとしっかり指導していただきたい。地面にごみが散乱しているのを見ると、日本ではないかのようです。(女性/30歳代/中国/大久保)
- 外国人が日本(新宿)で事業をすることにおいて、区が支援するプログラムがあればよいです。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/大久保)
- 日本人の外国語能力を向上させる必要があります。外国人の子どもたちが学校に通えるようにしてほしいです。(女性/30歳代/ネパール/大久保)
- 外国人への偏見をなくす。日本人のヨーロッパ出身の外国人への対応とアジア出身の外国人への対応に違いが見られる。(女性/20歳代/ネパール/大久保)
- 新宿区内で、日本の祭りと同時に外国の祭りも行っていてほしいです。ネパール人が集まって、ネパールのお祭りをやろうとしているところです。日本人からいろいろと手伝ってほしいと思います。(男性/20歳代/ネパール/大久保)

- 私は、外国だけではなく、日本の社会福祉についても学んできました。これからの「多文化共生のまちづくり」を進めるため、まず日本に留学生として長く住んでいる外国人の意見や経験などを含めた計画をつくり、日本人からの忠告に従ったほうがいいと思っています。そして、日本の異文化交流会を行ったり、多言語を話せる環境を作ったりすれば、住みやすいまちになるでしょう。(男性/20歳代/ネパール/大久保)
- ごみの分別ですが、ガイドは見ているが、それでも正確に出している自信がありません。もっと分別の仕方を細かく説明したり、またリサイクルの工程や再生法を示してもらえたら、分別の判断がしやすいと思います。(男性/20歳代/中国/笹岡町)
- このようなニーズ調査をし、反映させるのは大事だとは思っています。しかし、新宿区内で行われているデモを見ていると、このような調査の効果はあるのかと思えます。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/柏木)
- 日本で、それも新宿区に住んでいて、新宿区のルールをよく守ることは当然だが、特定の国を対象にして攻撃する日本の少数の人々のせいで、ここに住んでいる人たちがどのような混乱に直面しているのか、同じ人間として理解を示し、広い視野で互いに楽しく暮らすことができればよいと思います。(男性/30歳代/韓国・朝鮮/柏木)
- 外国人に対する配慮がまだ完全ではないと思う。もちろん、他の国に比べて日本は外国人に対して配慮があるとは思いますが。無料電話のサービスや、困った時にすばやく頼れる何かしらが必要だと思う。事故やトラブルがあった時に、言葉で説明できないがゆえに責任を押しつけられた経験がある。(女性/30歳代/中国/柏木)
- 観光事業によってマナーがない外国人が氾濫しているようだ。ある程度の規制が必要に思える。オーバーステイをしたり、犯罪を犯す不適切な外国人が少しずつ増えて、住みづらくなり、治安が不安な新宿区になるかもしれない。(男性/40歳代/韓国・朝鮮/落合第一)
- 仕事を簡単に探せるよう、病院を簡単に探せるよう、部屋を借りる際にスムーズに借りられるようにしてもらいたい。(男性/20歳代/ミャンマー/落合第一)
- 外国人が日本語で手続きを行うのは大変なので、公共機関では英語などの広く使用されている言語を使うべきです。私の場合は日本語が話せないという理由で、新宿区の銀行で口座が開けませんでした。銀行口座を持っていない人が一体どんな生活になるのか考えてみてほしいです。(男性/20歳代/ベトナム/落合第一)
- 国際都市にふさわしく、日本人・外国人の融和を重視する施策を考えてください。(女性/70歳以上/中国/落合第一)
- 東京は2020年にオリンピックを開催するのに、住民のためのスポーツのインフラストラクチャーが全然ない(男性/50歳代/欧州/榎町)
- 小中高等学校、幼稚園等で、外国人の子女がいじめにあうようなことをなくしてほしい。専門の先生、カウンセラーが学校を巡回して指導して行ってほしい。小さい頃から偏見がなくなれば、大人になってもなくなっていくと思います。(女性/40歳代/タイ/四谷)
- こういうアンケート調査をしていただいたことに感激しました。新宿区がこれからはもっと良くなっていけばいいなと思っています。(女性/20歳代/中国/四谷)
- 新宿区は、他の区と比べて外国人には住みやすいと思います。イベントだけでなく、もっと気軽に外国人と日本人が仲良くなれる場所があるといいですね。(男性/30歳代/欧州/若松町)
- もっと安全で平和に住めるまちになってほしい。(女性/30歳代/その他のアジア/若松町)

- 外国の文化や生活情報を紹介する。外国人と日本人が意見を交換する。外国人と日本人による協働を増やす。(女性/20歳代/ベトナム/大久保)
- 国は関係なく、一人の人間として相手のことを理解し、尊敬し合うことが大事だと思っています。(女性/20歳代/タイ/大久保)
- このようなアンケート調査をしてくれること自体に感謝しています。新宿区がんばろう！(男性/70歳以上/韓国・朝鮮/大久保)
- 私は留学生の時から今まで20年近く住んでいますが、不便なことはなく、暮らしやすいです。周辺の日本人や外国人、同国の人たちみんなと仲良く暮らしています。(女性/40歳代/韓国・朝鮮/大久保)
- 地震の時の行動マニュアルがあればよいと思います。(女性/30歳代/韓国・朝鮮/大久保)
- 外国人の文化や生活にもっと目を向けていただけたらと思います。意見を互いに交換し、ともに改善していくため、外国人が参加できるカルチャー、スポーツ等のイベントをもっと開催していただけたらと思います。(男性/50歳代/中国/大久保)
- 日本は愛すべき国であり、新宿もまた多様な文化の共存する地域であると感じています。今後日本でしっかり学び、日中関係を良好なものとし、仲良く共存共栄していければと願っています。(男性/20歳代/中国/大久保)
- 外国人がより日本の社会に溶け込めるように、外国人による地域公共サービスを増やし、外国人が地域ボランティアとして貢献できるようにする。(女性/30歳代/中国/大久保)
- 外国人に対する設備やサービスを増やす。例えば家賃を少し下げ、外国人に対してもっと早く簡単に部屋を貸してもらえるようにしてほしい。そして、家に送付される手紙やその他の書類は、漢字でなく英語とひらがな・カタカナであってほしいと思います。(男性/30歳代/ネパール/箆笥町)
- 外国人に日本文化、社会規則をもっと知らせていただきたいです。また、新宿区に住んでいる、通っている外国人留学生への奨学金を増やしていただきたいです。(女性/20歳代/中国/柏木)
- 新宿区の活動には満足しています。ミャンマー語のパンフレットがあると本当に喜びます。他の区と違う活動なので外国人に対し特別に理解してくれる心に感謝します。(女性/60歳代/ミャンマー/柏木)
- 外国人が必ず利用する駅、ホテル、レストランといった所では英語で話がスムーズに通じるようにし、最低1人は日本語・英語の両言語ができるスタッフを置くようにすれば、この地域の外国人にとって、もっと魅力的なまちになるでしょう。(男性/20歳代/ネパール/柏木)
- 新宿区に住んでいると何かと便利です。どこへ行っても新宿区が一番便利だと思いますので文句はありません。(女性/20歳代/ミャンマー/落合第一)
- 新宿区は栄えたまちであり、行政機関の職員はまじめで、親切で優しく、仕事も効率的である。(女性/70歳以上/中国/落合第二)
- 日本に来てから6年目になり、通った日本語学校、専門学校は全部新宿区にあります。交通の便利さを感じてずっと新宿区に住んでいました。住民税は高いと感じましたが、その他不満はありません。(女性/20歳代/中国/落合第二)



## 第2章 日本人住民調査

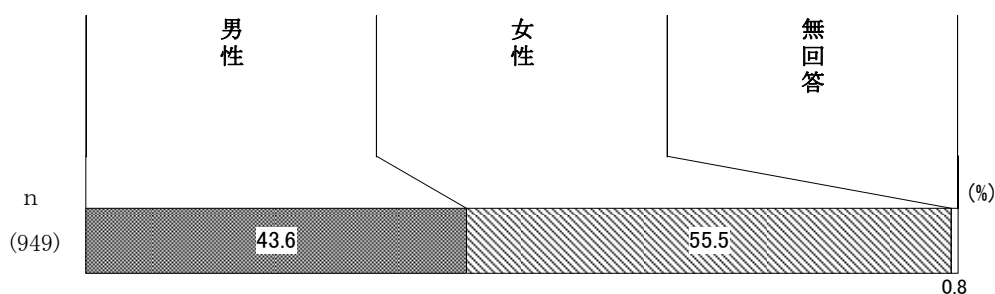
### I 調査回答者の属性

#### (1) 性別

◇男性が4割台半ば近く、女性は5割台半ば

問1 あなたの性別は次のどちらですか。(○は1つだけ。性別の回答は任意です。)					
[n=949]					
1	男性	43.6%	2	女性	55.5%
				(無回答)	0.8

<図表1>性別

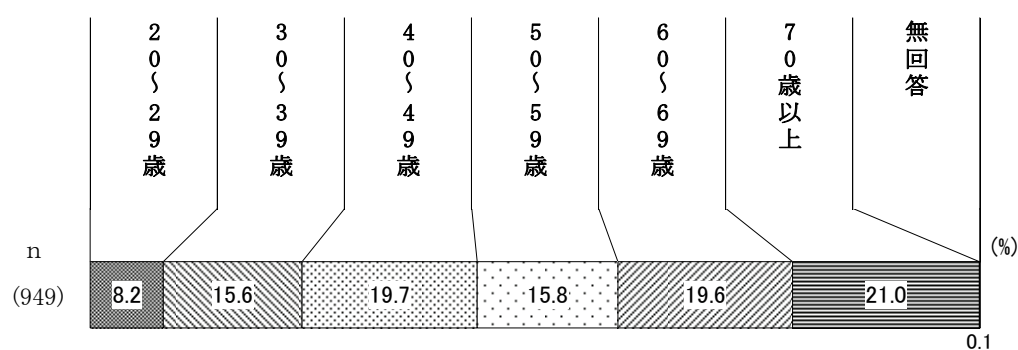


#### (2) 年齢

◇「70歳以上」は2割強、「40～49歳」と「60～69歳」が2割弱

問2 あなたの年齢は次のどれですか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	20～29歳	8.2%	3	40～49歳	19.7%
2	30～39歳	15.6%	4	50～59歳	15.8%
			5	60～69歳	19.6%
			6	70歳以上	21.0%
				(無回答)	0.1

<図表2>年齢

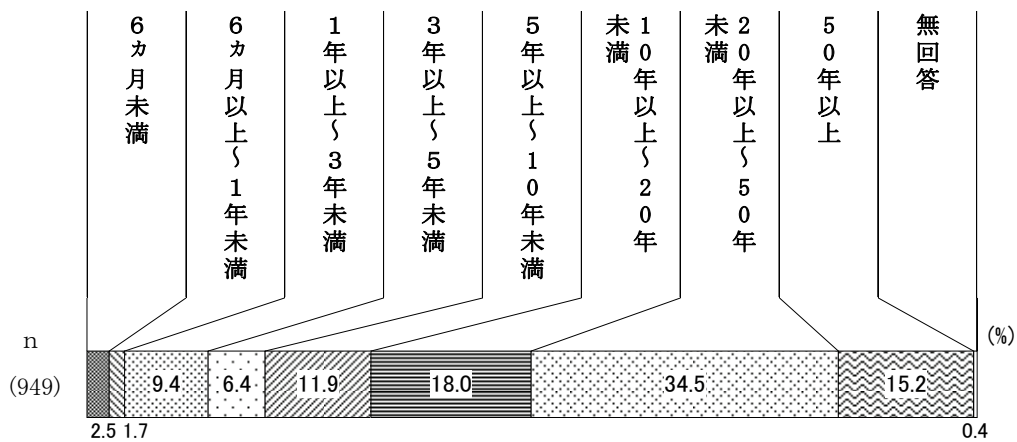


### (3) 新宿での居住年数

◇「20年以上～50年未満」が3割台半ば近い

問3 あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	6ヵ月未満	2.5%	5	5年以上～10年未満	11.9
2	6ヵ月以上～1年未満	1.7	6	10年以上～20年未満	18.0
3	1年以上～3年未満	9.4	7	20年以上～50年未満	34.5
4	3年以上～5年未満	6.4	8	50年以上	15.2
				(無回答)	0.4

<図表3>新宿での居住年数



#### (4) 同居人

◇一緒に住んでいる人は「配偶者又はパートナー」が5割台半ばを超え最も高い

問4 あなたが現在一緒に住んでいる人はどなたですか。(〇はいくつでも)

[n=949]

1 配偶者又はパートナー	57.3%	5 友人・知人	0.5
2 子ども	31.6	6 その他	2.7
3 自分又は配偶者の親	13.0	7 いない	24.4
4 その他の親類	4.4	(無回答)	0.8

(問4で、「2 子ども」とお答えの方に)

問4-1 あなたのお子さんについて教えてください。( )の中に人数を記入して下さい。

[n=300]

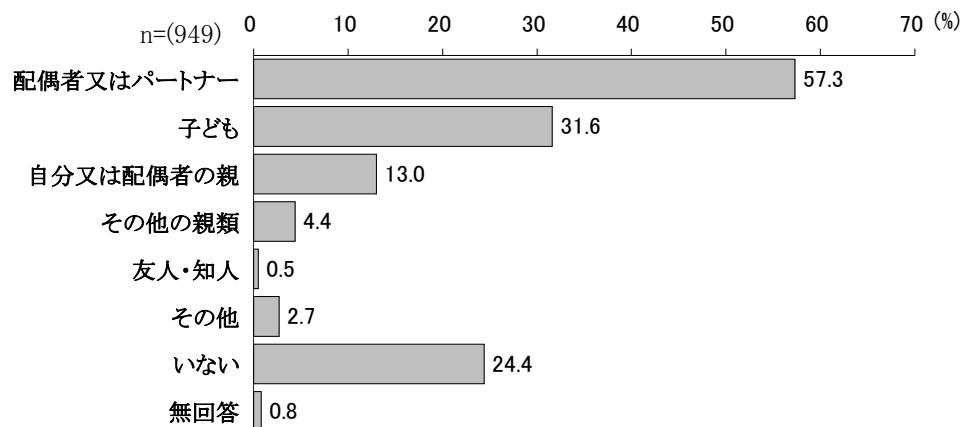
子どもの人数：( )人

子どもの年齢：6歳未満( )人 6歳～12歳( )人 13歳～15歳( )人

16歳～18歳( )人 19歳以上( )人

#### ①同居人

<図表4>同居人 (複数回答)



#### ②子どもの年齢

<図表5>子どもの人数と年齢 (複数回答)

子どもと同居している人数	296
--------------	-----

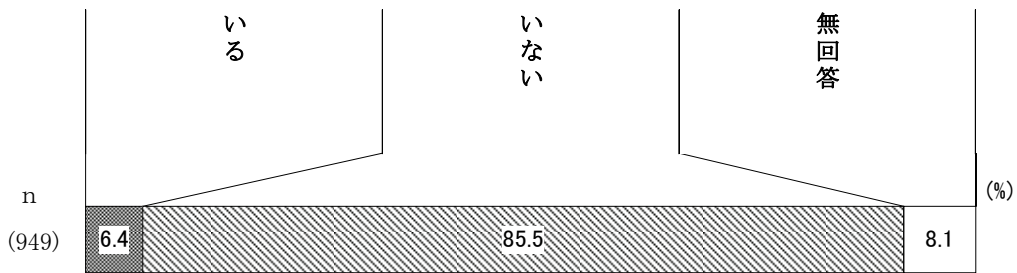
年齢ごとの 子どもの人数	6歳未満	71
	6歳～12歳	56
	13歳～15歳	41
	16歳～18歳	40
	19歳以上	149

(5) 親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方の有無

◇親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方が「いる」は約6%

問5 あなたの親類(配偶者・親等)に、外国籍の方や外国にルーツを持つ方はいますか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	いる	6.4%	2	いない	85.5%
				(無回答)	8.1%

<図表6> 親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方の有無

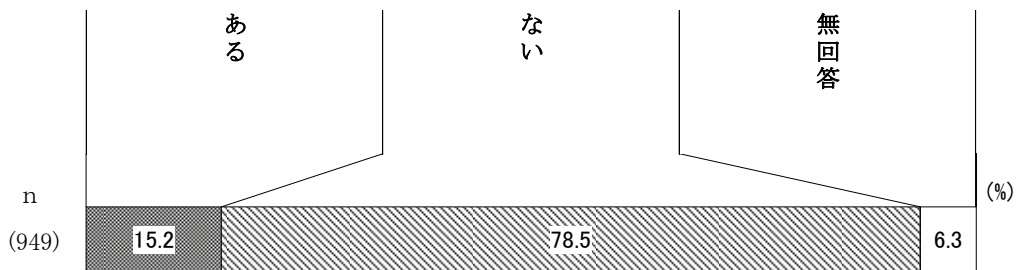


(6) 海外での生活経験

◇海外での生活経験が「ある」は1割台半ば

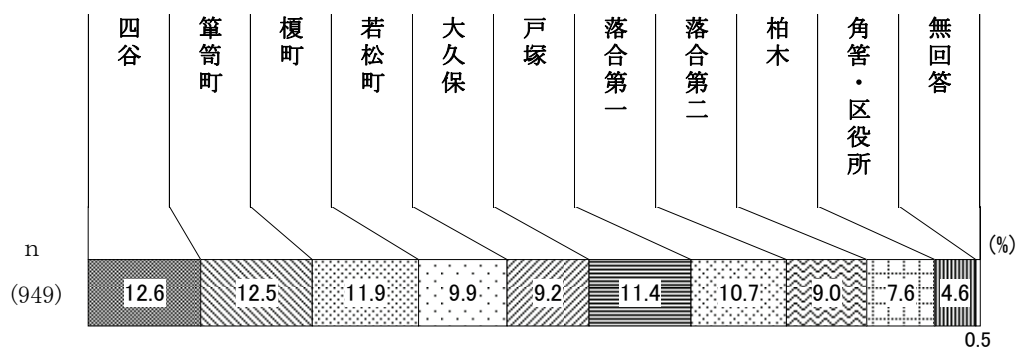
問6 あなたはこれまで海外での生活経験(3ヵ月以上)がありますか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	ある	15.2%	2	ない	78.5%
				(無回答)	6.3%

<図表7> 海外での生活経験



# (7) 居住地域

<図表 8> 居住地域



## Ⅱ 調査結果

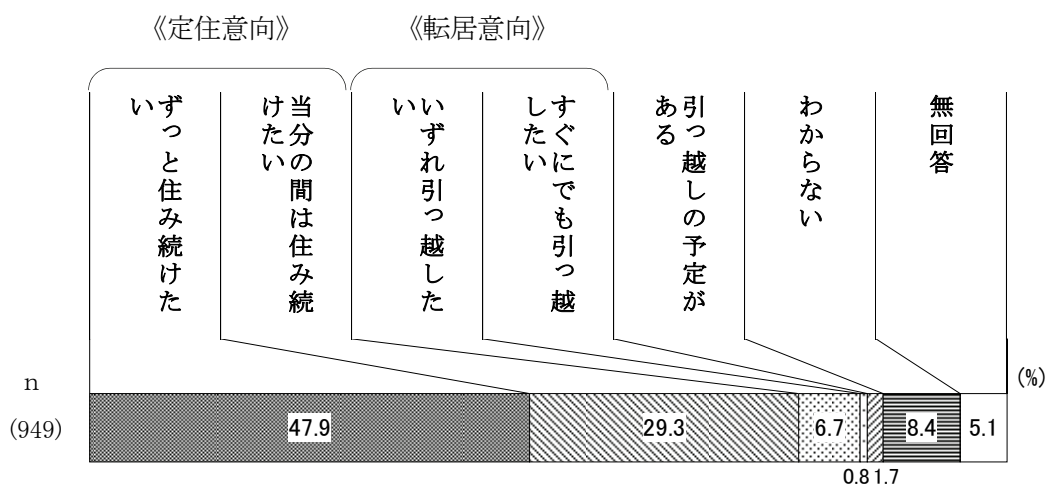
### 1 暮らしの実感

#### (1) 定住意向

◇ 《定住意向》は7割台半ばを超える

問7 この先どれぐらいの期間、新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	ずっと住み続けたい	47.9%	4	すぐにでも引っ越したい	0.8
2	当分の間は住み続けたい	29.3	5	引っ越しの予定がある	1.7
3	いずれ引っ越したい	6.7	6	わからない	8.4
				(無回答)	5.1

<図表1-1>定住意向



## (2) 外国人増加の実感

◇身近に外国人が《多いと感じる》は6割強

◇外国人が多いと感じる時は、「通りで外国人をよく見る」が8割台半ばを超え最も高い

問8 現在の新宿区の人口は約33万人です。そのうち約3万7千人が外国人です。あなたの身近には、外国人が多いと感じますか。(〇は1つだけ)

[n=949]

1 多いと感じる	37.2%	3 それほど多いとは感じない	25.4
2 ある程度は多いと感じる	24.6	4 少ないと感じる	5.1
		5 わからない	3.0
		(無回答)	4.8

(問8で、「1」か「2」とお答えの方に)

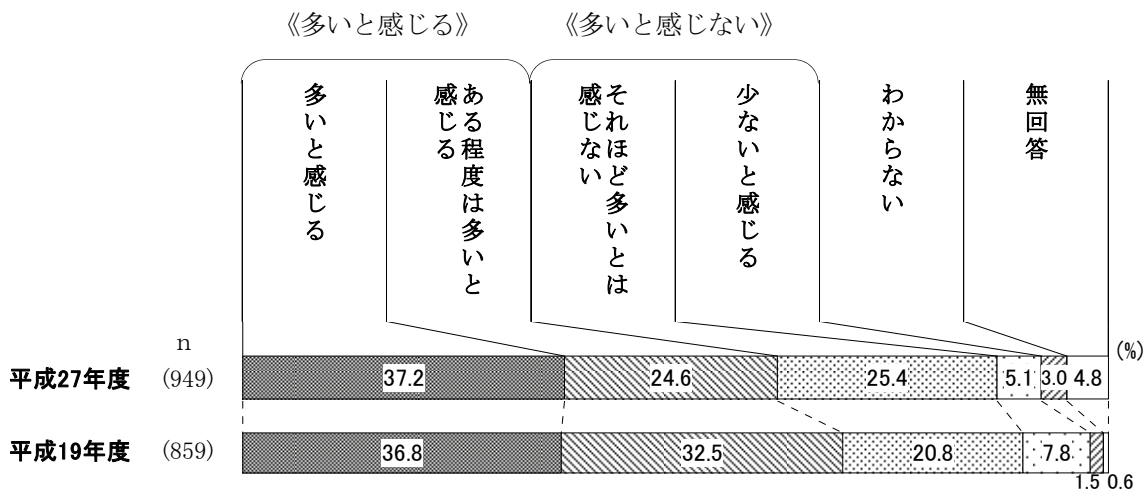
問8-1 それはどんな時ですか。(〇はいくつでも)

[n=586]

1 通りで外国人をよく見る	86.7%	6 外国人が経営する店や会社が増えた	29.2
2 近所に外国人が住んでいる	55.6	7 外国語の看板が多い	28.0
3 お店で働く外国人が多い	64.5	8 外国語の印刷物が多い	15.5
4 留学生が多い	24.4	9 その他	5.1
5 外国人の友人・知人が増えた	8.7	(無回答)	0.2

### ①外国人増加の実感

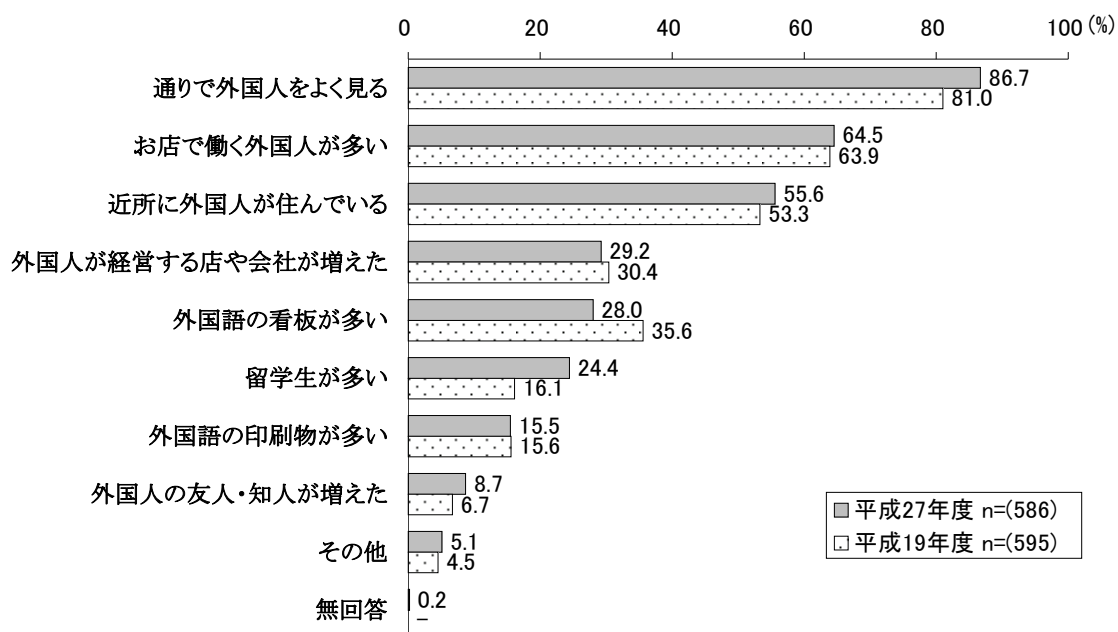
<図表1-2>外国人増加の実感／(参考)平成19年度との比較



(注) ※ 「少ないと感じる」は、平成19年度では「多いとは感じない」であった。

②外国人が多いと感じる時

<図表1-3>外国人が多いと感じる時（複数回答）／平成19年度との比較



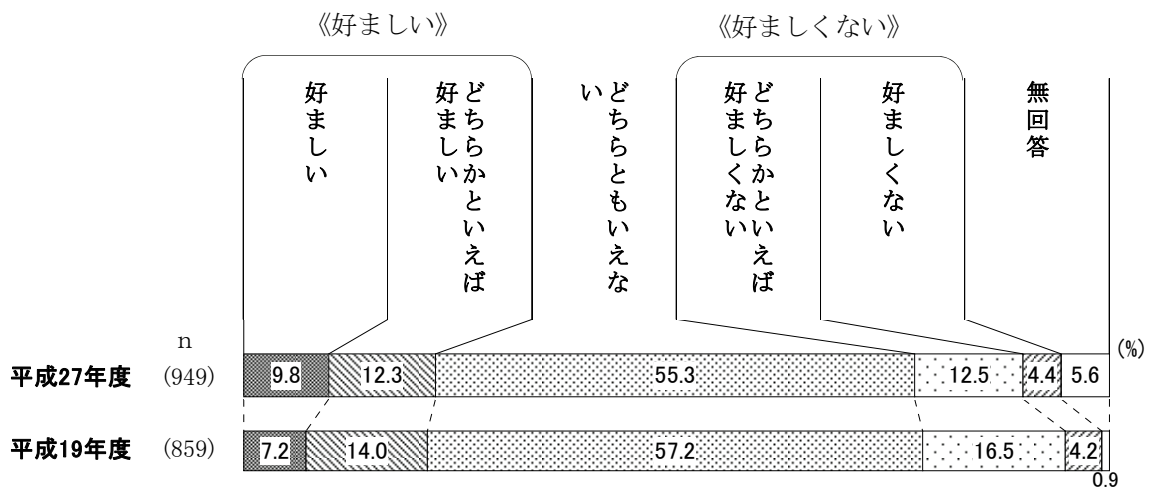


(3) 近所に外国人が住むことについての考え

◇ 《好ましい》が《好ましくない》をやや上回る

問9 あなたは、近所に外国人が住むことについてどう思いますか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	好ましい	9.8%	4	どちらかといえば好ましくない	12.5
2	どちらかといえば好ましい	12.3	5	好ましくない	4.4
3	どちらともいえない	55.3		(無回答)	5.6

<図表1-4> 近所に外国人が住むことについての考え／平成19年度との比較



(4) 近所に外国人が住むことについて感じる事

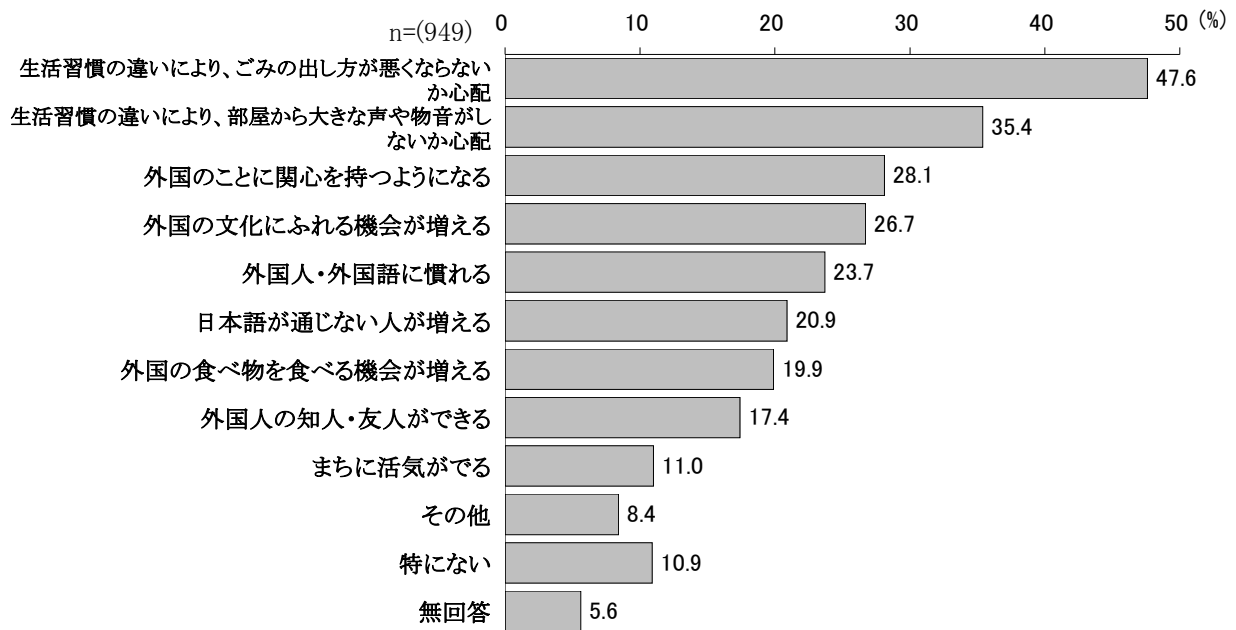
◇「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」が4割台半ばを超え最も高い

問10 近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じますか。  
(〇はいくつでも)

[n=949]

1	外国の食べ物を食べる機会が増える	19.9%
2	外国人・外国語に慣れる	23.7
3	外国の文化にふれる機会が増える	26.7
4	外国人の知人・友人ができる	17.4
5	外国のことに興味を持つようになる	28.1
6	まちに活気がでる	11.0
7	日本語が通じない人が増える	20.9
8	生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配	47.6
9	生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配	35.4
10	その他	8.4
11	特にない	10.9
	(無回答)	5.6

<図表 1-5> 近所に外国人が住むことについて感じる事 (複数回答)



(5) 外国人が生活上困っていたり不満があると思われること

◇「日本語が不自由」が4割で最も高く、「災害時・緊急時の対応」が3割強

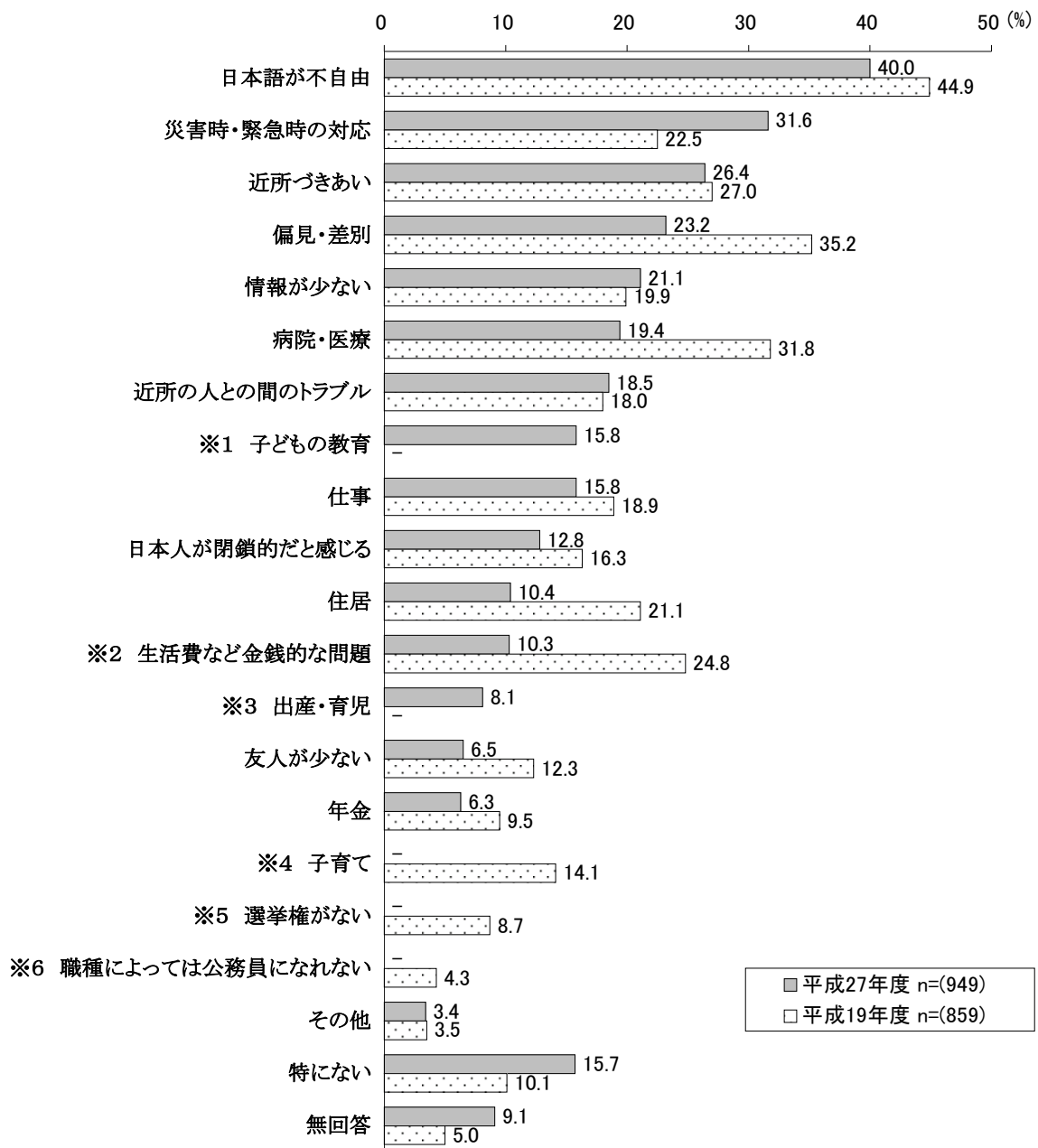
問11 あなたは、あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

[n=949]

1	日本語が不自由	40.0%	10	近所づきあい	26.4
2	情報が少ない	21.1	11	友人が少ない	6.5
3	住居	10.4	12	近所の人との間のトラブル	18.5
4	病院・医療	19.4	13	偏見・差別	23.2
5	年金	6.3	14	日本人が閉鎖的だと感じる	12.8
6	出産・育児	8.1	15	生活費など金銭的な問題	10.3
7	子どもの教育	15.8	16	その他	3.4
8	仕事	15.8	17	特になし	15.7
9	災害時・緊急時の対応	31.6		(無回答)	9.1

<図表1-6>外国人が生活上困っていたり不満があると思われること（複数回答）

／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 今回調査で新設した項目である。

(注) ※2 「生活費など金銭的な問題」は平成19年度調査では「物価が高い」であった。

(注) ※3 今回調査で新設した項目である。

(注) ※4、5、6は今回割愛

## 2 日常生活

### (1) 近所の外国人との付き合いの程度

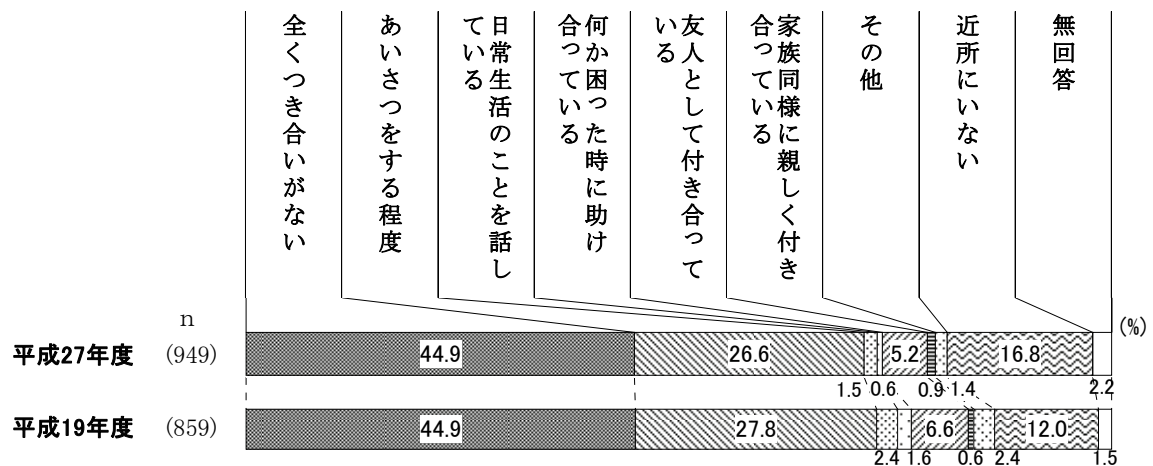
◇現在は「全くつき合いがない」が4割台半ば近い

◇今後は「あいさつをする程度」が2割台半ばを超える

問12 あなたは現在、近所の外国人とどんな付き合いがありますか。また、今後どのように接していきたいですか。(〇はそれぞれ1つ)			
現在			
[n=949]			
1 全くつき合いがない	44.9%	5 友人として付き合っている	5.2
2 あいさつをする程度	26.6	6 家族同様に親しく付き合っている	0.9
3 日常生活のことを話している	1.5	7 その他	1.4
4 何か困った時に助け合っている	0.6	8 近所にいない (無回答)	16.8 2.2
今後			
[n=949]			
1 全くつき合わない	7.5%	5 友人として付き合う	9.1
2 あいさつをする程度	27.5	6 家族同様に親しくつき合う	1.7
3 日常生活のことを話す	4.1	7 その他	2.2
4 何か困った時に助け合う	17.5	8 わからない (無回答)	25.5 5.0

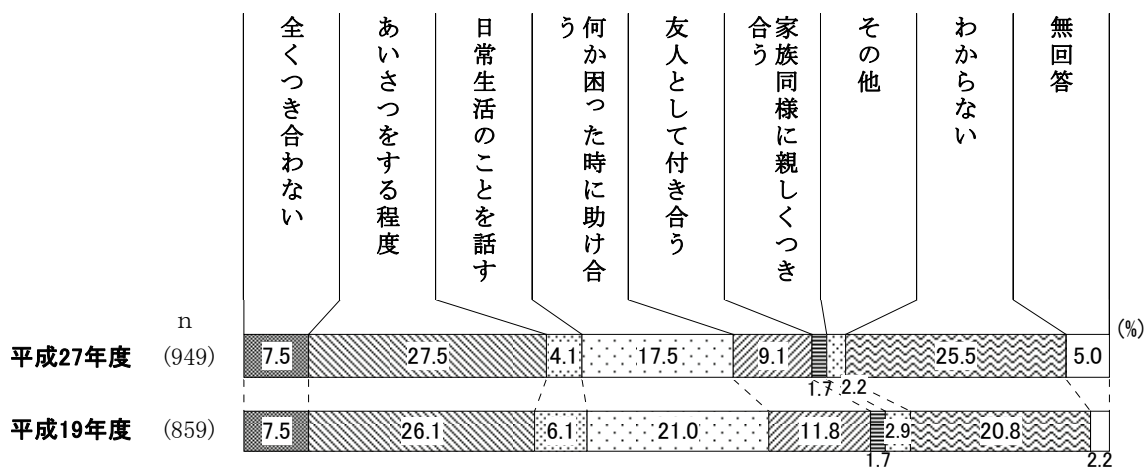
#### ①近所の外国人との付き合いの程度（現在）

<図表2-1>近所の外国人との付き合いの程度（現在）／平成19年度との比較



②近所の外国人との付き合いの程度（今後）

<図表 2-2> 近所の外国人との付き合いの程度（今後）／平成19年度との比較



(2) 外国人と生活していく上で大切なこと

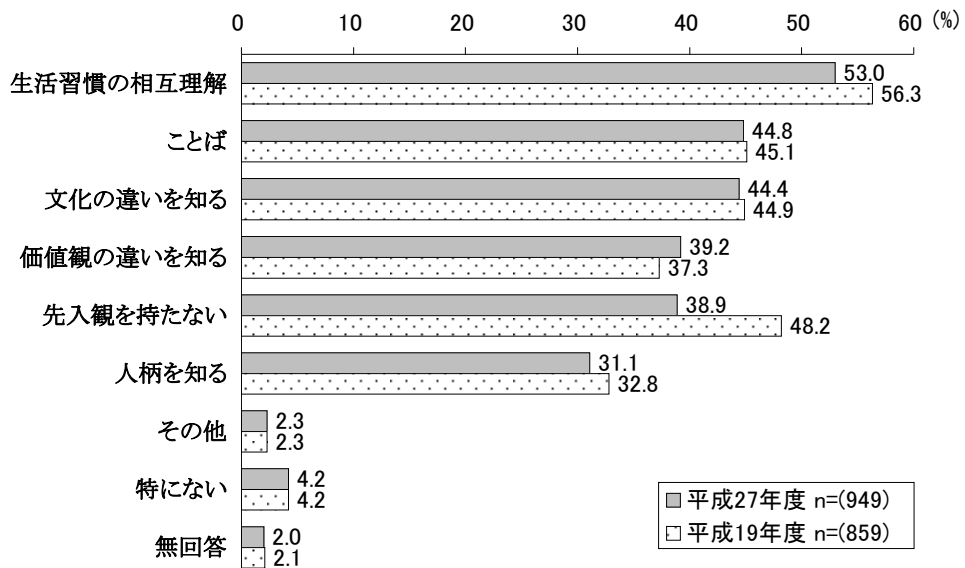
◇「生活習慣の相互理解」が5割台半ば近くで最も高い

問13 あなた自身が、同じ地域で外国人と生活していく上で大切なことは何だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

[n=949]

1	ことば	44.8%	5	人柄を知る	31.1
2	生活習慣の相互理解	53.0	6	先入観を持たない	38.9
3	価値観の違いを知る	39.2	7	その他	2.3
4	文化の違いを知る	44.4	8	特にない	4.2
				(無回答)	2.0

<図表2-3>外国人と生活していく上で大切なこと（複数回答）／平成19年度との比較



### (3) 外国人とのトラブル経験

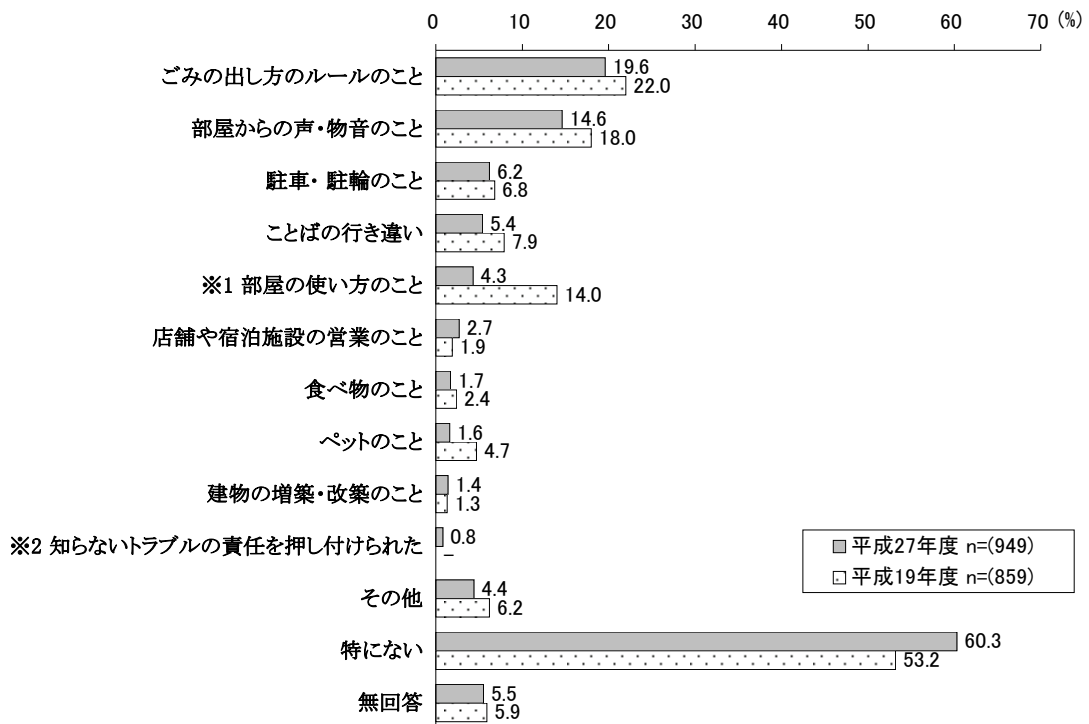
◇「特にない」が約6割で最も高いが、「ごみの出し方のルールのこと」が2割弱、「部屋からの声・物音のこと」が1割台半ば近くトラブルもある

問14 あなたは今までに、外国人と関連して、近所で次のようなトラブルの経験がありますか。  
(○はいくつでも)

[n=949]

1	ごみの出し方のルールのこと	19.6%	8	部屋の使い方のこと	4.3
2	部屋からの声・物音のこと	14.6	9	知らないトラブルの責任を押し付けられた	0.8
3	ペットのこと	1.6	10	ことばの行き違い	5.4
4	食べ物のこと	1.7	11	その他	4.4
5	駐車・駐輪のこと	6.2	12	特にない	60.3
6	建物の増築・改築のこと	1.4		(無回答)	5.5
7	店舗や宿泊施設の営業のこと	2.7			

<図表2-4>外国人とのトラブル経験（複数回答）／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 「部屋の使い方」は、平成19年度では「1つの部屋に大勢の人が出入りすること」であった。

(注) ※2 今回調査で新設した項目である。



### 3 偏見・差別

#### (1) 日本人から外国人に対する偏見や差別

◇日本人から外国人に対する偏見や差別が《あると思う》が5割強で、《ないと思う》の3割強を上回る

◇偏見や差別があると思うときは「住まいを探すとき」が4割強で最も高い

◇偏見や差別をなくすために必要なことは「お互いの生活習慣の違いを認め合う」が約5割で最も高い

問15 あなたは、日本人から外国人に対する偏見や差別があると思いますか。(○は1つだけ)

[n=949]

1 全くないと思う	4.0%	4 よくあると思う	10.5
2 あまりないと思う	28.9	5 わからない	13.7
3 ときどきあると思う	40.8	(無回答)	2.1

(問15で、「3」か「4」とお答えの方に)

問15-1 偏見・差別はどのような場合にあると思いますか。(○はいくつでも)

[n=487]

1 公的機関などの手続きのとき	15.6%	7 社会保障制度のこと	17.2
2 日本人の友人との付き合いのとき	11.5	8 電車・バス等に乗っているとき	15.8
3 近所の人との付き合いのとき	34.9	9 出産・育児の場面	3.9
4 住まいを探すとき	41.3	10 学校など教育の場	21.1
5 自分や家族が結婚するとき	25.9	11 仕事するとき	22.8
6 法制度のこと	16.6	12 その他	10.5
		(無回答)	2.7

(問15で、「3」か「4」とお答えの方に)

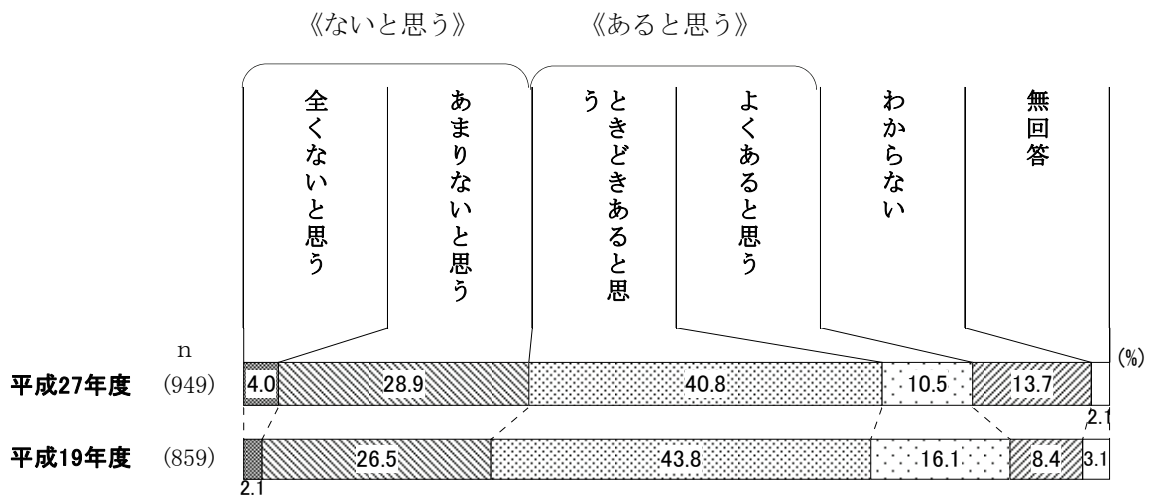
問15-2 偏見・差別をなくすためには、何が重要だと思いますか。(○はいくつでも)

[n=487]

1 日本人と外国人が交流する	31.8%	4 お互いの生活習慣の違いを認め合う	50.7
2 お互いを認め合う教育を進める	43.5	5 その他	8.0
3 お互いの文化を知る	48.3	6 わからない	5.5
		(無回答)	8.2

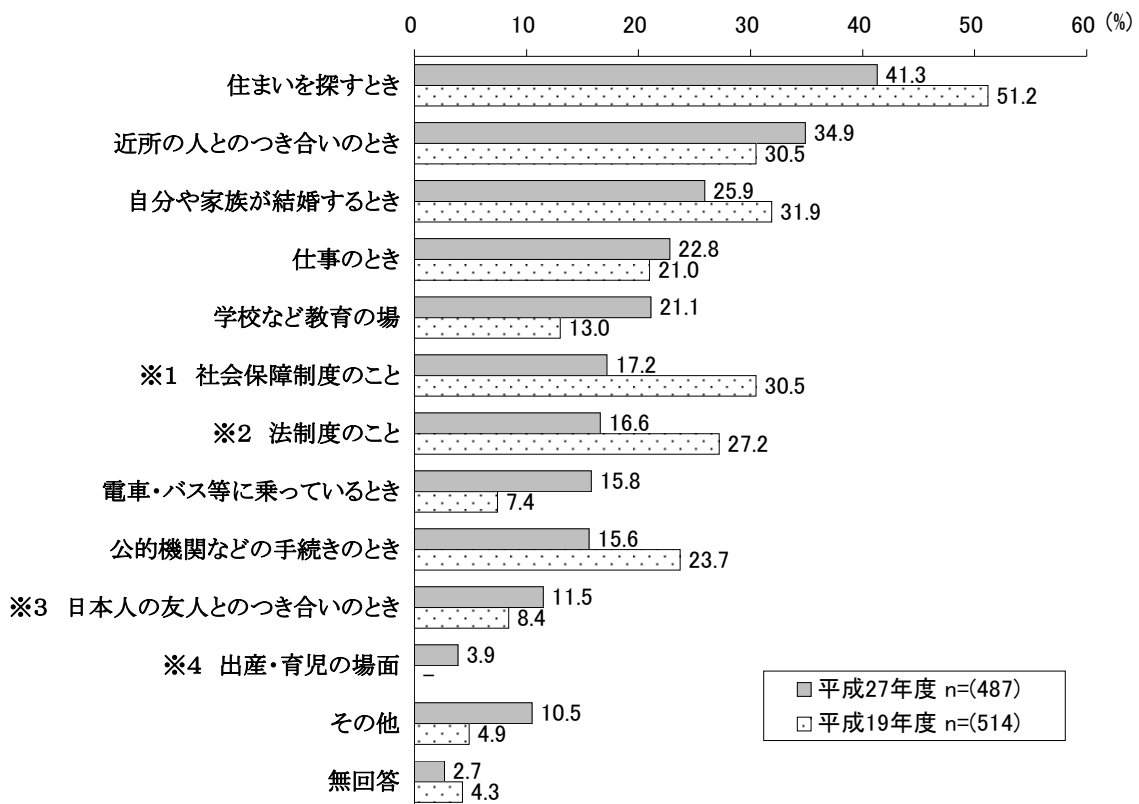
①日本人から外国人に対する偏見や差別の有無

<図表3-1>日本人から外国人に対する偏見や差別の有無／平成19年度との比較



②偏見・差別があると思われるとき

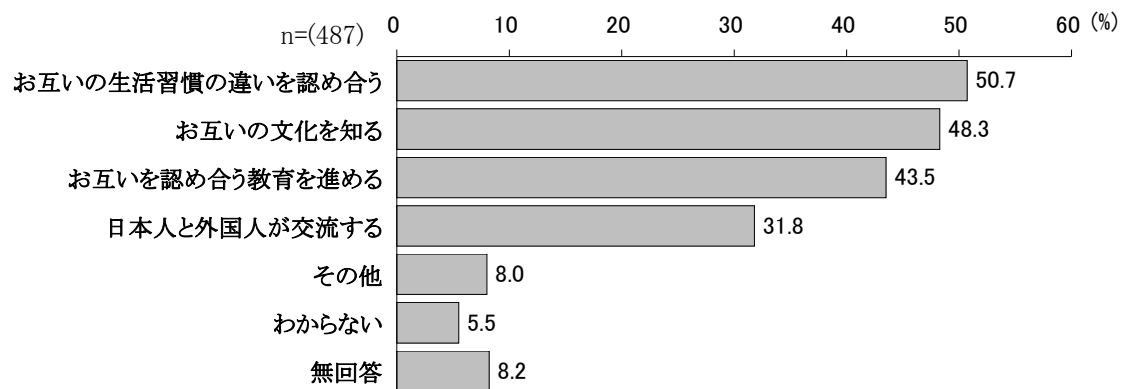
<図表3-2>偏見・差別があると思われるとき（複数回答）／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 「社会保障制度のこと」は、平成19年度では「社会保障制度の面で」であった。  
 (注) ※2 「法制度のこと」は、平成19年度では「法制度の面で」であった。  
 (注) ※3 「日本人の友人との付き合いのとき」は、平成19年度では「日本人の友人との交際のとき」であった。  
 (注) ※4 今回調査で新設した項目である。

### ③ 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと

<図表 3-3> 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと（複数回答）



## 4 災害時・緊急時の協力

### (1) 新宿区に望む災害対策

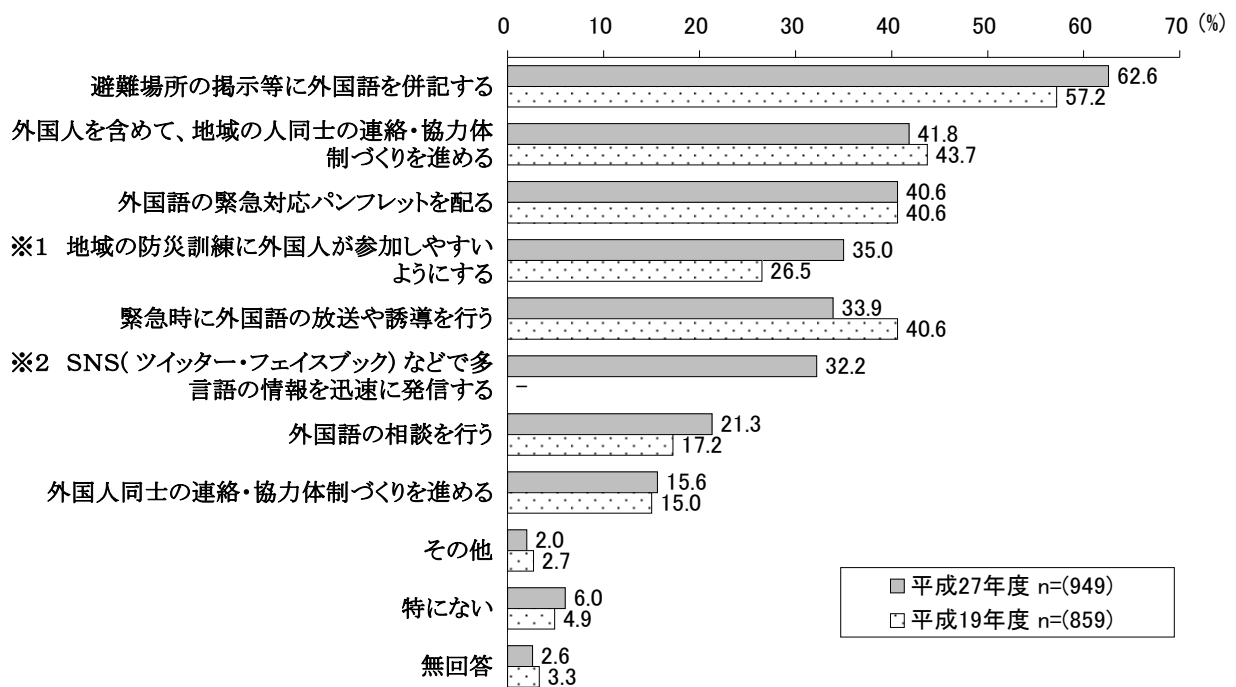
◇「避難場所の掲示等に外国語を併記する」が6割強で最も高い

問16 地震などの災害が起こった時には、外国人を含めて、地域住民で協力し合って対応することが求められます。あなたは、新宿区にどのような対策を望みますか。(〇はいくつでも)

[n=949]

1	避難場所の掲示等に外国語を併記する	62.6%
2	外国語の緊急対応パンフレットを配る	40.6
3	緊急時に外国語の放送や誘導を行う	33.9
4	SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する	32.2
5	外国語の相談を行う	21.3
6	地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする	35.0
7	外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める	41.8
8	外国人同士の連絡・協力体制づくりを進める	15.6
9	その他	2.0
10	特にない	6.0
	(無回答)	2.6

<図表4-1>新宿区に望む災害対策(複数回答) / (参考)平成19年度との比較



(注) ※1 「地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする」は、平成19年度では「地域の防災訓練に外国人といっしょに参加する」であった。

(注) ※2 今回調査で新設した項目である。

## 5 多文化共生のまちづくり

### (1) 多文化共生社会という言葉の認知度

◇ 《知っている》は約2割、「聞いたことはある」は約4割

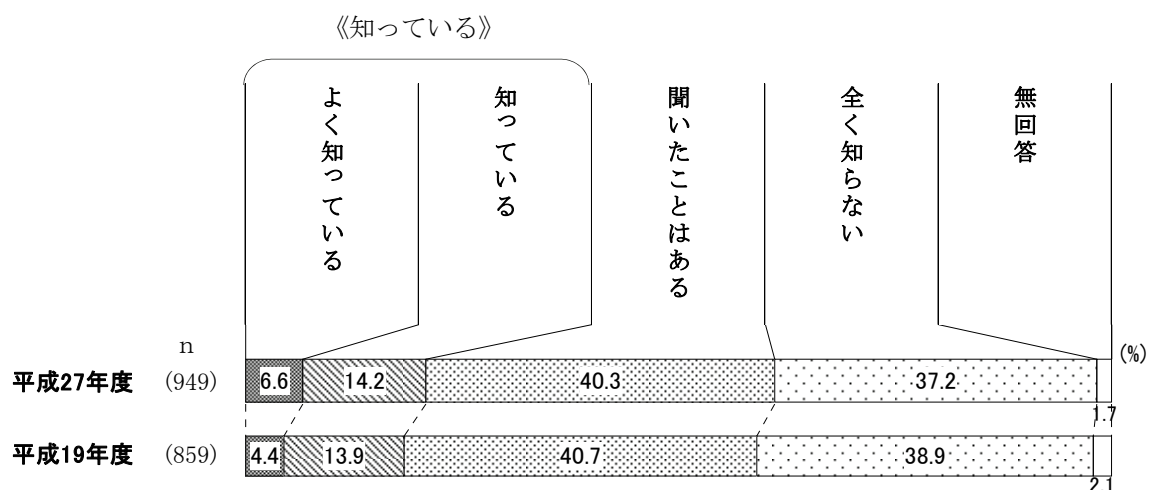
問17 『多文化共生社会』という言葉があります。この言葉は、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく社会」を言います。

あなたは、この言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つだけ)

[n=949]

1 よく知っている	6.6%	3 聞いたことはある	40.3
2 知っている	14.2	4 全く知らない	37.2
		(無回答)	1.7

<図表5-1> 多文化共生社会という言葉の認知度／平成19年度との比較



(2) しんじゅく多文化共生プラザについて

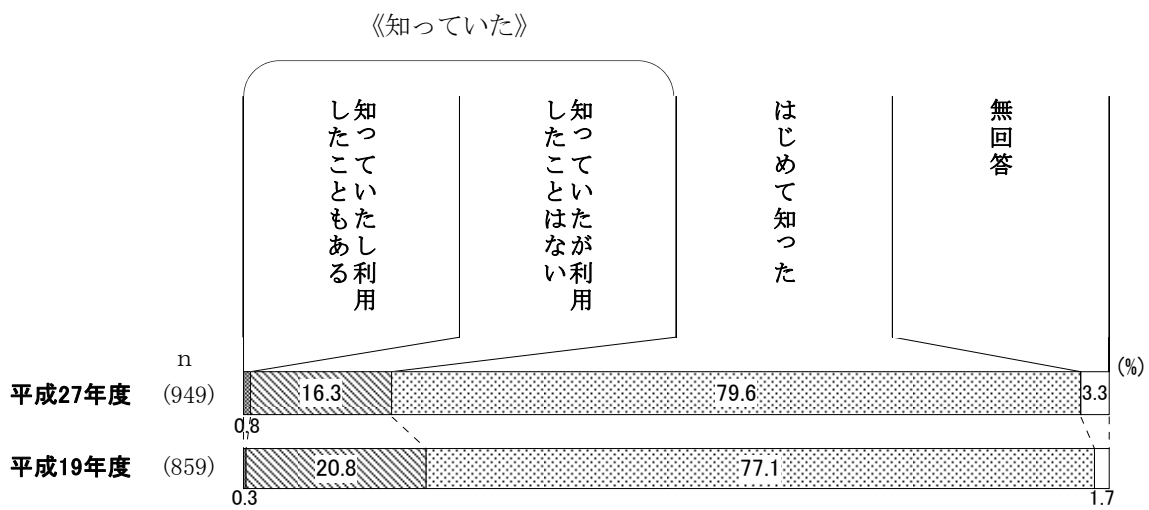
◇しんじゅく多文化共生プラザを「はじめて知った」は8割弱

問18 新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っています。あなたは、この施設を知っていましたか。(〇は1つだけ)

[n=949]

1	知っていたし利用したこともある	0.8%	3	はじめて知った	79.6
2	知っていたが利用したことはない	16.3	(無回答)		3.3

<図表5-2>しんじゅく多文化共生プラザについて／平成19年度との比較



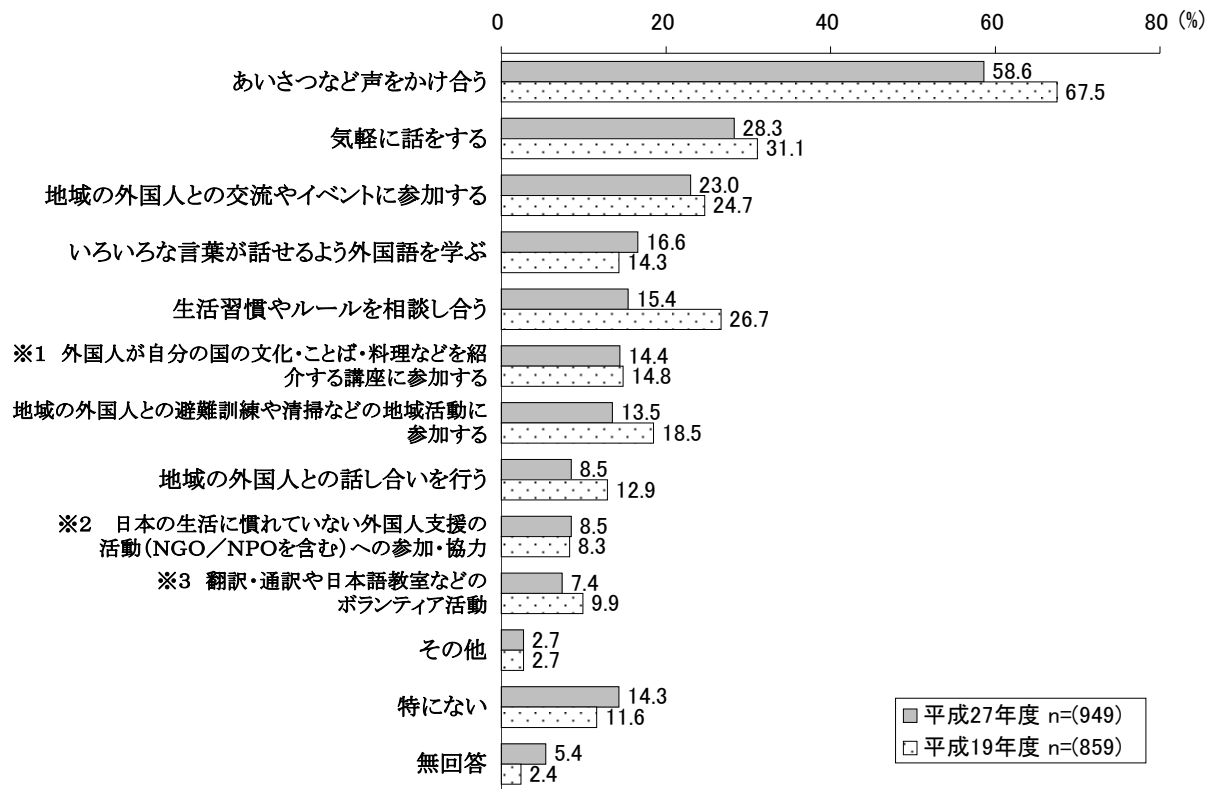
(3) 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと

◇「あいさつなど声をかけ合う」が6割近く最も高い

問19	「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたは何ができると思いますか。	(〇はいくつでも)
	[n=949]	
1	あいさつなど声をかけ合う	58.6%
2	気軽に話をする	28.3
3	生活習慣やルールを相談し合う	15.4
4	地域の外国人との話し合いを行う	8.5
5	地域の外国人との交流やイベントに参加する	23.0
6	地域の外国人との避難訓練や清掃などの地域活動に参加する	13.5
7	外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する	14.4
8	いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ	16.6
9	翻訳・通訳や日本語教室などのボランティア活動	7.4
10	日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)への参加・協力	8.5
11	その他	2.7
12	特にない	14.3
	(無回答)	5.4

<図表 5-3> 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと（複数回答）

／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 「外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する」は、平成19年度調査では「外国人が自分の国の文化・ことばを紹介する講座に参加する」であった。

(注) ※2 「日本の生活に慣れていない外国人支援の活動（NGO/NPOを含む）への参加・協力」は、平成19年度調査では「外国人支援の活動（NGO/NPOを含む）」であった。

(注) ※3 「翻訳・通訳や日本語教室などのボランティア活動」は、平成19年度調査では「通訳や日本語教室などのボランティア活動」であった。



(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと

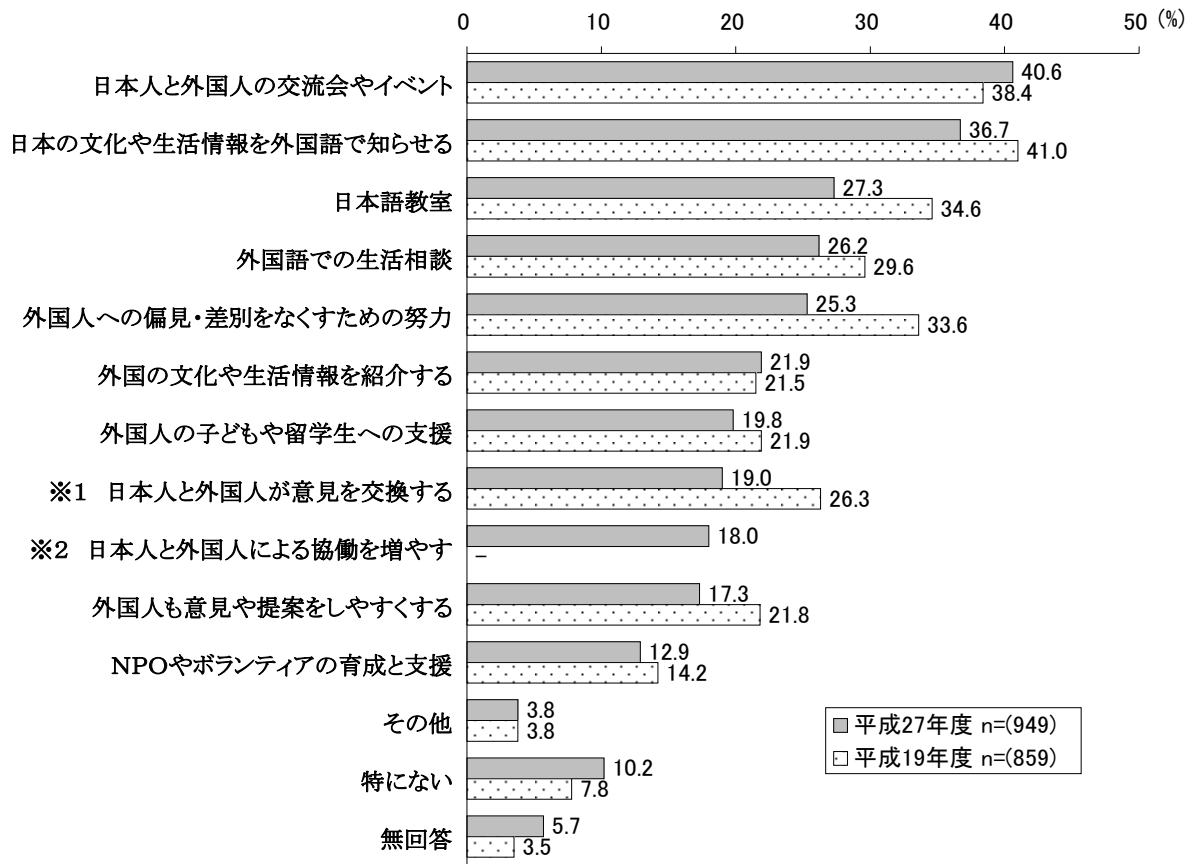
◇「日本人と外国人の交流会やイベント」が約4割で最も高く、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は3割台半ばを超える

問20 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

[n=949]

1	日本人と外国人の交流会やイベント	40.6%
2	日本の文化や生活情報を外国語で知らせる	36.7
3	外国の文化や生活情報を紹介する	21.9
4	外国語での生活相談	26.2
5	日本語教室	27.3
6	日本人と外国人が意見を交換する	19.0
7	日本人と外国人による協働を増やす	18.0
8	NPOやボランティアの育成と支援	12.9
9	外国人への偏見・差別をなくすための努力	25.3
10	外国人の子どもや留学生への支援	19.8
11	外国人も意見や提案をしやすくする	17.3
12	その他	3.8
13	特にない	10.2
	(無回答)	5.7

<図表 5 - 4 > 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと (複数回答)  
 / (参考) 平成19年度との比較



(注) ※1 「日本人と外国人が意見を交換する」は、平成19年度調査では「日本人と外国人の意見交換会・話し合い」であった。  
 (注) ※2 今回調査で新設した項目である。

## (5) 新宿区への期待

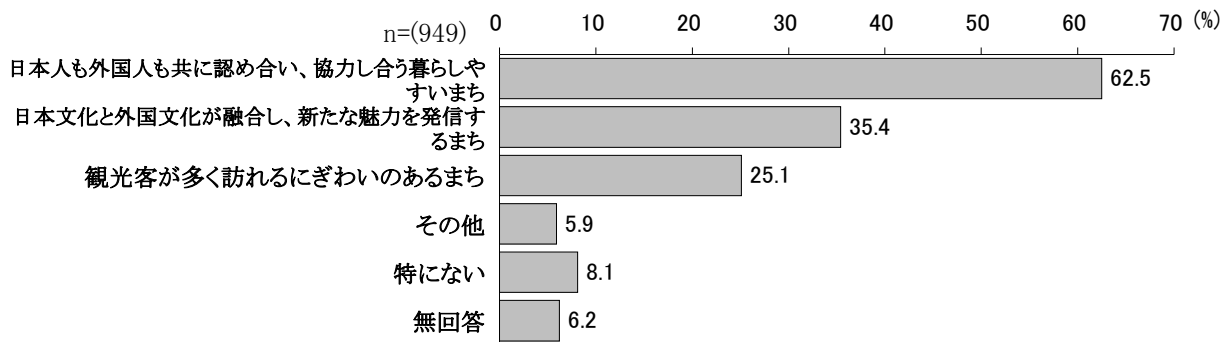
◇「日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」が6割強で最も高い

問21 これから新宿区がどのようなまちになっていくことを期待しますか。(〇はいくつでも)

[n=949]

1	観光客が多く訪れるにぎわいのあるまち	25.1%
2	日本文化と外国文化が融合し、新たな魅力を発信するまち	35.4
3	日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち	62.5
4	その他	5.9
5	特にない	8.1
	(無回答)	6.2

<図表5-5>新宿区への期待 (複数回答)



## 6 自由回答

新宿区をもっと住みやすいまちにするために、あなたのご意見を自由に書いてください。

新宿区の多文化共生のまちづくりに対する意見や要望を自由に記入していただいたところ、379件のご意見が寄せられた。その主な内容について掲載する。

- ・類似した内容のご意見については、その主なものを記載した。
- ・原文を可能な限り尊重し、特定の個人・団体等が特定されないように配慮するとともに、誤字・脱字と思われるものは修正した。

- このアンケート調査に参加させていただいたことで、新宿区政が、多文化共生によって平和な国際都市をめざしていることを知りました。(女性/70歳以上/角筈・区役所)
- 日本人同士のつき合いも希薄なのに、外国人とのつき合いが積極的にできるとは思えない。まず、新宿区が日本人にとって住みやすく、長く暮らせるまちにならなければ効果はあがらないと思います。(男性/40歳代/角筈・区役所)
- 外国人に日本人の文化・考え方・習慣を知らせてほしい。大きな声でしゃべらない、タバコを外で吸わない、ツバを吐かない、自分の主張ばかりしないなど。(女性/50歳代/若松町)
- 近所の外国人の方々はとても礼儀正しく、いつも笑顔であいさつをしてくれます。一部悪いイメージがあるかもしれませんが、新宿区にお住まいの外国人の方々が良いイメージです。新宿区はとても住みやすいまちで私は好きです。10年前に比べて治安は良くなっていると思います。(女性/40歳代/戸塚)
- 外国人の引き起こすトラブルが多い。巻き込まれて不愉快に思うことが多い。ごみ出しなどは本当にルールを守らない。新宿区はワンルームマンションが多いため、特に外国人が多い。(女性/50歳代/戸塚)
- 「多文化共生のまちづくり」はとても良いことと思います。これからも推進して行ってください。(女性/70歳以上/笹笠町)
- 人々が自由に意見を述べたり、行動できるような雰囲気になれば良いと思います。公園に行くとき外国人が大勢いるので、コミュニケーションを取るために、外国語が話せるようになりたいと思います。(男性/60歳代/笹笠町)
- 神楽坂はとても住み良いまちだと感じています。今まで私の周りでは、もめごとは一度もありません。外国人の方もとても明るく、良い人が多いと感じます。(女性/60歳代/笹笠町)
- 総論賛成、各論反対と言われるように、外国文化との融合も、より身近になるとアレルギーを発する恐れがあります。そのハードルを低くするのは相互理解だと思います。日本人が一方的ではなく、双方がそれぞれ少しずつ歩み寄るべきだと思います。(男性/50歳代/笹笠町)
- 「広い世界を家とせよ」と言いますが、新宿区に暮らす10人に1人が外国人とは知りませんでした。差別なく、物事の道理を理解しあい、事件がなく安心・安全に暮らせるように、助け合っていきたいと思います。(女性/70歳以上/笹笠町)
- 外国人の子どもの教育環境が気になります。四谷地区は子どもの数が減少しながらも、クラスには常に何名か外国人の親(片方でも)を持つ子どもがいました。コミュニケーションをとるよう

心掛け、大きなトラブルはありませんでしたが、子ども自身ができるだけ早く日本の文化や習慣に溶け込めるよう、フォローする体制が充実しているとういと思います。(女性/50歳代/四谷)

○外国の方に、日本で生活する上でのマナー(日本人の常識)を理解していただかないと、地域社会には受け入れてもらえないと思います。そのための情報や教育が必要だと考えます。マナーが守れないと、「あの人は外国人だから」と偏見の目で差別されてしまうのではないのでしょうか。(男性/40歳代/大久保)

○日本人、外国人を問わず、相手の人権を尊重する。(女性/70歳以上/大久保)

○声を掛け合い、日本の生活習慣などを知ってもらい、共に気持ち良く生活できるよう、助け合いたい。(女性/70歳以上/榎町)

○特定の地域にかたまるとはならず、さまざまな地域でさまざまな国の人々が生活できるようにならないと、本当の意味での多文化共生とは言えないと思います。(男性/30歳代/榎町)

○新宿区民の1割が外国人だと知り驚いた。多文化共生のためには、外国人に日本の習慣をまず教えるべき。災害などの緊急時には自宅周辺の人のお世話になるのだから、まず引越してきたら日本人のように隣近所にあいさつに行くべきと伝えてほしい。(男性/70歳以上/榎町)

○職安通りには外国人が多いですが、“わがもの”顔で大騒ぎしていて、道路いっぱいになり、通行ができないことがたびたびあります。(女性/70歳以上/大久保)

○韓国で3年間生活した経験があります。そのとき、周囲にいた現地の人々から助けていただいたことを思い出しました。話をして理解し合うことが共生の第一歩だと思います。思いやり、やさしさの気持ちを持っておつき合ってきたらいいですね。(女性/50歳代/落合第一)

○居住者、短期・中長期とさまざまな居住希望があり、一律に行政サービスを考えるのはいかなものか。いたずらに予算を乱用するのは好ましくない。(男性/60歳代/落合第二)

○日本人の中にも、どこでもルールを守らずに困らせる人はたくさんいます。外国の人たちだけが悪いのではない。(女性/70歳以上/柏木)

○職安通りに大型の観光バスが複数台駐停車して、渋滞を引き起こしている。また、大変危険な状態が続いており、いつか事故が起きないかと心配。いつの間にか近所は外国人ばかりでいろいろな迷惑をかけられている状況で、「多文化共生」と言われてもピンと来ない。自分が住む場所ではなくなってしまったと感じています。(男性/40歳代/柏木)

○多文化共生が新宿区のためになぜ必要なのかを、日本人に説明する必要があると思います。どういうメリットがあるのか具体的に示してほしいです。(女性/30歳代/四谷)

○新宿区内に現在3万7000人の外国の方々が生きていることに驚いています。あまり実感がないのが正直なところです。私たちもこれからさらに増えるであろう外国人に、意識を持って交流を図っていかねばならないと思っています。外国人との交流会・イベントの紹介を、一段と区広報等でよろしく願います。(男性/60歳代/四谷)

○マナーの悪い外国人(観光客含)を、きちんと日本の文化に合うように指導してほしい。日本に住む以上は、日本語か英語を話して、日本のルールを守る外国人をもっと増やしてほしい。もちろん日本文化や日本人を大切に思っている外国人も多いですが。(女性/30歳代/四谷)

○もしまだヘイトスピーチがあるなら禁止したほうがいい。日本の恥。(女性/30歳代/四谷)

○新宿に「しんじゅく多文化共生プラザ」のようなものがあることを、このたび初めて知りました。これからも、外国の方が新宿に住んでよかったですと思われますよう、日本人と仲良く暮らしていきますよう、よろしく御尽力ください。(女性/60歳代/四谷)

- ヘイトスピーチのデモが、新宿あるいは日本のイメージを悪くしている、見ていても不快だ。日本人として対応できることはないのかと感じる。何らかの対応策を考えていかなければいけないのでは。(女性/50歳代/四谷)
- 身勝手な行動が目立ち、不愉快な思いをすることが多いです。あれでは、元々偏見など持っていない日本人でも、だんだん彼らを嫌いになってしまいます。「郷に入れば郷に従え」を、彼らにしっかり教える方法を考えていただきたいと願っています。これ以上日本人にガマンさせないでください。(女性/50歳代/若松町)
- 外国人主導にならず、新宿区を愛し住み続けてきた住民をもっと手厚く。(男性/50歳代/大久保)
- 外国人が多いというだけで、不安だの心配だのと思われてしまいがちな新宿区。外国人にとっても日本人にとってもマイナスです。新宿区には大学も多く留学経験者も多いです。そういう人をうまく生かして交流を図ってはどうか。(男性/30歳代/笹筒町)
- 外国人に限らず、ごみ出し等のルールも守られていません。集収日以外にも、道にごみが積まれている所がたくさんあります。(女性/50歳代/榎町)
- 外国人が日本(新宿)で共生していくには、何と言っても言葉の習得だと思います。そのために、すでに活動が行われている日本語教室の充実が必要だと考えます。(女性/50歳代/榎町)
- “多文化共生”をめざすのであれば、図書館の拡充が望まれる。特定の図書館に、特定の文化・言語資料が片寄っているような印象がある。(女性/30歳代/榎町)
- 外国人と言っても、昨日日本に来たばかりの人もいれば、何十年も、生まれたときから住んでいる人もいます。ただ国籍が外国という方です。その友人に選挙権がないのを、2～3年前に知り驚きました。かなり地域活動、PTA等でも活躍してくれている方もいます。子どもは保育園から高校まで、いろいろな国のクラスメートがいました。現代では当たり前だと思います。(女性/50歳代/榎町)
- 偏見を持つつもりはなくても、実際マナーの良くない外国人の方が多く、大人だけではなく子どものマナーもひどいと感じることが多々あります。都合が悪いときだけ「日本語が分からない」と言う人も多く見かけます。外国人同士のコミュニティだけでなく、最低限の日本でのルールを深く知ってもらうための、相互の関係が良くなるコミュニティが増えると良いと思います。(女性/30歳代/榎町)
- しんじゅく多文化共生プラザの利用頻度が増えるよう努力されたい。(男性/70歳以上/落合第一)
- 新宿区は、外国人にとっては比較的住みやすいと思います。区が率先して“多文化共生のまち新宿”というスローガンを掲げてこられたことが実を結んでいると感じます。しかし、友人や知人の話を聞くと、まだまだ差別もあります。特に住まいの差別が一番ひどいと聞きます。“外国人お断り”と堂々と書いてある賃貸物件を見ることは、外国人の方々には非常に辛いそうです。新宿区からこういう住まいの差別をなくしてほしいと切に願います。(女性/40歳代/大久保)
- 外国人のマナーについて、もう少し教育してほしい。彼らが「共生」という意識をきちんと持ってほしい。また、トラブルに発展した際の解決についての手立てを、区が積極的にしてくれないと、個人の努力だけで共生を押しつけられても困ると思う。(男性/40歳代/戸塚)
- こちらは日本語しか話せず意思の疎通が図りにくい。日常会話ぐらいの日本語ができればありが

たい。また、日本の生活習慣を知らないと周りの人を不快にさせてしまい、不利になってしまうのでは。気楽に外国の方々と交流を持てる場を増やし、偏見の少ない子どもたちから交流を進めたほうが良いと思う。(女性/50歳代/落合第一)

- しんじゅく多文化共生プラザというものがあることすら知らない人が多いのでは。このアンケートが送られてきた人には、区が前向きに多文化共生に向けて動いているのが伝わったと思うが、他の区民にも知らせて大々的に取り組んでほしいと思います。(女性/30歳代/落合第一)
- 米国に1年住んだが、外国人が多かった。外国人を皆「当たり前」と思い接していた。日本も、そうになってほしい。(女性/50歳代/落合第一)
- 新宿に住む外国人(他府県からの日本人でも)に、不動産業者でアパートのあっせんが決まった時点で、新宿区の条例やごみ分別、非常時の対応などの書類を渡すようにしてもらってはどうか。(女性/70歳以上/落合第一)
- 英語を教えてもらえる場を増やしてほしい。もっと英語がしゃべれるようになったら、外国人と交流できるようになり、もっと理解してあげられるような気がする。(女性/50歳代/柏木)
- 言葉の壁は大きい。あいさつだけでも、他国の言葉でするだけで親近感もわくので、交流の場や無料の講座があればいいと思う。(女性/50歳代/柏木)
- 一時的な観光でなく他国に住みつくのであれば、受け入れ側ではなく、入国する側の決意が必要で、事前に生活習慣等の勉強が必要だと思います。決意もなく、自分が理解されていないと言うのはおかしい。日本側、新宿区側の対応が悪いと言う外国人の考え方がおかしい。(男性/30歳代/角筈・区役所)
- さまざまな理由で日本で暮らす方が多いと思いますので、新宿区がどのように住民に暮らしてほしいのか、具体的に意思表示をするべきであると思います。(女性/30歳代/角筈・区役所)
- 歌舞伎町の建物の11階にしんじゅく多文化共生プラザがあっても、一般区民とは無縁であり、一生行く機会がない人が大半だと思う。真に相互理解をめざすなら、日常生活のなかで目に付きやすい所で活動を行ってほしい。(男性/30歳代/笹塚町)
- 外国人のためのイベントや交流会を行うのではなく、地域で行われているイベントに参加してもらい交流を進めるほうが、交流する人が特定されず良いと考える。(男性/50歳代/笹塚町)
- 多文化共生を進めることに異論はないし、外国人に対する偏見・差別はなくしていかなければならないと思うが、やはり日本の地域が、いろいろな文化に染まって変わっていくことは好まない。日本人の良い面は、他の国の人々にも取り入れて暮らしてほしい。(女性/50歳代/落合第一)
- 差別や偏見をなくしていくには、子どもが小さいときから話をしたり、教育をしていくことが必要だと思います。大人になってから自分の考え方や価値感などを変えていくのは、容易なことではないと思うので。(女性/30歳代/戸塚)
- 外国人に向けた語学講座があるように、日本人が英語や中国語を低い価格設定でマスターできるような講座をお願いしたい。(女性/30歳代/戸塚)
- 多言語表記が不十分で、特に交通機関では職員による多言語での案内が必須だと思います。人身事故や災害時に、日本語での案内しか行われないので、何が起こったかわからず困っている外国の知人がいました。(女性/30歳代/戸塚)
- 絵、歌、踊りなど目に触れやすい文化は、日本人の理解を得やすいので、交流機会を持つことは大切です。しかし、それ以上に重要だと思うのは、日常生活の慣習への相互理解です。ごみ出し、そうじ、あいさつ、近所の行事、祭り、自室でのパーティーなど、日本人の(その地域の)日常

ルールを、より丁寧に外国人に説明することが今以上に求められます。知らないで起こる衝突、摩擦を減らせます。(男性/60歳代/戸塚)

- その地域のルールを守ってくだされば、特に問題はないと思います。重い荷物を駅の階段で持ってもらったことがあります。どこの国の人でも人柄ではと思います。(女性/70歳以上/落合第一)
- 少子高齢化は避けられない事実であり、外国人が日本人と同等の権利と義務を負担し、社会参加すること、地域がそれを受け入れることは、新宿区が模範的な地域として発展するために不可欠である。(男性/50歳代/大久保)
- 半年余りで3回ほど外国の方から道を聞かれました。語学の勉強が必要だと感じました。また、看板や標識の外国語表示も必要だと思いました。日本人が外国人を受け入れる態勢が整っていないのでは。(女性/40歳代/若松町)
- 英語、中国語など、新宿区に住んでいる比率の高い外国人が話す言語を話せるスタッフを増やす。(男性/50歳代/若松町)
- 外国人に部屋を貸すときに、貸し主、あるいは不動産屋が、ごみの出し方など、新宿区で作っている資料を必ず渡すよう義務付けてほしい。(女性/60歳代/若松町)
- 多文化共生、ますます多くなり当たり前のこととなると思います。お互いの生活習慣や文化を知ることが大事なことです。日本に暮らす人たちはより日本を知る努力をしてほしい。仲良くなるし、より自然に暮らせると思います。(女性/70歳以上/若松町)
- 「郷に入りては郷に従え」という言葉がある。外国人の方々が地元住民(日本人の住民)と同じルールのもとで暮らしていける環境づくりが必要ではないか。極端に外国人の方々に対して差別的・区別的、もしくは、一方で優遇策をとることではないと考える。(男性/20歳代/笹笠町)
- 自分も含めてですが、古くから住んでいる人は、日本の生活習慣や規則を当たり前のように思っています。外国人の方から見るととても不思議に思えるでしょう。日本(新宿)に住むにはその習慣に従わなくてはいけないと思いますが、私たち日本人にできることは、ある程度許容範囲を広げて、受け入れてあげるべきだと考えています。しかし、行政が進める規則は、何人であっても、守るべきだと考えます。(女性/50歳代/笹笠町)
- アンケートに記入してみて、外国人に対してあまり関心がないことに気付かされました。(女性/70歳以上/大久保)
- 狭いシェアハウスに異常な人数で暮らしている現状は、外国人にとっても近隣住民にとっても健全に思えません。住居環境を整えていくことを望みます。(男性/40歳代/落合第一)
- これからは、多文化・多民族共生の時代に向かうものと思います。その先端に新宿区が位置しているとも思えます。行政が先頭になって、がんばってください。手伝えることは一住民としてできる限り協力いたします。(男性/60歳代/大久保)
- 日本に来ている方々のほうが努力していると思います。日本人も海外へ行けば、その国に融合しようと日々努力されていると思いますから。一番大事なことは、受け入れる方々の気持ちの広さだと考えますので、私自身はそれほどの努力はありませんが、話しかけられれば、気持ちよく応対するようにしています。(女性/60歳代/落合第一)
- 職場や地域になじんでいる外国人には自然と偏見・差別がなくなると思うので、そうなるための支援が必要になると思います。(女性/20歳代/落合第二)



# 第3部 調査結果の分析／インタビュー調査編

## 第1章 外国人住民調査(要約)

### 1 暮らしの実感

- 新宿には外国人が多いほか、さまざまな国の文化や料理を楽しめる「国際的なまち」という印象を持っている方が多かった。
- 日本人や日本の文化に好感を持っていること、交通の便などの生活環境の良さから、日本に住み続けたいと思っている方が多かった。
- 日本人は親切であるとの意見が大半であったが、その一方で、日本人との壁を感じたり、日本人の交友関係の希薄さに違和感を持っているとの意見もあった。

### 2 日常生活

- 日本の生活ルールに適応しようと努力した経験を持つ外国人は多い。特に、母国にはごみの分別がなく、来日した当初にごみを分別して出すことを理解しようとして苦労したというケースが複数あった。
- 部屋を借りるときに「外国人だから」という理由で断られたことや、入居時の保証に関する制約が厳しく苦労した経験が多くあげられた。また、契約書が日本語のみで、内容が理解できなかったという事例もあった。

### 3 偏見や差別

- 明確に差別を受けたという経験を持つ方は少なかったが、仕事(接客)をしているときに日本人から冷たい対応をされ、不快になったという事例が複数あった。
- 日本人が外国人に不慣れであることから、日本人に顔をじろじろと見られ不快になったという事例が複数あった。

### 4 ことば(日本語学習)

- 「保育園や学校からのお便りが読めない」「病院での説明が理解できない」「役所の手続きで使う言葉が難しい」などの事例が多くあげられている。
- 日本の保育園・幼稚園や小学校に通う(通った)子どもの日本語能力に親がついていけないため、親子のコミュニケーションに不安を抱えているケースが複数あった。また、一方で日本の生活が長くなるにつれ、子どもが親の母語を話せなくなるという心配をしている保護者も多い。
- 学校や地域において日本人とのつき合いを望んでいる方も多いが、日本語が苦手であることから積極的に交流することに不安を抱えている。

## 5 災害に備えて

- 東日本大震災を経験している方や防災訓練に参加したことがある方は、食料の備蓄など災害に備えている傾向がみられた。その一方で、日本での滞在歴が短い方や地震が起きない国の出身の方は災害対策をとっていないことがわかった。
- 新宿区が多言語で発行している防災パンフレットを知っている方は少なかった。一方で、防災パンフレットを知っている方の中には、同国人に配布するなど、有効に活用されているケースもあった。

## 6 必要な情報・サービスについて

- 区からの「大切なお知らせ」などの通知はわかりやすい日本語にするほか、せめて英語版を同封してほしいなど、多言語対応の拡大についての要望が多くあがった。
- 日本人との交流や地域のイベントに関する情報が多く求められていると同時に、それらの情報がどこで得られるのかがわからないという意見も多かった。

## 7 子育て・教育をする環境について

- 日本の保育園・幼稚園や小学校などに子どもを通わせている子育て中の方は、日本の教育環境には概ね満足している。
- 子ども同士は言葉や文化の違いに違和感を持っておらず、保育園・幼稚園や小学校などで日本人の子どもと良好な友人関係をつくっている。一方で、保護者の中では日本人と外国人との間に壁があるという意見があった。
- 日本の学校は海外の学校と違い英語教育が不十分であるとの指摘があった。

## 8 多文化共生のまちづくり

- 留学生は、日本での就職または母国で日本と関係する職業に就きたいという希望を持っている方が多い。また、日本で育った外国にルーツを持つ青年も、母国と日本を行き来したり、世界に向けた国際的な仕事をしたいという将来の展望を持っている傾向があった。
- 母国ではなく、自分がいる国のルールで行動するように子どもに教えているという意見があった。
- 自営業者や子育て中の方の中には、商店会やPTAなどを通じて日本人との地域活動に参加している方もいた。一方で、留学生や雇用労働者は、地域との接点が持ちづらいことが原因で地域活動に参加できていないという傾向が見られた。
- 全体的な傾向として、日本人、外国人を問わずいろいろな人と知り合い、仲良くなりたいという思いを持っている。そのために、行政が率先して交流の機会をつくることが望まれている。
- 外国人が日本語を話せるようになることが必要であるという意見や、日本語を学ぶ環境を充実させてほしいとの要望が多くあげられた。

## 第2章 日本人住民調査(要約)

### 1 暮らしの実感

- 地域に暮らす外国人が多いことが当たり前になってきたため、まち中やお店に外国人がいても驚かなくなったという意見が多くあげられた。
- 地域に暮らす外国人の国籍が、以前にも増して多様化していると感じるという意見があった。
- 外国人住民だけでなく、外国人観光客の姿が多く見られるようになり、案内板などの多言語対応の必要性を感じるという意見があった。

### 2 日常生活

- 外国人に日本の生活ルールをしっかりと理解してもらう必要性が多く指摘されたものの、区に住む外国人の流動性が高いため、周知徹底が困難な状況にあるとの意見が多くあげられた。
- お祭りや防災訓練など、地域の情報を的確に伝達するために、町会への参加を望む意見があった。
- 外国人が近くに暮らしていることを知りつつも、言葉を交わさない、あるいはあいさつ程度に終始し、近所つき合いには発展していないとの発言が多くあった。しかし、商店主同士や子育て中の親同士のような関係においては交流をもっているとの回答があった。
- 留学生の多くは、日本が好きで来日しているため、友好的な方が多いという意見があった。

### 3 偏見・差別

- 文化や習慣の違いからくる偏見や差別を解消するには、日本人と外国人がコミュニケーションをとり、交流を続ける必要があるとの意見があった。
- 故意ではなく、日本の生活ルールを知らなかったことによる外国人の行動が日本人を不快にさせ、「外国人は皆、生活ルールを守らない」という偏見につながるケースが多いと指摘された。
- 日本人は、国と国の関係性やメディアの情報にとらわれて偏見をもっているのではないかと指摘があった。

### 4 災害に備えて

- 災害には日本人、外国人は関係がなく、すべての住民が備えなければならない共通テーマであるとの指摘があった。
- 地域の防災訓練への参加が、地域社会への関わりのきっかけになり得るとの意見が多くあげられた。

## 5 子育て・教育をする環境について

- さまざまな文化背景を持つ子どもと一緒に育児や教育を受ける環境において、子どもの国際感覚の醸成や、語学に興味を持つことを期待するという意見が多くあげられた。
- 外国人が多く暮らす地域であることを活かし、子どもが外国文化を体験できる場を設けてほしいとの要望があった。

## 6 多文化共生のまちづくり

- 区からの通知などは、日本語での生活に支障がない外国人にとってもなじみのない言葉が多く、読むのが難しいことが考えられるため、わかりやすい日本語への対応や、多言語対応が必要との意見があげられた。
- 外国人とのコミュニケーションを円滑にするために、日本人もいろいろな言語を学ぶ機会が欲しいとの要望があった。
- 子どもの言語習得や外国人保護者の子育てのためにも、就学前の子どもを対象とした支援が必要との意見があった。

## 第3章 団体調査(要約)

団体は設立の目的、活動内容、サポートする対象が明確化されている。具体的な内容は、各団体のインタビュー結果にゆだねることとし、団体類型ごとの課題の概要を掲載する。

### 1 外国人コミュニティ団体

- 子育ての方法やご近所づき合いなど、日本の文化を理解することの難しさがある。
- 日本で長く暮らす外国人が高齢化しつつあり、失業対策、医療、福祉など、これまでになかった外国人支援が求められている。
- 外国人でも日本のメディアを見ながら育った場合は日本人の感覚に近くなる。その結果新たに来日した同国人と衝突することがある。
- 新しい法制度や外国人が受けられる行政サービスの情報を、外国人にもわかる形で提供してほしい。

### 2 外国人支援団体

- 日本人と外国人の国際結婚の子どもは、日本名で日本国籍の場合が多く、それらの子どもが抱える課題が見えにくくなっている。
- 就学年齢を超過した子どもの学ぶ場がなく、またその存在が明らかになっていないことから、課題として認識されていない。
- 都立高校の受験科目が5教科となったことで、外国にルーツを持つ子どもの進学機会がますます狭くなる。また、安定財源がないため、このような子どもへの支援事業の継続が困難になっている。
- 教育、子育て、福祉などさまざまな分野が連携した、学校の時間以外での支援を望む。
- さまざまな多文化共生施策を根拠づける法律がないため、国としてまとまりがない。
- 外国人に関する社会保障制度等のシステム面に大きな問題がある。
- 入管法の改正など、外国人が法律や制度に関する正しい情報を入手する体制が整っていない。

### 3 教育機関（小・中学校）

- 日本語の習得途中で受験を迎えることになり、学力があってもその力を発揮できない生徒がいる。
- ネパールの子どもへの日本語サポートでは、文字を教えられる人がいない。
- 学年便りなどのお知らせを多言語に翻訳しているが、それを読まない親がいる。
- まったく日本語を理解できない保護者も増え、面談などでの苦労がある。通訳が不可欠である。
- 移動教室で体調が悪くなったときなど、日本語が通じないと困る場面がある。
- わずかでも言葉が通じると安心するので、ある程度外国語を学習した教員を配置してほしい。

#### 4 教育機関（日本語学校・専門学校）

- 学校生活、勉強、就職活動などすべての場面において、日本語能力の不足が課題となっている。
- 日本の就職活動がわからず、のんきに構えてしまう留学生もいる。
- 外国人にはマイナンバーがよくわからないのでフォローしてほしい。
- 非漢字圏の留学生に日本語を教える技術の不足、日本語教師の不足が課題である。

#### 5 商店会

- 以前よりは良くなっているが、来日したばかりで日本語や日本のルールがよくわからない人たちが来るため、依然として路上看板や自転車の問題がある。
- ルールやマナーの問題は、外国人に限ったことではない。

#### 6 医療機関

- 日本語が話せないと診察が難しく、検査や診察結果を説明するのに苦労する。
- 外国語対応できる病院が少ないのは、通訳にかかる費用が各医療機関の自己負担であることが一因と考えられる。国に通訳を保険の点数化してもらう必要がある。
- 外国人の多くは国民健康保険に入っているのに区民健診の対象となるが、受診率が低いと聞いているので、案内封筒に外国語を併記し、外国語の書類を同封して受診につなげてほしい。
- 生活指導や衛生観念などで文化の違いがあり、日本の基準でどこまで指導するか悩む。
- 特に在留資格のない外国人の健康が心配である。公衆衛生の点から考えても、健康診断や結核検診は在留資格の有無に関係なく受診できるようにしてもらいたい。

#### 7 子育て支援機関

- しつけなど、子育てに関する文化の違いを埋めるのは難しい。
- 子ども家庭支援センターが、親子がいつでも利用できる施設であることを外国人にどのように伝えていくかが課題となっている。

## 第4部 考察

本報告書では、これまでの部及び章で、単純集計及びクロス集計を中心に、各設問の傾向を見てきた。

ここでは、それらの結果を踏まえながら、これまでの部及び章で掲載していない図表や、統計資料を活用しながら、調査結果から見えたことを考察としてまとめる。

### 1 調査対象の外国人住民について

#### ①年 齢 構 造

新宿区の住民基本台帳人口（外国人住民のみ）は、ここ数年で、特に、「15～19歳」、「20～24歳」、「25～29歳」の増加が目立ち、これらの年齢層が外国人住民人口に占める割合（構成比）も増加している。

また、外国人住民人口に占める65歳以上人口、いわゆる高齢化率については、現在2%台である。平成27年1月1日現在「60～64歳」の人が数年後に高齢期に差しかかるようになると、4%に倍増すると考えられる。

	人数			平成25年→	平成26年→	構成比			平成25年→	平成26年→
	平成25年	平成26年	平成27年	平成26年の変化	平成27年の変化	平成25年	平成26年	平成27年	平成26年の変化	平成27年の変化
0～4歳	861	805	813	-56 ↓	8 ↑	2.56	2.36	2.26	-0.20 ↓	-0.10 ↓
5～9歳	838	802	780	-36 ↓	-22 ↓	2.50	2.35	2.17	-0.15 ↓	-0.18 ↓
10～14歳	893	829	805	-64 ↓	-24 ↓	2.66	2.43	2.24	-0.23 ↓	-0.19 ↓
15～19歳	1,401	1,863	2,039	462 ↑	176 ↑	4.17	5.46	5.66	1.29 ↑	0.20 ↑
20～24歳	6,287	6,854	7,844	567 ↑	990 ↑	18.73	20.09	21.78	1.36 ↑	1.69 ↑
25～29歳	6,114	6,210	6,821	96 ↑	611 ↑	18.21	18.20	18.94	-0.01 ↓	0.74 ↑
30～34歳	4,467	4,378	4,271	-89 ↓	-107 ↓	13.30	12.83	11.86	-0.47 ↓	-0.97 ↓
35～39歳	3,308	3,118	3,126	-190 ↓	8 ↑	9.85	9.14	8.68	-0.71 ↓	-0.46 ↓
40～44歳	3,016	2,851	2,850	-165 ↓	-1 ↓	8.98	8.36	7.91	-0.62 ↓	-0.45 ↓
45～49歳	2,217	2,187	2,257	-30 ↓	70 ↑	6.60	6.41	6.27	-0.19 ↓	-0.14 ↓
50～54歳	1,657	1,641	1,673	-16 ↓	32 ↑	4.94	4.81	4.65	-0.13 ↓	-0.16 ↓
55～59歳	1,082	1,123	1,153	41 ↑	30 ↑	3.22	3.29	3.20	0.07 ↑	-0.09 ↓
60～64歳	598	601	663	3 ↑	62 ↑	1.78	1.76	1.84	-0.02 ↓	0.08 ↑
65～69歳	307	337	384	30 ↑	47 ↑	0.91	0.99	1.07	0.08 ↑	0.08 ↑
70～74歳	207	197	217	-10 ↓	20 ↑	0.62	0.58	0.60	-0.04 ↓	0.02 ↑
75～79歳	145	155	138	10 ↑	-17 ↓	0.43	0.45	0.38	0.02 ↑	-0.07 ↓
80歳以上	176	170	182	-6 ↓	12 ↑	0.52	0.50	0.51	-0.02 ↓	0.01 ↑
計	33,574	34,121	36,016	547 ↑	1,895 ↑	100.0	100.0	100.0		

高齢者数	人数			平成25年→	平成26年→
	平成25年	平成26年	平成27年	平成26年の変化	平成27年の変化
65歳以上	835	859	921	24 ↑	62 ↑

高齢化率	高齢化率			平成25年→	平成26年→
	平成25年	平成26年	平成27年	平成26年の変化	平成27年の変化
	2.49	2.52	2.56	0.03 ↑	0.04 ↑

（注）構成比については、小数点第二位で四捨五入をしているため、100%にならない場合や65歳以上の各年齢を合計しても一致しないことがある。

資料：住民基本台帳（外国人住民のみ） 各年1月1日現在

住民基本台帳人口（外国人住民のみ）を念頭に置きながら、本調査の外国人住民調査における回答者の年齢割合をみると、今回「20～29歳」が39.8%となり、平成19年度から約11ポイント増加し、その分、「30～39歳」をはじめとしたほかの年齢層が減少している。抽出調査であり、なおかつ調査を依頼した全員の回答を得られたものではないが、区の人口構造の変化に近い状況を見ることができる。

#### ②在留資格

「20～29歳」が増加していることの要因の一つとして、在留資格の「留学」が増加していることをあげることができる。次の表は、平成19年度と今回の調査結果における、人数の多い上位10資格を抜粋したものである。

平成19年度から平成27年度までの間に、「出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づ

き日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律」が可決・成立し、それに伴い、平成22年7月1日より、研修・技能実習制度の見直しや、在留資格「留学」と「就学」の一本化が行われている。

そのことを加味したとしても、平成19年度当時には、「留学」と「就学」の合計が19.5%であったのに対して、今回は29.0%と、大きく増加している状況にある。そして、平成27年度の「留学」370人のうち、329人は「20～29歳」である。つまり、若年層の留学生が著しく増加していることがわかる。

平成19年度			平成27年度		
在留資格	人数	構成比	在留資格	人数	構成比
全体	907	100.0	全体	1,275	100.0
1 永住者	177	19.5	1 留学	370	29.0
2 留学	131	14.4	2 永住者	223	17.5
3 日本人の配偶者等	105	11.6	3 技術・人文知識・国際業務	177	13.9
4 人文知識・国際業務	87	9.6	4 家族滞在	86	6.7
5 家族滞在	77	8.5	5 日本人の配偶者等	70	5.5
6 就学	46	5.1	6 特別永住者	62	4.9
7 技能	40	4.4	7 定住者	59	4.6
8 技術	38	4.2	8 技能	45	3.5
9 定住者	38	4.2	9 教育	39	3.1
10 企業内転勤	30	3.3	10 経営・管理(投資・経営)	35	2.7

### ③在留資格と日本での滞在期間

本調査は、地域でともに生活する日本人と外国人の現状を把握し、今後の多文化共生施策の推進に向けた基礎資料を得ることを目的としている。外国人住民調査では、日本での滞在期間をたずねている。新宿区での居住年数をたずねたものではないが、日本にどの程度いるのかを見ておくことは、新宿区のまちづくりのためにも、まちへの愛着や関心という観点から参考になるものと考えられる。

先ほど見た在留資格の人数の多い上位10資格別に、区の『新宿区区民意識調査』を参考にし、滞在期間との関係を集約してみたものが下図である。在留資格は滞在期間が設けられている背景があることを忘れてはならないが、区の外国人住民で、日本での滞在期間が、「5年未満」は「留学」や「教育」で、「20年以上」は「特別永住者」で高くなっている。そのほか、在留資格をひとつずつみると、「技術・人文知識・国際業務」と「家族滞在」は、「5年未満」と「5年以上～10年未満」に分かれていたり、「永住者」も「10年以上～20年未満」と「20年以上」に分かれているような状況にある。

	n	5年未満	5年10年以上未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答
全体	1,275	584	253	218	213	7
	100.0	45.8	19.8	17.1	16.7	0.5
留学	370	343	25	1	0	1
	100.0	92.7	6.8	0.3	0.0	0.3
永住者	223	5	19	103	96	0
	100.0	2.2	8.5	46.2	43.0	0.0
技術・人文知識・国際業務	177	66	74	33	4	0
	100.0	37.3	41.8	18.6	2.3	0.0
家族滞在	86	35	34	13	3	1
	100.0	40.7	39.5	15.1	3.5	1.2
日本人の配偶者等	70	16	25	13	16	0
	100.0	22.9	35.7	18.6	22.9	0.0
特別永住者	62	1	3	3	55	0
	100.0	1.6	4.8	4.8	88.7	0.0
定住者	59	14	14	13	18	0
	100.0	23.7	23.7	22.0	30.5	0.0
技能	45	12	28	4	1	0
	100.0	26.7	62.2	8.9	2.2	0.0
教育	39	29	4	1	0	5
	100.0	74.4	10.3	2.6	0.0	12.8
経営・管理(投資・経営)	35	7	7	17	4	0
	100.0	20.0	20.0	48.6	11.4	0.0



#### ④国籍と年齢

先に在留資格のことを整理してきたが、国籍と年齢のことについて着目してみる。今回の回答者で、中国の人であれば「20～29歳」が56.4%を占めている、ベトナムの人であれば「20～29歳」が87.7%を占めている、ネパールの人であれば「20～29歳」が58.5%を占めていると見るものである。また、北米の人であれば「30～39歳」が42.2%、韓国・朝鮮の人であれば「40～49歳」が35.3%、タイの人であれば「40～49歳」が35.0%であるなど、各国籍でどのような年齢層の方が多かったかを見ることができる。また、これらの国籍別の年齢層がイメージしやすいよう、各国籍の平均年齢を概算で算出してみると、本調査に回答した外国人の平均年齢が37.2歳、中国が33.6歳、韓国・朝鮮が45.2歳、ベトナムが26.2歳、ネパールが30.1歳と国別の年齢構成の特徴がつかめる。

## 2 多文化共生社会に向けて

### ①新宿区への期待

先に総論的な視点で、区への期待を見ておく。

今回の調査で、「日本人も外国人もともに認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」が外国人住民で79.0%、日本人住民で62.5%と高く、期待の程度の違いはあるものの方向性は一致していると考えられる。

また、調査の項目やたずねた方は異なるため、平成19年度でたずねた結果の割合とは比較できないものの、外国人・日本人住民の双方で、期待する方向性の重みは変わっていないと再確認できる。

参考 平成19年度《期待する》の結果

	外国人住民	日本人住民
日本文化と外国文化の両方の特徴を活かしたまちになる	79.4%	53.8%
日本人も外国人もともに区民として尊重され住みやすいまちになる	88.0%	66.5%
さまざまな国の文化が融合し、新たな文化やビジネスを世界に発信する国際的な都市になる	78.8%	60.6%

(注) 平成19年度調査における「大いに期待する」「どちらかといえば期待する」の合計値

### ②つき合いの程度

期待するまちづくりを確認したところで、個々人の生活場面における接点について見てみる。

外国人住民調査では、日本人住民とつき合いが「ある」は44.0%となっている。また、つき合いがない理由は、「話しかけるきっかけがないから」(52.9%)、「つき合う場がないから」(33.9%)、「日本語を話せないから」(25.9%)である

一方、日本人住民では、外国人住民とつき合いが「ある」は36.2%となっている。現在、「全くつき合いがない」が44.9%であり、「近所にいない」が16.8%で、これらを合わせると約6割はつき合いのない状況にある。つき合いのある中では、「あいさつをする程度」が26.6%となっている。今後については、「あいさつをする程度」が27.5%に増え、「日常生活のことを話す」(4.1%)、「何か困った時に助け合う」(17.5%)、「友人として付き合う」(9.1%)、「家族同様に親しくつき合う」(1.7%)までを合計すると、約6割が何らかの形で接していきたいという考えを持っている。

しかし、日本人住民の外国人とのつき合いの実態と今後の意識のあり方は、平成19年度とは大きく変化していない。さらに、現在であれば「近所にいない」が、今後であれば「わからない」が、平成19年度に比べて若干増加している。つまり、平成19年度に外国人とのつき合いを希望していた日本人

住民の意識が、実際のつき合いまでには発展していなかったことがわかる。また周囲への無関心さも懸念されることから、近所づき合いの深まりがなかなかはかどらない姿を見ることができる。

### ③多文化共生のまちづくり推進のために自ら活動したいこと

次に、多文化共生のまちづくりに向けて、区民はどう動こうとしているのかに視点を変える。

外国人住民調査では、自ら活動したいこととして、「地域の日本人との話し合いを行う」(34.2%)と「気軽に話をする」(34.1%)が3割台、「自分たちの国の文化・ことば・料理などを紹介する」(28.9%)、「あいさつするなど声をかけ合う」(28.5%)、「地域の日本人との交流や、イベントを企画する」(28.1%)、「翻訳・通訳などのボランティア活動」(28.0%)、「日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)への参加・協力」(23.9%)、「生活習慣やルールを相談し合う」(23.1%)が2割台となっている。

一方、日本人住民調査では、「あいさつなど声をかけ合う」(58.6%)が最も高く、続く「気軽に話をする」(28.3%)と「地域の外国人との交流やイベントに参加する」(23.0%)が2割台であるものの、それ以外は2割に満たない。

あいさつについては、前述のつき合いのところでふれているので、ここでは、“話し合う”に着目してみる。

一概に割合を比べられるものではないが、外国人住民で最も高い「地域の日本人との話し合いを行う」に対して、日本人住民調査における「地域の外国人との話し合いを行う」は8.5%にとどまり、10項目中(「その他」、「特になし」、「無回答」を除く)8番目となっている。

また、日本人住民調査では、「生活習慣やルールを相談し合う」が今回15.4%で、平成19年度から約11ポイント減少している。しかし、近所に外国人が住むことについて感じることで、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」が47.6%、「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」が35.4%と、やはり生活習慣の違いを気にしている一面がある。

外国人住民における話し合いのニーズの高さや、日本人住民が外国人住民の生活習慣を気にしながらも、相談し合うことの自発性が今一つ足りないことなどを勘案すると、互いに文化的違いを認め、理解し合うためには、あいさつや気軽な話、イベントなどを契機としながら、“話し合う”というプロセスが大切であり、多様な機会や場の創出が必要であると考えられる。

例えば、外国人住民調査の自由意見をいくつか紹介すると、「町会または新宿区による旅行等のイベントを計画してほしい。そうすれば外国人と日本人との交流の機会を増やせる」、「日本人と外国人の交流活動を行い、地域清掃活動等、外国人の地域活動への参加を奨励する」、「地域活動を増やし、外国人にこのまちに住む日本人との日本語を使った交流の機会をもっと与える」など、関わりを持つとする前向きな意見が見られる。また、日本人住民調査でも、「マンションの住人を、地域活動に出席するよう誘導する」、「場所によっては町会という横のつながりがあり、積極的に接して、良い事悪い事の相談相手になってあげられたら、もっと身近から親しくなっていけるように思う」、「住民全体が町会等に参加しやすくなるように検討すべき」といった回答が寄せられている。

このような意見に耳を傾けて、住民、町会・自治会、ボランティア、NPOといった団体や関係機関、行政など、さまざまな主体が暮らしやすいまちづくりに向けた情報と目的を共有しながら、多様な機会や場の創出に向け、協働していく必要がある。

#### ④しんじゅく多文化共生プラザ

新宿区では、外国人と日本人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っている。プラザは、区の多文化共生社会を進めるうえでの中核拠点である。

しかし残念ながら、外国人住民調査では、「知っていたし利用したこともある」が5.8%、「知っていたが利用したことはない」が18.1%で、特に、「知っていたが利用したことはない」が平成19年度よりも約8ポイント減少した。一方、日本人住民でも、「知っていたが利用したことはない」は16.3%で、平成19年度よりも若干減少したが、外国人ほどの減少幅ではない。

外国人住民について、その一因を探るべく国籍別を見てみると、興味深いことがわかる（フランスについては、今回30人を下回ったことから、除いておく）。

平成19年度と同じ国籍別で比べてみたものが、下の表である。

平成19年度						平成27年度						平成19年度→ 平成27年度の変化		
	n	利 用 し て い た こ と も あ る	利 用 し て い た こ と は な い	は じ め て 知 っ た	無 回 答		n	利 用 し て い た こ と も あ る	利 用 し て い た こ と は な い	は じ め て 知 っ た	無 回 答	利 用 し て い た こ と も あ る	利 用 し て い た こ と は な い	は じ め て 知 っ た
全 体	907	59	233	597	18	全 体	1,275	74	231	946	24	-0.7	-7.6	8.4
	100.0	6.5	25.7	65.8	2.0		100.0	5.8	18.1	74.2	1.9			
韓国・朝鮮	313	24	106	177	6	韓国・朝鮮	323	22	71	222	8	-0.9	-11.9	12.2
	100.0	7.7	33.9	56.5	1.9		100.0	6.8	22.0	68.7	2.5			
中国	289	11	62	215	1	中国	466	28	92	338	8	2.2	-1.8	-1.9
	100.0	3.8	21.5	74.4	0.3		100.0	6.0	19.7	72.5	1.7			
北米	43	3	7	33	-	北米	45	1	8	36	-	-4.8	1.5	3.3
	100.0	7.0	16.3	76.7	-		100.0	2.2	17.8	80.0	-			
タイ	37	3	4	25	5	タイ	40	7	6	27	-	9.4	4.2	-0.1
	100.0	8.1	10.8	67.6	13.5		100.0	17.5	15.0	67.5	-			
フランス	35	1	7	26	1	フランス	26	-	2	24	-	-	-12.3	18.0
	100.0	2.9	20.0	74.3	2.9		100.0	-	7.7	92.3	-			
ミャンマー	35	1	6	25	3	ミャンマー	73	1	12	59	1	-1.5	-0.7	9.4
	100.0	2.9	17.1	71.4	8.6		100.0	1.4	16.4	80.8	1.4			
その他のアジア	55	8	15	32	-	その他のアジア	199	13	24	157	5	-8.0	-15.2	20.7
	100.0	14.5	27.3	58.2	-		100.0	6.5	12.1	78.9	2.5			
その他の欧州	43	3	10	29	1	その他の欧州	66	2	13	51	-	-4.0	-3.6	9.9
	100.0	7.0	23.3	67.4	2.3		100.0	3.0	19.7	77.3	-			
その他	34	1	11	22	-	その他	35	-	2	31	2	-	-26.7	23.9
	100.0	2.9	32.4	64.7	-		100.0	-	5.7	88.6	5.7			

今回、「はじめて知った」は全体で74.2%であり、いずれの国籍でも高くなっている。このこと自体は大きな課題である。ここで平成19年度からの変化に着目してみると、「はじめて知った」の増加が大きいのは、特に、「その他のアジア」、「その他」であることがわかる。平成19年度は、国籍を振り分けており、その際には、当時まだ人口の少なかった「ネパール」、「ベトナム」は「その他のアジア」に含まれていた。今回、「ネパール」は65人の回答が得られ、「ベトナム」は73人の回答が得られている。つまり、今回の「その他のアジア」の199人のうち138人は、「ネパール」か「ベトナム」の人である。

そして、この2つの国籍の認知度をみると、やはり「はじめて知った」は高く、前掲の表の「ミャンマー」も含め、現在の区の外国人住民人口で3番目から5番目に多い国籍で高くなっている。

平成27年度

	n	利用していたこともある	利用していたことはない	はじめて知った	無回答
ベトナム	73 100.0	1 1.4	7 9.6	64 87.7	1 1.4
ネパール	65 100.0	4 6.2	7 10.8	53 81.5	1 1.5

なお、「その他」も「はじめて知った」が高くなっているが、平成19年度の「その他」と今回の「その他」では、そこに含まれた国数が今回格段に増えており、やはり、国籍による違いが出てきている可能性が強いと考えられる。

依然としてどの国籍についても、もっとプラザを知ってもらふ必要はある。しかし、その中でも平成19年度とは異なる傾向が見られてきた。それは、住民の国籍構造の変化である。そのことを念頭に置きながら、情報提供時の多言語化の拡大や、より多くの人に平易な日本語を知ってもらふ対策を講じることも重要である。

### 3 情報、ことばについて

プラザの認知度との関係で、情報やことばについて少しふれたが、そのことについて深くみることにする。

今回の調査では、外国人住民調査で、区が多言語（ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語）で提供している外国人向けの情報で知っているものをたずねている。結果としては、「特にない」が50.3%で、何らかの情報を知っている人は44.1%と、なかなか行き届いていない状況がみられた。ここでも国籍別で見ると、多くの国籍で「特にない」は高くなっているが、例えば、「新宿生活スタートブック」や「外国語生活情報紙」では、「ベトナム」、「ネパール」の認知度は特に低く、プラザの認知度の結果と似た結果がみられる。

また、必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいことでは、「特にない」は12.0%にとどまり、何らかのニーズのある人は83.9%に上る。国籍別で見ると、「英語・中国語・韓国語以外の言語でも情報を伝える」は「ベトナム」、「ネパール」のほか、「ミャンマー」、「タイ」ではほかの国籍よりも高く、また、「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」は「ベトナム」、「ネパール」がほかの国籍よりも高いなど、これまで述べてきた傍証を得ることができる。

日本語に関して困っていることや不満なことが「ある」は58.6%と、平成19年度からの変化は大きくない。日本での滞在年数が長くなるほど「ある」は減少している。日本人住民調査から見ても、外国人が生活上困っていたり不満があると思われることは、「日本語が不自由」が40.0%で最も高く、外国人住民が直面していることを、肌で感じていると考えられる。

そして、外国人住民の日本語に困っているや不満なことの内容も、割合の違いはあるものの、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」（49.3%）、「役所や病院での説明を理解すること」（46.6%）が高く、順序としてはおおむね平成19年度と似た傾向にある。

なお、区で生活していくうえで知りたい情報は、全体で、「お祭り・スポーツなどのイベント」（36.9%）、「医療や健康保険」（35.9%）、「防災や地震」（35.7%）、「税金・年金」（32.5%）、「住まい」（28.9%）、「ごみの出し方やリサイクル方法」（22.0%）などとなっている。これらは、国籍別や日本での滞在年

数別でそれぞれニーズが異なる。また、外国人住民の自由意見では、「地域のイベント情報は日本語だけ。住んでいる地域のイベント情報が外国人にはわからない」、「生活に困りごとをもたらす一番大きな原因はコミュニケーションや意思疎通、つまり言葉の問題だと思う。言葉を練習する場所や方法がもっとほしい」など、ことばへの意見も多く寄せられている。日本語を学ぶ環境づくりへの工夫、言語や提供手段の検討を行い、ターゲットに応じた効果的な情報提供を模索していく必要がある。

#### 4 トラブル、差別や偏見について

外国人住民調査において、日本人とのトラブル経験は、平成19年度に比べて「特にない」が増加している。また、日本人住民調査でも、外国人とのトラブル経験は、平成19年度に比べて「特にない」が増加している。ただし、大久保、柏木ではトラブル経験のある人が多い状況もあり、地域性があることは含みおく必要がある。トラブルがある中では、外国人住民、日本人住民ともに「部屋からの声・物音のこと」、「ごみの出し方のルールのこと」が高い傾向にあることは平成19年度と変わっていない。お互いの生活習慣や文化を理解し、時には誤解があってもその誤解が解消されるよう、前述している情報提供方法の改善や話し合うことの機会創出などを、地道に進めていく必要がある。

差別や偏見については、外国人住民調査では、日本人から外国人に対する偏見や差別は《ない》が、平成19年度に比べて増加している。日本人調査では、《あると思う》が平成19年度に比べて減少したが5割強であり、「わからない」が増加している。外国人住民に対する偏見や差別が必ずしも皆無になったわけではなく、また、日本人住民も差別や偏見の存在を感じていると同時に、気づかない人も増えていることから、偏見や差別の解消や撤廃はまだ道半ばであると考えられる。

偏見や差別があると感じるのは、外国人住民調査でも、日本人住民調査でも、「家（住まい）を探すとき」が最も高く一致している。しかし、それ以外は傾向が異なり、外国人住民調査では、「仕事するとき」、「公的機関などの手続きするとき」などが続いている。また、「その他」の割合も比較的高く、その内容には、「お店や買い物で」、「会話の中で」、「警察官の対応」、「まちなかで」などがあげられている。これらのことは自由意見でも似たような回答は寄せられている。郵送のアンケート調査では、主に選択肢としての手続き面や制度などの要素に目が行きがちであるが、日常生活のごく身近な接触でも感じられていることを理解しておく必要がある。

#### 5 災害時・緊急時の対応について

平成19年度から平成27年度までの間には、東日本大震災が発生し、一般論として、災害等に対する意識は高まっているといわれている。今回の調査では、外国人住民に対して、災害時の準備をたずねた。「自宅や職場から避難する場所を確認している」が39.3%、「食べ物や飲み水を備えている」が37.8%、「家族と無事を確かめ合う方法を話し合っている」が28.1%となっている。一方で、「特に何もしていない」が26.0%見られた。「特に何もしていない」と回答した人の理由は、「何を準備すればいいかわからないから」が50.8%である。国籍別についてはそれぞれ国籍の人数が限られるのでふれられないが、日本での滞在期間別では、6ヵ月以上～1年未満、50年以上といった人数が少ない層を除くと、特に大きな違いはない。また、町会・自治会等で防災訓練が実施されていることの参加状況は、「知らないし、参加したことはない」が57.5%と高く、こちらも日本での滞在期間別でも大きな違いはない。つまり、全体的に防災への予防意識の高揚が必要であることがわかる。

新宿区に望む災害対策には、「避難場所の掲示等を多言語にする」(48.0%)が最も高く、「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」(44.5%)、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」(39.1%)、「地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする」(30.2%)、「地域の人同士が連絡・協力しやすいようにす

る」(28.9%)などの順で続いている。しかし、「避難場所の掲示等を多言語にする」、「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」としても、「何を準備すればいいかわからないから」では、その効果は限られたものになってしまう恐れがある。

これまでふれてきた情報提供の改善とともに、万が一の災害への備えと、災害が起きたときの対処方法を的確に伝えて自助力を高めてもらい、万一の事態に冷静な対処が行えるよう、地域の防災訓練への参加を促す必要がある。

# 第5部 新宿区多文化共生まちづくり会議からの提言

新宿区多文化共生まちづくり会議

新宿区多文化共生まちづくり会議は、新宿区が多文化共生のまちづくりを総合的かつ効果的に推進するために設置された区長の附属機関である。平成24年9月から平成26年8月までの第一期会議では、「外国にルーツを持つ子どもの教育環境の向上」「災害時における外国人支援の仕組みづくり」という2つの課題について審議し、区長への答申を行った。

平成26年9月に区長から委嘱を受けた第二期会議の現委員31名は、計8回の会議において、本調査に係る調査項目の検討や調査結果の分析等を行ってきた。調査結果からは、多くの住民が新宿区が多文化共生のまちづくりに期待していることや、地域における交流の必要性を感じていることがわかった一方で、偏見や差別意識の存在、地域での交流機会がないこと、区の行政サービスの認知度の低さなど、多くの課題も浮き彫りになった。今回の調査結果から得られた諸課題を解決するためには、区の実践とともに、地域に暮らす多文化共生の当事者である私たち「地域住民」の取り組みが必要となる。また、法制度の整備等について国や東京都に求めることも多い。

これらを踏まえ、国籍や民族等の異なる人々が互いに文化的違いを認め、理解し合い、地域社会の構成員として、共に生きていく「多文化共生のまち」の実現に期待し、以下のとおり提言する。

## 1 新宿区に求めること

### (1) 「ことば」の問題への支援

日本の生活の中で、「ことば」の問題で困っている外国人は多い。「ことば」の問題は、生活に必要な情報の取得、役所や病院での説明の理解、日常会話など、生活のあらゆる場面で直面する大きな課題である。「ことば」の問題で困っている外国人の一助となるよう、次のとおり取り組んでほしい。

#### ① 日本語学習支援事業の充実

新宿区日本語教室や新宿日本語ネットワークなどの既存の日本語学習支援事業の周知を積極的に行い受講者を増やす。また、子どもや就労者等、学習者の状況に応じた支援体制（内容・場所・時間）を検討し可能な限り幅広く対応する。また、地域で活動するNPO団体や市民団体とも連携し、より効果的な支援につなげる。

#### ② 医療や災害時等の言語支援

医療や災害時など、生命に関わる重要な場での言語支援体制を整備する。通訳の配置や、「指さし会話帳」などのツールの用意のほか、さまざまな案内の多言語化やわかりやすい日本語を使用すること。

### (2) 効果的な情報提供のために

区は多言語（ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語）の広報紙やホームページの運営など、外国人への情報発信を積極的に行っているが、それらが効果的に機能しているとはいえない。例えば「新宿生活スタートブック」は、平成21年度から住民登録窓口（当時は外国人登録窓口）で外国

一人ひとりに手渡しているため、それ以降に区内に居住した外国人であれば必ず一度は手にしているはずだが、その認知度は2割強にとどまっている。また近年、人口が著しく増加している「ベトナム」や「ネパール」などの、言語対応がされていない国籍の方の認知度は特に低くなっている。

スマートフォンやソーシャルネットワーキングサービス(以下、「SNS」という)の普及など、情報ツールが多様化するなか、区も時代に即した発信方法を随時実施・検証していく必要がある。区が有する情報ツールだけでなく、エスニックコミュニティ等の外国人コミュニティやメディアと連携した発信も効果的だろう。

また、本調査から得られた外国人のニーズに即した情報や、外国人に大きな影響を及ぼす法改正についてなど、優先度の高い情報を重点的に発信するなどの工夫も求められる。区から発信される情報がより多くの外国人に伝わるよう取り組んでほしい。

#### ① SNS(ツイッター・フェイスブック)による情報発信

SNSから情報を得ている外国人は多い。SNSの持つネットワーク性に着目し、広報紙やホームページと連動させた効果的な情報提供を行う。

#### ② 外国人の情報ニーズの把握

「医療」「防災」「税金」等の情報が多く求められているという結果は、それらの制度が十分に理解されていないことを示している。マイナンバー制度など、新たな制度がスタートするなか、継続的に外国人の情報ニーズを捉えるとともに、その制度の内容が十分に理解できるよう、わかりやすい情報提供を行う。

#### ③ 対応言語の拡大

日本語、英語、中国語、韓国語のほか、国籍別人口の動態や情報の内容を考慮し、状況に応じて対応言語を拡大する。また、日本語での提供にあたっては、日本語での情報が十分に理解できない人に対し、平易な表現などを用いたわかりやすい日本語に配慮すること。

### (3) しんじゅく多文化共生プラザの運営方法の見直し

しんじゅく多文化共生プラザ(以下、「プラザ」という)は、日本人と外国人との交流を促進し、互いの文化の理解を深める区の多文化共生の推進拠点として、平成17年9月に設置された施設である。プラザでは日本語教室や外国人相談コーナーの運営など、外国人にとって有益な取り組みを行っているが、認知度が低く、効果的に運営されているとはいえない。多文化共生のまちづくりを推進していくなかで、プラザの役割は極めて重要であることから、運営方法や施設の立地など、長期的な視点での見直しが必要である。

#### ① さまざまな主体との協働による施設運営

多くの人々がプラザを拠点として主体的な活動が行えるよう、地域住民、NPO団体、外国人コミュニティ団体、市民団体、大学等研究機関、留学生等との協働による施設運営体制を整備する。

#### ② 学生インターンの活用

新宿区には教育機関が多数あることから、教育機関と連携して学生インターンを受け入れる体制を整備し、プラザが行うさまざまな事業において彼らの力を活用していく。



### ③ イベント等を通じた認知度の向上

多文化共生や国際交流への関心の有無を問わずに参加できるようなイベントなど、プラザの認知度を向上させるような取組みを行う。また、特にプラザの認知度が低かった国籍に対応した言語のチラシ・パンフレット等を作成し、日本語学校をはじめそれらの国籍の外国人住民が集まる場所などに配架すること。

### ④ 施設設置場所について

現在の設置場所(歌舞伎町2-44-1ハイジア11階)は、利用者が来館しやすい環境ではない。ビルの11階という立地のほか、賃貸物件であるため施設利用についてもさまざまな制約がある。外国人住民が多い地域への移転や新たな拠点の設置など、利用者の利便性を考慮した設置場所の見直しを望む。

## (4) 偏見や差別の解消に向けて

日本人からの偏見や差別意識は依然として存在している。特に「家(住まい)を探すとき」は、偏見や差別を感じた経験があると回答した外国人の5割強、偏見や差別があると思うと回答した日本人の4割強に及んでおり、平成19年度の調査と同じく高い割合となっている。

区がリーダーシップを発揮し、偏見や差別の解消に向けた取組みを行う必要がある。

### ① 不動産業者・大家との連携

「家(住まい)を探すとき」に偏見や差別を感じた外国人が多かったことは、外国人であることを理由に入居を断られたなどの経験からきていると考えられる。不動産業界においても外国人への部屋の貸出しに関する取組みを始めているが、区と不動産業者・大家が連携し、外国人がより部屋を借りやすい環境をつくっていくことが求められる。

### ② 多文化共生意識の普及啓発

多文化共生意識と偏見や差別意識は大きく関連する。学校や地域イベント等を通じて、幅広い世代に向けた多文化共生意識の普及啓発に取り組むことによって偏見や差別の解消に繋げていく。

## (5) トラブル防止のために

区全体で見ると、日本人と外国人のトラブル経験の割合は日本人・外国人ともに平成19年度と比較して減っているが、日本人と外国人の接点が多い大久保地域・柏木地域での割合は依然として高い。また、生活習慣の違いによる心配事を日本人が抱えていることもわかった。

トラブルを内容別で見ると「ごみの出し方のルールのこと」「部屋からの声・物音のこと」の割合が高いが、これらの生活習慣に関するルールは、各々の国の文化等に大きく影響されるものであることや、新宿区に居住する住民の多様性や流動性の高さについて考慮する必要がある。また、トラブルの背景には日本人と外国人の間のコミュニケーションの問題も存在するだろう。これらのトラブルを検証するとともに、防止に向けた継続的かつ効果的な取組みを行う。

### ① ごみの出し方についての詳細なチラシ・パンフレットの作成

ごみの分別方法は国によってさまざまであるほか、日本国内においても自治体や地域によっ

て違いがある。現在、区ではごみの出し方に関する多言語でのチラシ・パンフレットを作成しているが、多様な人々が暮らす新宿区の特性を踏まえ、「なぜこのように分別するか」などの理由が説明されたチラシ・パンフレットを作成し、住民登録の窓口での配布など、区での生活をスタートする段階で周知すること。

#### ② 声・物音など住まいに関するトラブルを防ぐための仕組みづくり

住宅が密集していることや建物の構造などから、声・物音などの住まいに関するトラブルは日本人同士でも起こる。しかし、日本人と外国人の間では、コミュニケーションの問題や偏見からそのトラブルが大きくなってしまふことがある。区が不動産業者・大家と連携し、これらの住まいに関するトラブルを未然に防ぐための仕組みを整備すること。

### (6) 町会・自治会等への支援

地域における最も基礎的なコミュニティは町会・自治会である。母国とは異なる環境で生活する外国人が地域で孤立しないためには、地域コミュニティを介した顔の見える関係を構築する必要がある。一方、地域社会においては、外国人の力は地域の活性化につながるという利点となる。本調査において、「ことばの問題」や「きっかけがない」ために外国人が自ら進んで町会・自治会の地域活動に参加することが難しいことがわかった。そこで、外国人住民が町会・自治会の地域活動に参加するための「きっかけづくり」、参加しやすい「環境づくり」のために、区が町会・自治会への支援を行い、外国人の地域参加につなげていくことが求められる。

#### ① 町会・自治会等に関する情報提供

町会・自治会などの地域コミュニティの役割や意義などをまとめた多言語のチラシ・パンフレットを作成し、外国人に広く周知する。

#### ② 地域活動への外国人参加の促進

町会・自治会などが実施する地域活動のチラシの多言語化や通訳の手配等の支援を行い、外国人が地域活動に参加しやすい環境をつくる。

## 2 私たち「地域住民」にできること

### (1) 地域社会の一員として

「日本人」「外国人」を問わず、同じ地域で生活する私たち一人ひとりが地域社会を構成する一員であるという認識を共に持ちたい。例えば、災害時には日本人も外国人も共に被災者となり、国籍に関係なく互いに助け合う必要があるだろう。普段から共に汗をかき、知恵を出し合い、いざというときに助け合える関係をめざしていきたい。

### (2) 互いの違いを認め合う

日本人と外国人の間には生活習慣や文化などの「違い」があり、そのことに起因するトラブルが起きていることも事実である。その「違い」を知り、認め合うことから始め、課題を解決していけるような地域社会をつくっていきたい。

### 3 国や東京都に求めること

高度人材の受入れ開始や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催など、中長期的な外国人の増加が見込まれるなか、国や都はどのような将来像を描くのだろうか。現行の法制度のもとでは、支援が十分に受けられず弱い立場になっている人々が多くいることから、早急な法制度の整備や専門機関の設置が望まれる。また、子どもの教育環境の整備などの課題に対して期待することも多い。

新宿区などの外国人集住地域は、それぞれの状況にあわせ、独自の多文化共生施策を実施している。これらの実践を参考にするとともに、外国人と日本人という二項対立ではなく、共に地域を構成する一員であるという視点に立って検討してほしい。

### 4 おわりに

本提言では、区には日本語学習支援、情報発信、プラザの運営などすでに実施している事業をより効果的なものにする、国や都には多文化共生に係る専門機関の設置や法整備が望まれることを提言した。また、新宿区多文化共生まちづくり会議の委員一人ひとりも地域の一員であることから「私たち『地域住民』にできること」としてその決意を述べた。

今回の調査の対象としきれなかった就労や貧困、難民の方々に関する課題のほか、回答が得られなかったなかにも多くの課題が埋もれていると考えられる。また、第一期会議で審議した「外国にルーツを持つ子どもの教育環境の向上」や「災害時における外国人支援の仕組みづくり」のふたつの課題についても、区には提言の具体化に向けて引き続き取り組んでほしい。これらの課題一つひとつに地道に取り組むことで、私たちが理想とする「多文化共生のまち」に近づいていこう。

次回の調査では新宿区が、より住民の多様性を尊重し、多様であることを力とする「多文化共生のまち」として進化していることを期待したい。



---

平成27年度  
新宿区多文化共生実態調査  
概要版

印刷物作成番号
---------

2015-51-2614
--------------

平成27年12月発行

調査主体 新宿区  
調査委託 (株)サーベイリサーチセンター  
発行 新宿区 地域文化部 多文化共生推進課  
〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号  
電話 03(5273)3504

---

●この冊子は、地球環境保全推進のため、再生紙を使用しています。